

2007年度 先進理工学部要項

早稲田大学
先進理工学部

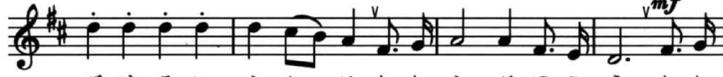
早稲田大学校歌

相馬 御風 作詞
東儀 鉄笛 作曲

Moderato



1 み や こ の せ い ほ ー く わ せ だ の も り に そ
2 と う ぎ い こ こ ん ー の ぶ ん か の う し お ひ
3 あ れ み よ か し こ ー の と き わ の も り は こ



び ゆ る い ら か ー は わ れ ら が ぼ こ う わ れ
と つ に う ず ま ー く だ い と う こ く の だ い つ
こ ろ の ふ る き ー と わ れ ら が ぼ こ う あ つ



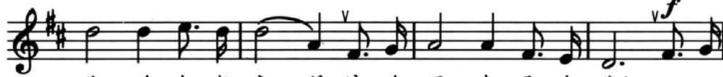
ら が ひ ご ろ の ほ う ふ を し る や し ん
な る ひ め い を に な い て た て や れ
ま り し き ん じ て ひ と は か わ れ ど あ お



し ら の せ い し て ん が く の ど く り つ げ ん
ぐ は お な じ き は き り そ う の ひ か り ず や い
ぎ



せ を わ す れ ぬ く ー お ん の り そ う か が
て も く お ん の り そ う の か げ は あ ま
こ え そ ろ え て そ ー ら も と ど ろ に わ れ



や く わ れ ら が ゆ く て を み よ や
ね く て ん か に か が や き し か ん } わ せ
ら が ぼ こ う の な お ば た た え ん



だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ

一

都の西北 早稲田の森に

聳ゆる堯はわれらが母校

われらが日ごろの抱負を知るや

進取の精神学の独立

現世を忘れぬ 久遠の理想

かがやくわれらが行手を見よや

わせだ わせだ わせだ わせだ

わせだ わせだ わせだ

二

東西古今の文化のうしほ

一つに渦巻く大島国の

大なる使命を担ひて立てる

われらが行手は窮り知らず

やがても久遠の理想の影は

あまねく天下に輝き布かん

わせだ わせだ わせだ わせだ

わせだ わせだ わせだ

三

あれ見よかしこの常盤の森は

心のふるさとわれらが母校

集まり散じて人は変れど

仰ぐは同じき理想の光

いざ声そろへて 空もどろろに

われらが母校の名をばたたへん

わせだ わせだ わせだ わせだ

わせだ わせだ わせだ

紺碧の空

住 治男 作詞
古関 裕而 作曲

The musical score is written on six staves in G major (one sharp) and 2/4 time. It features various dynamics including *mf*, *f*, *mp*, *cresc.*, *ff*, and *f*. The lyrics are written below the notes.

こん べき の そーら あおぐに ちりん
こうきあま ねき でんどう の もと
すぐりし せーいーえい とうしはー
もーえーてりそ うの おうぎ をしむ
る も の われら わせだ わせ
だ は しゃは しゃ わせだ

一.

紺碧の空 仰ぐ日輪

光輝あまねき 伝統のもと

すぐりし精鋭 闘志は燃えて

理想の王座を占むる者 われ等

早稲田 早稲田

覇者 覇者 早稲田

二.

青春の時 望む栄光

威力敵無き 精華の誇

見よこの陣頭 歓喜あふれて

理想の王座を占むる者 われ等

早稲田 早稲田

覇者 覇者 早稲田

早稲田の栄光

岩崎 巖 作詞
西條 八十 補
芥川也寸志 作曲

♩ = 104



えーい こうは みどりのかぜに はなひらく



わかきひのうた かさねきしれきしとうとく



うけつぎて一かがやくわせだわせ



だわせだわれらのわせだ

一.

栄光はみどりの風に

花ひらく若き日の歌

重ね来し 歴史尊く

承け継ぎて輝く早稲田

早稲田 早稲田 我らの早稲田

二.

ふり仰ぐ時計の塔に

青春の眸は澄みて

雲と湧く 文化の理想

担い立つ 我等たくまし

早稲田 早稲田 我らの早稲田

三.

昂然と高張る胸に

伝統の息吹通いて

翻えず 校旗の紅に

感激の血潮は沸る

早稲田 早稲田 我らの早稲田

四.

先哲の面影偲ぶ

なつかしき真理の杜を

彩るは 七色の虹

とこしえに輝く 早稲田

早稲田 早稲田 我らの早稲田

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的な事項を収録したものであり、卒業時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

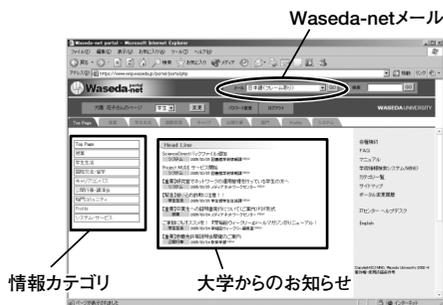
なお、本学ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。アクセス方法は次ページの通りなので、必要事項は常時確認すること。

Waseda-netポータル/Waseda-netメール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この「ポータル（玄関）」からログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報を得ることができる（授業の科目登録、試験、レポートなど履修に関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。

Waseda-netメールはWebブラウザがあれば、どこでも利用できるWebメールサービス。このアドレスは卒業してからも使用できる。

<https://www.wnp.waseda.jp>



ログインには、入学時に登録手続きを行うWaseda-netのIDとパスワードが必要。

理工系学生ページ

「理工系学生ページ」は、理工学術院が授業支援などのために独自に作成しているページ。Waseda-netポータルにログインし、左メニューから「理工系学生ページ」を選択して参照する。このページでは、科目登録結果、休講情報などの個人向けの情報を閲覧することができる。

最低でも週に1回はチェックすること。



理工系学生ページ

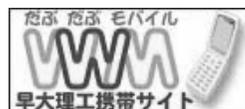
理工学術院ホームページ

理工学術院から発信される各種情報を掲載している。科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。

<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

携帯電話対応Webサイト

携帯電話対応Webサイト「WWWモバイル」を開設している。理工学術院からの連絡や休講情報、講演会情報、端末室の利用状況などを携帯電話を利用して時間や場所を問わず参照することが可能。休講情報を参照するためにはアクセス・コードが必要。アクセス・コードは「理工系学生ページ」で確認すること。



携帯電話対応Webサイト「WWWモバイル」のQRコード

CONTENTS

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

I	先進理工学部の特徴	1
II	先進理工学部の沿革と概要	3
III	先進理工学部要項	9
1	単位制	9
2	学位・卒業	9
3	学費の納入と抹籍	9
4	学科目の系列	11
5	A1群科目（複合領域科目）	14
6	A2群科目（外国語科目）	26
7	B群科目（数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目）	30
8	C群科目（専門教育科目）	34
9	D群科目（保健体育・自主挑戦科目）	34
10	他学科・他学部・他学術院等設置科目の聴講	36
11	学科別C群科目配当表および学修案内	40
	物理学科	40
	応用物理学科	44
	化学・生命化学科	48
	応用化学科	51
	生命医科学科	55
	電気・情報生命工学科	58
12	教員免許状の取得方法	64
13	履修科目の登録	78
14	授業時間帯	78
15	試験	78
16	成績の表示	79
17	転科試験	79
18	復学者，再入学者，学士入学者の履修方法	80
19	科目等履修生・外国学生・帰国生	81

IV 学生生活 83

1	学生の手帖 (Compass)	83
2	理工学術院および先進理工学部ホームページ	83
3	学籍番号	83
4	クラス担任制度	83
5	学生相談	84
6	大学院への進学	86
7	就職	86
8	学生証	87
9	各種証明書類の交付	88
10	各種願・届の提出	89
11	奨学金制度	90
12	掲示	91
13	教室・共通ゼミ室の使用	93
14	学生の課外活動	93
15	安全管理	94
16	海外留学等	95
17	理工リエゾンオフィス	96
18	禁煙キャンパス	97
19	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	97
20	理工学図書館・学生読書室	97
21	LL・MM教室	99
22	コンピュータ・ルーム	99
23	実験施設紹介	100
24	総合健康教育センター大久保分室	102
25	交通機関のストライキと授業	104
26	気象警報の発表と授業休講・試験延期等の措置	104

V 付録 107

1	早稲田大学学則 (抜粋)	107
2	早分かりURL・電話番号	111
3	キャンパスマップ	112
4	時間割作成用紙	114

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

I

先進理工学部の特徴

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

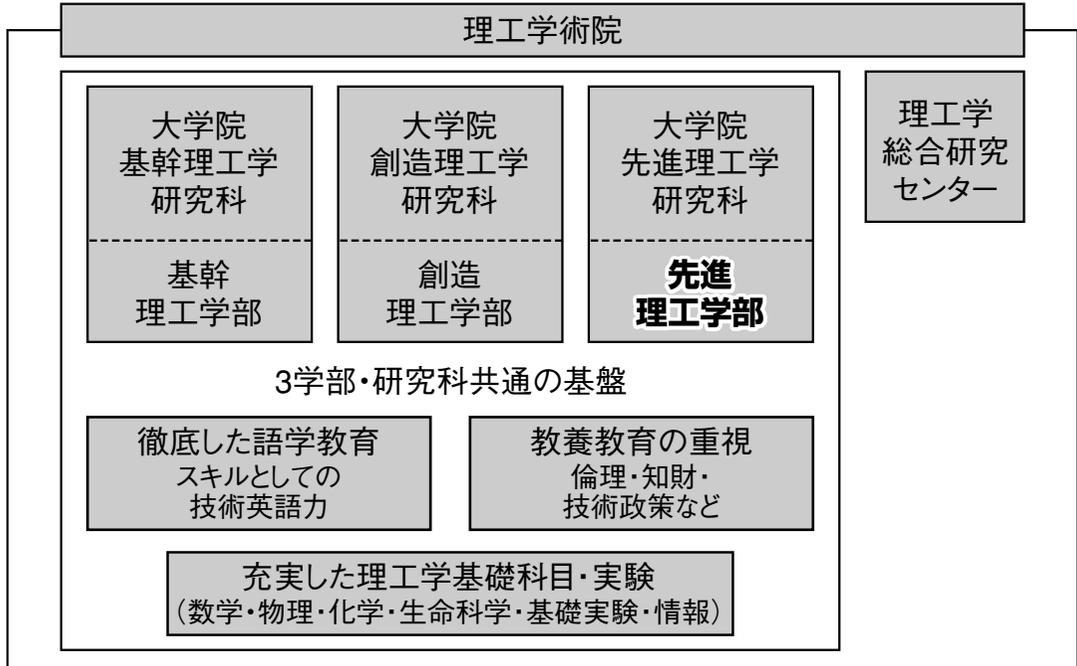
先進理工学部には、「物質」「生命」「システム」などのキーワードのもとに、次の6学科、物理学科、応用物理学科、化学・生命化学科、応用化学科、生命医科学科、電気・情報生命工学科、がおかれているが、伝統・定評ある本学理工系教育を継承しつつ、新しい時代に即した効果的な教育研究を推進する基礎と応用の融合を体系的に構築することを目指している。本学部の理念は、自然科学（物理学・化学・生命科学）を基礎とし、先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指した広範な理工学分野への展開にあり、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、常に世界最高水準の教育研究拠点として本学理工系の教育研究を先導することを目的としている。

学部教育課程では、確実な基礎力の修得と先進領域への展開を通して第一線級の若手研究者・技術者の育成を目指した編成がなされている。まず、物理学・化学・生命科学・数学・情報などの「共通基礎」と、各学科の専門分野に応じた対象と方法論の両面に関する「専門基礎」を厚く確実に修得することになる。これらを基に、高学年次には、十分な個別指導の下、先端的な学際分野を学習できる機会が数多く設けられている。

先進理工学部では、次代の科学技術を担う若手研究者の育成に特に力を入れており、そのための環境の整備に努めている。その中で、また研究者・技術者としての経験と実績を積み自信を持つうえでも、大学院博士課程の重要性は大きい。大学院進学に関連しては学内推薦制度（後述）の他、「大学院科目の先取り履修制度」や「飛び級制度」も設けられているので大いに活用してもらいたい。

次代を担う有為の人材として期待されている皆さんには、常に先を見据えた着実な学習に努めるとともに、大学生としての生活も大いに楽しんでもらいたい。先進的な教員、研究、教育、環境に触れ、自らの個性を存分に伸ばし、能力を発揮してもらいたい。

〈理工学術院 組織構成〉



I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

II

先進理工学部の沿革と概要

創立者大隈重信が理工系の人材を養成する必要を痛感して、私学にとって不可能と思われていた理工科の新設を決定したのは明治41年(1908)2月であり、早稲田大学理工学部は日本の私立大学の理工系学部教育機関としては最も古い歴史を誇っている。明治45年(1912)第1回卒業生37人を世に送って以来、今日までに多数の人びとが学窓を巣立ち、社会の多方面の分野で活躍してきた。

以下は本学部の略史である。

沿革

- 1882年10月(明治15年) 東京専門学校創設, 大隈英麿校長就任
- 1887年 9月(明治20年) 大隈英麿退任, 前島密校長就任
- 1890年 7月(明治23年) 前島密退任, 鳩山和夫校長就任
- 1902年10月(明治35年) 早稲田大学開校 大学部, 専門部, 高等予科, 研究科を設置
- 1907年 4月(明治40年) 大隈重信総長, 高田早苗学長就任
- 1908年 2月(明治41年) 理工科を新設し, 機械, 採鉱, 電気, 土木, 建築, 応用化学の6学科を漸次設置することを決定
 - 4月 機械, 電気の2学科の予科開設
 - 9月 阪田貞一理工科々長就任
- 1909年 2月(明治42年) 前記の6学科設置の計画に冶金学科を加えて7学科とする
 - 4月 採鉱, 建築両学科の予科開設
 - 9月 機械, 電気両学科の本科授業開設
- 1910年 9月(明治43年) 採鉱, 建築両学科の本科授業開設
- 1911年 5月(明治44年) 早稲田工手学校開設
 - 恩賜記念館竣工
- 1915年 8月(大正4年) 高田早苗退任, 天野為之学長就任
- 1916年 4月(大正5年) 応用化学科予科開設
 - 9月 阪田貞一理工科々長退任, 浅野応輔就任
- 1917年 2月(大正6年) 採鉱学科を採鉱冶金学科と改称
 - 8月 天野為之学長退任
 - 9月 応用化学本科の授業開設
- 1918年10月(大正7年) 平沼淑郎学長就任
- 1920年 4月(大正9年) 新大学令による大学となり, 理工科を理工学部と改称 科長浅野応輔が学部長となる
- 1921年10月(大正10年) 平沼学長退任, 塩沢昌貞学長就任, 浅野学部長退任, 山本忠興理工学部長就任
- 1922年 1月(大正11年) 大隈重信薨去
- 1923年 5月(大正12年) 学長制廃止, 高田早苗総長就任
- 1927年10月(昭和2年) 大隈記念大講堂落成
- 1928年 4月(昭和3年) 早稲田高等工学校設置
 - 10月 演劇博物館開館
- 1931年 6月(昭和6年) 高田総長退任, 田中穂積総長就任

I	特徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付録

I 特徴	1935年 4月(昭和10年)	各学科に工業経営分科開設
II 沿革と概要	1938年 4月(昭和13年)	応用金属学科開設, 鋳物研究所開設
III 学部要項	1939年 4月(昭和14年)	専門部工科開設
IV 学生生活	1940年 4月(昭和15年)	理工学部研究所設置(1943年(昭和18年)改組, 理工学研究所となる)
V 付録	1942年 4月(昭和17年)	電気工学科の第2分科が電気通信学科として独立
	10月	応用化学科に石油分科新設(1943年(昭和18年)4月石油工学科として独立, 1946年(昭和21年)4月燃料化学科と改称)
	1943年 4月(昭和18年)	工業経営学科及び土木工学科設置
	10月	山本学部長退任, 内藤多仲理工学部長就任
	1944年 9月(昭和19年)	田中総長逝去, 中野登美雄総長就任
	1946年 1月(昭和21年)	中野総長退任, 林癸未夫総長事務取扱に就任
	4月	早稲田工業学校開校(工手学校は1948年(昭和23年)11月廃校)
	6月	島田孝一総長就任
	10月	内藤学部長退任, 山本研一理工学部長就任
	1948年 4月(昭和23年)	早稲田工業学校を新制工業高等学校に改組
	1949年 4月(昭和24年)	新制早稲田大学開設(11学部)
		第一理工学部には機械, 電気, 鉱山, 建築, 応用化学, 金属, 電気通信, 工業経営, 土木, 応用物理, 数学の11学科,
		第二理工学部には, 機械, 電気, 建築, 土木の4学科を設置
		山本研一第一理工学部長, 堤秀夫第二理工学部長就任
	10月	堤秀夫第一理工学部長, 帆足竹治第二理工学部長就任
	1951年 4月(昭和26年)	新制早稲田大学大学院6研究科設置(修士課程)
		工学研究科には機械工学, 電気工学, 建設工学, 鉱山及金属工学, 応用化学の5専攻を設置
	10月	専門部及び高等工学校廃止
		伊原貞敏第一理工学部長就任, 帆足竹治第二理工学部長再任
	1953年 4月(昭和28年)	大学院6研究科に博士課程を設置
	1954年 4月(昭和29年)	工学研究科修士課程に応用物理学専攻を設置
	9月	島田総長退任, 大浜信泉総長就任
		青木楠男第一理工学部長, 木村幸一第二理工学部長就任
	1956年 2月(昭和31年)	生産研究所設置(1975年(昭和50年)4月システム科学研究所と改称)
	9月	高木純一第一理工学部長, 広田友義第二理工学部長就任
	1957年10月(昭和32年)	早稲田大学創立75周年
	1958年 4月(昭和33年)	理工学部創立50周年
	9月	大浜信泉総長再任, 高木純一第一理工学部長, 広田友義第二理工学部長再任
	1960年 9月(昭和35年)	難波正人第一理工学部長, 鶴田明第二理工学部長就任
	1961年 4月(昭和36年)	鉱山学科を資源工学科と名称変更, 大学院研究科を数学専攻設置に伴い理工学研究科と名称変更

- 1962年 9月(昭和37年) 大浜信泉総長再任, 難波正人第一理工学部長, 鶴田明第二理工学部長再任
10月 早稲田大学創立80周年
- 1963年 9月(昭和38年) 大久保キャンパス新校舎第一期工事完成
- 1964年 4月(昭和39年) 産業技術専修学校開設
9月 難波正人第一理工学部長(兼第二理工学部長)再任
- 1965年 3月(昭和40年) 大久保キャンパス新校舎第二期工事完成
4月 物理学科開設
- 1966年 5月(昭和41年) 大浜信泉総長退任, 阿部賢一総長代行就任
9月 阿部賢一総長就任, 難波正人第一理工学部長(兼第二理工学部長)再任
- 1967年 3月(昭和42年) 大久保キャンパス新校舎第三期工事完成
4月 理工学部全学科の移転を完了
10月 村井資長理工学部長就任
- 1968年 4月(昭和43年) 第二理工学部廃止, 第一理工学部を理工学部と名称変更, 工業高等学校廃止
6月 阿部賢一総長退任, 時子山常三郎総長就任
9月 村井資長理工学部長再任
- 1969年 7月(昭和44年) 村井資長学部長退任, 吉阪隆正理工学部長就任
- 1970年 9月(昭和45年) 吉阪隆正理工学部長再任
10月 時子山常三郎総長退任, 村井資長総長就任
- 1972年 4月(昭和47年) 電気通信学科を電子通信学科と名称変更
9月 平嶋政治理工学部長就任
- 1973年 4月(昭和48年) 化学科開設
- 1974年 9月(昭和49年) 平嶋政治理工学部長再任
10月 村井資長総長再任
- 1976年 9月(昭和51年) 村上博智理工学部長就任
- 1978年 4月(昭和53年) 産業技術専修学校を専門学校に改組
9月 村上博智理工学部長再任
11月 村井資長総長退任, 清水司総長就任
- 1979年 3月(昭和54年) 65号館竣工(化学系研究室等及び小倉記念館の移転完了)
- 1980年 9月(昭和55年) 加藤忠蔵理工学部長就任
- 1982年 4月(昭和57年) 理工学部一般高校推薦入学制度開始
9月 加藤忠蔵理工学部長再任
10月 早稲田大学創立100周年
11月 清水司総長退任, 西原春夫総長就任
- 1984年 9月(昭和59年) 加藤一郎理工学部長就任
- 1986年 9月(昭和61年) 加藤一郎理工学部長再任
11月 西原春夫総長再任
- 1987年 4月(昭和62年) 金属工学科を材料工学科と名称変更
- 1988年 4月(昭和63年) 理工学部創立80周年

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

I 特徴	9月	平山博理工学部長就任
II 沿革と概要	10月	鋳物研究所を各務記念材料技術研究所と改称
III 学部要項	1990年 9月(平成2年)	加藤榮一理工学部長就任
IV 学生生活	11月	西原春夫総長退任, 小山宙丸総長就任
V 付録	1991年 4月(平成3年)	情報学科開設
	1992年 4月(平成4年)	数学オリンピック成績優秀者に対する特別選抜入試制度実施
	9月	宇佐美昭次理工学部長就任
	1993年 3月(平成5年)	理工系新棟(55号館)完成
	4月	理工学研究所を理工学総合研究センターに改組
	1994年 2月(平成6年)	理工学部学生ラウンジ完成
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	小山宙丸総長退任, 奥島孝康総長就任
	1996年 4月(平成8年)	電気工学科を電気電子情報工学科と名称変更。 工業経営学科を経営システム工学科と名称変更
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	1997年 4月(平成9年)	電子通信学科を電子・情報通信学科と名称変更
	12月	ハイテクリサーチセンター竣工
	1998年 4月(平成10年)	理工学部創立90周年 資源工学科を環境資源工学科と名称変更 材料工学科を物質開発工学科と名称変更 数学科を数理科学科と名称変更
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	奥島孝康総長再任
	2000年 9月(平成12年)	尾島俊雄理工学部長就任
	2002年 4月(平成14年)	創成入試(AO方式)制度実施
	9月	足立恒雄理工学部長就任
	11月	奥島孝康総長退任, 白井克彦総長就任
	2003年 4月(平成15年)	土木工学科を社会環境工学科と名称変更 電気電子情報工学科, 電子・情報通信学科, 情報学科を 電気・情報生命工学科, コンピュータ・ネットワーク工学科に再編
	9月	「特色ある大学教育支援プログラム(COL)」 (マレーシア) ツイニング(プログラム)による国際化への積極的取組 採択 (13大学共同)
	2004年 6月(平成16年)	経営システム工学科が日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education)の認定を受ける
	9月	足立恒雄理工学部長再任 理工学術院設置
	2006年 9月(平成18年)	橋本周司理工学術院長就任 石山敦士先進理工学部長就任

理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し、理工学統合研究センターを設置

11月 白井克彦総長再任

2007年 4月(平成19年) 理工学部を基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部に再編
先進理工学部には物理学科、応用物理学科、化学・生命化学科、応用化学科、生命医科学科、電気・情報生命工学科を設置

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

概 要

物理学科は、素粒子・宇宙物理、物性（凝縮系）物理、生物物理を教育研究活動の3本の柱とし、新しい未開拓の分野に挑戦し続けている。なかでも、物理学の視点から生命現象を理解すべく生物物理学分野を本学科の主要な柱のひとつに据えていることは、大きな特色のひとつである。

まず物理学の基礎を体系的に学習し、その上で、とくに現在活発に発展しつつある最先端分野へと導いていく。このような分野には従来の分類には収まりきれないいわゆる学際領域も多いが、応用物理学科との緊密な協力関係の下、きわめて基礎的な分野から物理学が先端的な工業技術に応用されている工学的色彩の強い分野まで、自由に選択できるようなシステムを提供している。

応用物理学科は、卒業生が新規の技術開発に対応できるよう、物理学を身につけ、広い視野を持ち、既成概念に捕われない自由な発想が出来る人材の育成を目指している。物理学や応用数学の基礎をしっかりと習得し、高学年では固体物理学、光エレクトロニクス、システム・情報・制御工学など、現代のキーテクノロジーの基礎となっている多くの科目を幅広く学ぶことができる。

卒業研究においてはこれらの研究のプロセスに関与し、応用物理学的手法を身につけていくことができる。もちろん、学部教育の過程で基礎物理学に興味を持った学生にはその分野での研究の基礎を学べるように卒業研究において物理学科の分野を選択することができるのも特徴である。

化学・生命化学科は物理化学、無機化学、有機化学、生命化学を柱として教育を行っている。「化学」は、物質の合成、物質の反応、物質の機能等を分子レベルで追究する学問であり、これまで医薬品、合成繊維、プラスチックなど多くの有用な物質を生み出してきた反面、それらの物質のいくつかにより薬害や公害などの問題を引き起こしたことも事実である。21世紀の「化学」には、環境への負荷を考慮した上で、世の中に役立つ物質を作り出す高度な技術が求められている。そのために、単に従来の知識や技術を踏襲するのではなく、原子・分子から構成される物質が織りなす様々な現象を解明するための新しい方法論の確立と、それに基づく新しい技術の開発が「化学」に求められている。化学・生命化学科はこのような要求に応えることのできる創造性豊かな人材の育成を教育の目標にしている。

応用化学科は、物理化学、無機化学、有機化学、化学工学を柱とする基礎を講義、演習、実験によって習得するカリキュラムを根幹としている。これらを基礎として、セラミックス、プラスチック、エネルギー変換、食品、医薬、電子材料など、専門分野に関する知識はもちろん、原子・分子の世界からナノ・バイオ・生命・地球環境にわたる幅広い学際領域に関連する知識を習得する。これらの教育を通して、化

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

学を主軸として社会に実践的に貢献できる人材の養成を行う。さらに、反応プロセスや製造プロセスを最適設計できる人材の社会的要請も高いことから、そうした人材の養成にも対応している。これらに加えて、科学技術者倫理やリスクマネジメントなど次世代を担う人材として身につけておくべき研究者、技術者としての素養を修得し、科学・工学に対して十分なりテラシーを育成する。

生命医科学科は、分子やナノレベルで事象を捉える学問である物理と化学を基盤とし、主に分子生物学を中心に生命現象を理解しながら生命科学ならびに生命工学の知識を身につける。また、医療等への応用を指向しつつ、理工系分野や生物学を基礎として持つ融合分野の研究と教育を特色とする。理工系の学問を共通基盤とすることにより、従来の学術世界にとどまる生命科学を脱却し、実用に耐えうる高い目標設定の中で、時代の要請に応えられる理工系人材の育成を目標としている。

電気・情報生命工学科は、“情報”、“エネルギー”、“ナノエレクトロニクス”などだけでなく“生命”もその教育・研究の柱に据えて有機的に結び付け教育・研究を遂行する。生命と既存学問領域の関係で、現在最も一般的に行われているアプローチは化学の視点から、あるいは物理の視点からのそれであろうが、本学科は“情報”、“エネルギー”、“ナノエレクトロニクス”と“生命”という視点から教育・研究を明示的に行う学科の先駆けとなっている。

III

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

先進理工学部要項

1	単位制	1. 単位制
2	学位・卒業	2. 学位・卒業
3	学費の納入と抹籍	3. 学費
4	学科目の系列	4. 学科目系列
5	A1群科目（複合領域科目）	5. A1群科目
6	A2群科目（外国語科目）	6. A2群科目
7	B群科目（数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目）	7. B群科目
8	C群科目（専門教育科目）	8. C群科目
9	D群科目（保健体育・自主挑戦科目）	9. D群科目
10	他学科・他学部・他学術院等設置科目の聴講	10. 他学部聴講
11	学科別C群科目配当表および学修案内	11. 学科別案内 (C群科目)
	物理学科	物理
	応用物理学科	応物
	化学・生命化学科	化学
	応用化学科	応化
	生命医科学科	生医
	電気・情報生命工学科	電生
12	教員免許状の取得方法	12. 教職免許
13	履修科目の登録	13. 科目登録
14	授業時間帯	14. 授業時間帯
15	試験	15. 試験
16	成績の表示	16. 成績の表示
17	転科試験	17. 転科試験
18	復学者，再入学者，学士入学者の履修方法	18. 復学者， 再入学者等
19	科目等履修生（一般履修生・委託履修生）・外国学生・帰国生	19. 科目等履修生 外国学生等

1 単位制

大学では、単位制が採用されている。単位制とは、一定の基準にしたがって学科目を履修し、所定の試験に合格することによって単位を修得し、総単位数が所定の数に達することによって学士の学位が与えられる制度である。

各学科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、計算される。

2 学位・卒業

本学部では、4年以上在学し、所定の卒業必要単位数以上を修得した者を卒業とし、学士の学位を与える。ただし、在学年数は8年（学士入学者は4年）を超えることはできない。

なお、本学部の卒業年月日は、当該年度3月15日付である。

修業年限内に、一部の学科目が単位未修得のため卒業できなかった者が、次の基準に該当した場合は、指導教員の推薦の上、次年度の前期終了後（9月15日付）に卒業することができる。

- ① すでに履修した学科目につき、未受験または不合格のため卒業できなかった者が、次年度の前期中に当該学科目を履修した上で試験に合格した場合。
- ② 履修しなかった学科目につき、次年度の前期に履修の上、試験に合格した場合。ただし、原則として前期で講義の終了する学科目に限る。
- ③ 卒業論文、卒業研究の未提出または不合格の理由により卒業できなかった者が、次年度の前期に論文等を提出し、合格した場合。
- ④ 9月卒業で修得できる単位は、上記①、②、③を通算して20単位をもって限度とする。

3 学費の納入と抹籍

(1) 納入期日

学費は、それぞれの年度において、次の期日までに納入しなければならない。

	納入期限
前期学費	4月15日
後期学費	10月1日

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1 単位制

2 学位・卒業

3 学費

4 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部講

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者、
再入学者等

19. 科目等履修生
外国学生等

(2) 2007年度入学者学費

		1年度		2年度		3年度		4年度	
		入学時	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入	学 金	290,000	—	—	—	—	—	—	—
授	業 料	538,000	538,000	541,500	541,500	545,500	545,500	549,000	549,000
施	設 費	117,500	117,500	117,500	117,500	117,500	117,500	117,500	117,500
実験実習料	物 理 学 科	47,250	47,250	47,250	47,250	47,250	47,250	47,250	47,250
	応用物理学科								
	化学・生命化学科	52,250	52,250	55,500	55,500	56,250	56,250	57,000	57,000
	応用化学科	52,250	52,250	53,000	53,000	53,750	53,750	54,500	54,500
	電気・情報生命工学科	52,250	52,250	75,000	75,000	80,000	80,000	85,000	85,000
生命医科学科									
学生健康	保険組合費	12,000	—	—	—	—	—	—	—
校 友 会 費		—	—	—	—	—	—	—	40,000
合 計	物 理 学 科	1,004,750	702,750	706,250	706,250	710,250	710,250	713,750	753,750
	応用物理学科								
	化学・生命化学科	1,009,750	707,750	714,500	714,500	719,250	719,250	723,500	763,500
	応用化学科	1,009,750	707,750	712,000	712,000	716,750	716,750	721,000	761,000
	電気・情報生命工学科	1,009,750	707,750	734,000	734,000	743,000	743,000	751,500	791,500
生命医科学科									
年額合計	物 理 学 科	1,707,500		1,412,500		1,420,500		1,467,500	
	応用物理学科								
	化学・生命化学科	1,717,500		1,429,000		1,438,500		1,487,000	
	応用化学科	1,717,500		1,424,000		1,433,500		1,482,000	
	電気・情報生命工学科	1,717,500		1,468,000		1,486,000		1,543,000	

※初年度後期の実験実習料には、TOEIC受験料3,000円を含む。 単位 (円)
 ※教職免許状を取得しようとする場合は、教職課程科目聴講料10,000円が別に必要となる。
 ※特定のオープン科目を履修すると、聴講料が別に必要となる。
 ※第4年度の後期に校友会費40,000円(卒業後10年分)が必要となる。

学年延長の学費取り扱い

所定年限以上在学する学生の学費取り扱いについては、下記表を参照すること。

卒業必要単位合計からの 不足単位数	授業料	施設費	実験実習料
～4単位	4年次生所定額の50%	4年次生所定額	4年次生所定額
5～20単位	4年次生所定額の70%		
21単位以上	4年次生所定額		

※在籍中に休学・留学をした場合の学費については、理工学統合事務所まで問い合わせること。

(3) 5年生以上の実験実習料徴収対象学科目

学 科	実験実習料徴収対象学科目
物 理 学 科	実験の名称の付く学科目, 卒業研究
応 用 物 理 学 科	実験の名称の付く学科目, 卒業研究
化学・生命化学科	実験・実習の名称の付く学科目, 卒業論文
応 用 化 学 科	実験の名称の付く学科目, 卒業論文
生 命 医 学 科	実験・実習の名称の付く学科目, 卒業研究
電気・情報生命工学科	実験の名称の付く学科目, 卒業研究, プロジェクト研究

(4) 納入方法

学費等の納入方法は、事前に申請をした郵便局を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替となる。この口座は入学手続き時に申請をしたものである。

なお、事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので、必ず確認をすること。また、金融機関や口座等に変更が生じた場合は、すぐに理工学統合事務所に申し出ること。

学費は、それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが、特別な事情でそれが不可能な場合は、理工学統合事務所に相談すること。

(5) 抹籍

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり、最後に学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数および成績の一部が無効となる。なお、特別な事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に退学を希望する場合は、理工学統合事務所に相談すること。

	納入期限	自動的に抹籍となる期日	退学とみなす期日
前期学費	4月15日	9月20日	3月31日
後期学費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

4 学科目の系列

本学部の学科目は、A群・B群・C群およびD群の4系列に大別され、その内容は以下のとおりである。なお、各群の内容に関しては後述する。

A 群	A1(複合領域科目), A2(外国語科目)
B 群	B1(数学), B2(自然科学), B3(実験・実習・制作), B4(情報関連科目)
C 群	専門教育科目
D 群	保健体育科目, 自主挑戦科目

A～D群に設置されている学科目には、以下の種別がある。

(1) 「卒業必要単位」に算入される科目

以下の科目があり、いずれも成績通知書に成績が記入される。

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された範囲から必ず所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない科目
選択科目	選択科目群から自由に選択し、所定単位を修得する科目

(2) 「卒業必要単位」に算入されない科目

自由科目	合格点を取れば単位が与えられ、成績通知書に記入されるが、卒業必要単位には算入されない科目
------	--

本学部の1学年は、前期・後期の2期に分かれ、それぞれ15週ずつ計30週からなっており、学科目はその授業期間により、前・後期を通じて行われる学科目（通年科目）、前期のみ行われる学科目（前期科目）、後期のみ行われる学科目（後期科目）に分かれる。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部履修

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 就職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者、
再入学者等

19. 科目専願修生
外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者 再入学者等
19. 科目等履修生 外国学生等

(3) 卒業に必要な単位数

学科別の所定単位の内訳は下表のとおりである。

系列 学科	A～C群の所定単位数													A～D群,その他から任意に選 択できる単位数 卒業必要単位数－ (A～C群所定単位数)	合計	学位	
	A群			B群				C群				D群					
	A1	A2	B1	B2		B3	B4	専門教育科目				選択任意					
	複合 領域 科目	英語	英語 又は 初修 数学	物理学	化学	生命 科学	実験 実習 制作	情報 関連 科目	必修	選択 必修	コース別 必修	選択	保健体育 ・自主挑 戦科目				
物理学科	16[1]	8	0	10	4	2[2]	9	－	41	20[6]	0	10	－	12	132	学士(理学)	
応用物理学科	16[1]	8	0	10	4	2[2]	9	－	45	16[6]	0	10	－	12	132	学士(工学)	
化学・生命化学科	16[1]	8	4	11	4	0	2	9	0[3]	49	0	0	20	－	13	136	学士(理学)
応用化学科	16[1]	8	4	8	4	0	0[3]	9	0[3]	52	0	2	19	－	14	136	学士(工学)
生命医科学科	16[1]	8	4	8	4	4	4	9	0[3]	52	0	0	12	－	15	136	学士(工学)または 学士(理学)
電気・情報生命工学科	16	8	4	10	4	2[4]	2	9	2[5]	19	3	0	43	－	13	135	学士(工学)

- [1] A1科目16単位の充足は複合領域科目だけでなく4単位までは初修外国語科目でも可能とする。
- [2] 化学と生命科学どちらかで2単位を取得する。
- [3] C群選択科目として設置する。
- [4] 化学未履修者は「化学B1」の前に「化学A」を履修することを推奨。
- [5] 2単位は「Cプログラミング」,又は「Javaプログラミング」の何れかを履修する。両方を履修した場合,残りはB4群選択科目として扱う。プログラム未経験者は「Cプログラミング入門」や「Javaプログラミング入門」を先に履修することを推奨。更に深く学びたい場合は「Cアプリケーション開発」を推奨。
- [6] 最小限の単位数であり,これを超えた履修分は選択科目の単位数に繰り入れられる。各自の専門に応じた科目群の履修を推奨する。

上表の中の「A～D群,その他から任意に選択できる単位数」〔卒業必要単位数－(A～C群の所定単位数)〕に算入できる科目系列・単位数は以下のとおりである。

- ・ A～C群科目系列で指定されている所定単位数を超えて,修得したA～C群科目の単位。
- ・ D群科目(保健体育・自主挑戦科目)は,4単位までを算入できる。
- ・ 他学科・他学部・他学術院聴講で修得した単位。(当該学科が上限単位を特に設定している場合は,その上限の単位数まで。)
- ・ オープン科目で修得した単位。(ただし,当該科目が卒業必要単位数に算入対象のものに限る。)
- ・ 自由科目は,卒業に必要な単位の中には算入できない。

(4) 学科・学年別科目修得標準単位数

学年	系列		学科		物理学科	応用物理学科	化学・生命科学	応用化学科	生命医科学科	電気情報生命工学科
	A群	B群	A1(複合領域科目)	A2(外国語科目)						
一 年	A群	A1(複合領域科目)	*a	*a	*a	*a	*a	*a	*a	*a
		A2(外国語科目)	4	4	6	6	6	8		
	B群	B1(数学)	10	10	11	8	8	10		
		B2(自然科学)	6	6	6	4	12	8		
		B3(実験・実習・制作)	6	6	6	6	6	6		
		B4(情報関連)						2		
	C群(専門教育科目)	必修	9	9	12	19	4	2		
		選択必修						3		
		選択	*c	*c	*c	*c	*c	*c		
	D群(保健体育自主挑戦科目)									
小計		35	35	41	43	36	39			
二 年	A群	A1(複合領域科目)	*a	*a	*a	*a	*a	*a	*a	
		A2(外国語科目)	4	4	6	6	6	4		
	B群	B1(数学)								
		B2(自然科学)								
		B3(実験・実習・制作)	3	3	3		3	3		
		B4(情報関連)								
	C群(専門教育科目)	必修	20	26	22	18	22	5		
		選択必修	4	2						
		選択	*c	*c	*c	*c	*c	*c		
	D群(保健体育自主挑戦科目)									
小計		33	35	31	24	31	12			
三 年	A群	A1(複合領域科目)	*a	*a	*a	*a	*a	*a	*a	
		A2(外国語科目)								
	B群	B1(数学)								
		B2(自然科学)								
		B3(実験・実習・制作)				3				
		B4(情報関連)								
	C群(専門教育科目)	必修	4	4	13	13	24	6		
		選択必修	16	14						
		選択	*c	*c	*c	*c	*c	*c		
	D群(保健体育自主挑戦科目)									
小計		22	18	13	16	24	6			
四 年	A群	A1(複合領域科目)	*a	*a	*a	*a	*a	*a	*a	
		A2(外国語科目)								
	B群	B1(数学)								
		B2(自然科学)								
		B3(実験・実習・制作)								
		B4(情報関連)								
	C群(専門教育科目)	必修	6	6	2	2	2	6		
		コース別必修				2				
		選択	*c	*c	*c	*c	*c	*c		
	D群(保健体育自主挑戦科目)									
小計		6	6	2	4	2	6			
合計	計 ①		94	94	87	87	93	63		
	*a印 計 ②		16	16	16	16	16	16		
	*c印 計 ③		10	10	20	19	12	43		
	卒業必要単位		132	132	136	136	136	135		

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内(C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者・再入学者等
- 19. 科目専門履修生・外国留学生等

(注1) 卒業必要単位数から①+②+③の合計単位数を差し引いた単位数は、卒業までにA群～D群のなかから、任意に選択履修し、単位を修得することができる。また、学科により、所属学科以外の学科目を聴講し、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができる。その詳細については「Ⅲ-10 他学科・他学部・他学術院等の聴講」を参照すること。

(注2) 各学科の専門選択科目(*c印)の履修方法については、「Ⅲ-11 学科別C群科目配当および学修案内」を参照し、各学科の条件・指導に従って、履修しなければならない。

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

前頁の表は、各学科別に各学年において修得すべき単位の標準を示したものである。この表中、選択科目については、その配当箇所* (a~c) 印を付し、合計欄にその最低所要単位数を示してある。各学科の指導により、各年度に配当されている学科目の中から適宜選択すること。

なお、本学部要項の学科目配当表によって履修することを原則とするが、諸般の事情により、緊急に学科目の新設、改廃などが必要とされた場合は、この学科目配当表を変更し、直ちに実施することがある。

(5) 大学院授業科目の先取り履修制度

学部・大学院一貫教育の観点から、学部4年生を対象に進学予定の研究科から指定された授業科目を先取り履修する制度を実施している。先取り履修し、修得した単位は、次年度に大学院に進学後、当該各学科の専攻・分野が定めた上限単位数の範囲内において、大学院の「修了に必要な単位(30単位)」として認定される。

	専攻名	先取り履修の 認定上限単位数
先進理工学研究科	物理学及応用物理学	10単位
	化学・生命化学	10単位
	応用化学	10単位
	生命医科学	10単位
	電気・情報生命	10単位
	生命理工学	10単位
	ナノ理工学	10単位

詳細な内容、手続き方法等については、年度始めに配布される『科目登録の手引き』を参照すること。

ただし、**大学院修士の教職専修免許の必要単位(24単位)には算入されないので注意すること。**

(6) 欠席届

- ① 本学部およびオープン教育センターで登録したすべての科目の授業および試験について、これらを欠席した場合は、欠席届を理工学統合事務所で取得の上、担当教員に直接提出すること。ただし実験科目については各実験室に提出すること(実験室によっては、別に指定用紙がある)。また、英語科目については理工系英語教育センターのホームページを参照してその指示に従うこと。
- ② 他学院開講科目については、当該箇所の欠席届を使用し、その箇所の手続方法に従うこと。
- ③ 欠席の事由が確認できるもの(診断書の写し等)を添付すること。

5 A1群科目(複合領域科目)

世界の政治・経済・社会・文化等の構造の大幅な変動や科学技術の飛躍的な進歩とともに価値観の多様化、流動化が進み、学問や研究のあり方も大きく転換しつつある。また、学生の関心や要望も従来とは異なり、卒業後の進路も多岐にわたっている。こうした状況をふまえて、理工系3学部では、多角的知識と総合的かつ自主的判断力を身につけると同時に、人文・社会科学系だけでなく、理工学系をも横断する複合的な視点から、多領域にまたがる新しい問題や複雑な現象に挑む能力を養うことをめざして、複合的領域科目を設置している。

複合的領域科目は、総合科目・特論科目・領域コース科目に区分され、以下頁の表のように配置されているが、その中から自己の選択に基づいて、4年間で所定の単位を取得しなければならない。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部開講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外留学生等

(1) 総合科目

現代社会における特定の重要な課題を、様々な学問領域から多角的に究明することによって、異なった学問領域相互の関連性を理解させ、現象の総合的把握の能力を養うとともに、創造的思考の養成に役立てようとするものである。これは半期2単位の科目で、低学年の間に履修することが望ましい。

(2) 特論科目

理工系の学生たちが複合的な視点から問題に取り組むことができるよう編成された科目群が用意されている。この中には、主として人文・社会科学系の基礎的な素養を身につけるための科目、科学技術をめぐる諸問題を複合的な視点から捉える科目、表現の問題を重視する芸術系の科目や実習、外国文化を主として扱う科目などが設置されている。特論科目は半期科目であるが、一部の实習科目については、週2時間、半期4単位となる。総合科目よりもレベルを高く設定しているため、関連する総合科目の学習をふまえて履修することが期待される。

(3) 知財・産業社会政策領域コース科目／国際文化領域コース科目

原則として両領域コースに進学する学生が選択する科目である。基礎演習は3年の後期、領域演習・卒業論文（領域コース）は4年で選択する。基礎演習は半期2単位、領域演習は通年4単位、卒業論文は2単位となっている。領域コースを選択する場合には、通常の単位のほかに、複合領域科目の中から領域コース科目8単位を含む一定以上を修得しなければならない。なお、領域コースについては、別途、各領域のウェブサイトや説明会等で配布するパンフレットを参照すること。

(注1) 学科目のあとに I, II を付してある学科目は、その順序に従って履修しなければならない（I の単位修得が確認できた後に、II の履修が可能となる）。

(注2) A, B のついている学科目は重複して履修してはならない（ただし、経済制度論 A, B, コンピューター・アート A, B については、この限りではない）。

(注3) 科目名の後に (1) (2) … を付してある学科目は重複して履修してはならない。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部講義

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者、
再入学者等

19. 科目専願修生
外国学生等

(4) 複合領域科目および領域コース

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内(C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、再入学者等
19. 科目等履修生、外留学生等

	総合科目			特論科目		
知的財産	技術革新と産業社会A 技術革新と産業社会B 新素材ビジネスと知的財産	知財のグローバル化 ーションと言語の多 様性 知的財産と技術経営 I 知的財産と技術経営 II	ロボット産業とイノ ベーション	企業の社会的責任(C SR)と利益相反 国際コンテンツビジ ネスと著作権 産学連携、ベンチャ ー起業の基礎 I	産学連携、ベンチャ ー起業の基礎 II 知的財産と起業 知的財産と経済	バイオ・イノベーショ ンとベンチャー ユビキタス社会にお けるIT知財
産業政策	開発協力論 企業と労働 I			企業活動と国際金融 企業金融論 企業と労働 II 雇用環境と労働 産業・技術移転論 産業構造論 I	産学連携 II 産業政策 情報化と社会経済 情報通信経済 デジタル家電の興亡 トランス・ボーダー企 業経営論	ニーズ型社会と新産 業創出 日本産業の将来設計 マルチメディア政策論 流通産業論 I 流通産業論 II
科学技術	医療と技術 科学と非科学 科学技術と危機管理	技術史 I シミュレーション技 術と文化 21世紀における科学 技術と社会		改善技術論 科学技術とコミュニ ケーション 技術開発論 技術倫理	技術史 II 実験の思想史 I 実験の思想史 II	暮らしの中の先端技術 リスクマネジメント論 科学技術政策論
心理・精神・認知	依存症と社会 環境心理学 産業社会のメンタル ヘルス ストレスと自殺	変革期の社会と心理		家族と子ども 社会病理学 I 社会病理学 II 心理学 I	心理学 II 心理療法 精神分析論 I 精神分析論 II	テクノストレス 日本企業とワークラ イフバランス 認知心理学 I 認知心理学 II
政治・経済・法律	企業行動と経営 現代経済の行動と変容			経営学 I 経営学 II 経済学 A I 経済学 A II 経済学 B I 経済学 B II 経済政策論 I 経済政策論 II	経済制度論 A I 経済制度論 A II 経済制度論 B I 経済制度論 B II ゲーム理論 現代企業論 憲法 I 憲法 II	国際経済論 I 国際経済論 II 消費者の経済学 統計学 I 統計学 II
環境・倫理・生命	環境と生物 I 環境政策と計画 I 国際保健政策と科学倫理	ものづくりと環境		環境アセスメント論 環境政策と計画 II 環境と生物 II	環境倫理 健康の生態学 自然生態調査論	情報倫理 生命倫理
歴史・社会・生活	高度情報化社会にお ける人間関係 高齢化社会の設計 社会参加とボランティア	社会システム工学 I 社会人類学 I 社会調査法 I	情報社会論 I 都市地域計画論 I	社会システム工学 II 社会人類学 II 社会調査法 II	情報社会論 II 都市地域計画論 II 複雑系と社会システム	歴史社会学 I 歴史社会学 II
芸術・思想・メディア	音と音楽の表現領域 科学と芸術 心・脳・ボディ 象徴の諸相 数理科学の思想史 生活空間の文化 日常と非日常のレト リック フラクティカルリー ズニング マスターズ・オブ・シ ネマ メディアリテラシー論	人文地理学 I 舞台芸術論 プレゼンテーション スキル 翻訳と文化	入門・外国語案内 各国語文化入門 (ドイツ語、フランス 語、中国語、スペイン 語、ロシア語)	インターメディア作 曲 I インターメディア作 曲 II 映像史 I 映像史 II 映像制作 音楽論 境界領域アート論 クロスメディアビジ ネス 芸術表現 I 芸術表現 II	現代マスコミ論 I 現代マスコミ論 II 語源研究 コンテンツマーケテ ィングリサーチ コンピュータアートA コンピュータアートB 3Dコンテンツの医 療・福祉応用 写真表現 心身問題研究 超臨場感システム概論	デジタル映像コンテ ンツビジネス論 デジタル映像コンテ ンツ概論 フィクション設計論 文化遺産のデジタル アーカイブ メディア産業論 I メディア産業論 II 物語研究 様相論理学 ラテン語文献基礎研 究 I ラテン語文献基礎研 究 II
文化・言語・地域	越境する文化 劇場と文化 「ことば」の世界 時代の青年像			過去の伝承 近代思想と現代 現代宗教論 I 現代宗教論 II 言語文化論	「こころ」と宇宙 人文地理学 II 都市と文化 東アジア文化研究 文化と科術・技術者	各国語圏文化論 (ドイツ語圏、フラン ス語圏、中国語圏、 スペイン語圏、ロシ ア語圏) 地域研究 (ドイツ、フランス、 中国、ロシア、アフリ カ、イスラム圏、東 ヨーロッパ、中南米、 英語文化圏)
領域による コース 科目 (3,4年)	基礎演習 演習 卒業論文(領域コース)※基礎演習は、3年次後期に履修のこと。					
	各領域の主な分野 — 知財・産業社会政策領域(知的財産、産業政策、科学技術政策/社会システム) 国際文化領域(文化、言語、地域)					

注)複合領域科目は、2007年度の理工系再編に伴い、再構成されている。そのため、上記の中には来年度以降開講される科目や、上記以外に新規に開講する科目も検討されているので、各年度に開講される科目については、シラバスを参照すること。

A1群科目配当表（総合科目）

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
ものづくりと環境	2	0	2						
科学技術と危機管理	2	2	0						
21世紀における科学技術と社会	2	0	2						
国際保健政策と科学倫理	2	0	2						
開発協力論	2	2	0						
現代経済の構造と変容	2	2	0						
企業行動と経営	2	0	2						
医療と技術	2	0	2						
高齢化社会の設計	2	2	0						
社会参加とボランティア	2	0	2						
変革期の社会と心理	2	2	0						
高度情報社会における人間関係	2	0	2						
ストレスと自殺	2	2	0						
依存症と社会	2	0	2						
プレゼンテーションスキル	2	0	2						
産業社会のメンタルヘルス	2	0	2						
知的財産と技術経営Ⅰ	2	2	0						
知的財産と技術経営Ⅱ	2	0	2						
技術史Ⅰ	2	2	0						
技術革新と産業社会A	2	2	0						
ロボット産業とイノベーション	2	0	2						
環境と生物Ⅰ	2	2	0						
環境政策と計画Ⅰ	2	2	0						
企業と労働Ⅰ	2	2	0						
社会人類学Ⅰ	2	2	0						
社会調査法Ⅰ	2	2	0						
都市地域計画論Ⅰ	2	2	0						
社会システム工学Ⅰ	2	2	0						
情報社会論Ⅰ	2	2	0						
環境心理学	2	2	0						
知財のグローバル化と言語の多様性	2	0	2						

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目登録後生 外国学生等

	学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数																	
			第1年度		第2年度		第3年度		第4年度											
			前	後	前	後	前	後	前	後										
I 特徴																				
II 沿革と概要																				
III 学部要項																				
IV 学生生活																				
V 付 録																				
1. 単位制	技術革新と産業社会B	2	0	2																
2. 学位・卒業	新素材ビジネスと知的財産	2	0	2																
3. 学 費	人文地理学 I	2	2	0																
4. 学 科 目 系 列	「ことば」の世界	2	2	0																
5. A1 群 科 目	越境する文化	2	0	2																
6. A2 群 科 目	翻訳と文化	2	0	2																
7. B 群 科 目	劇場と文化	2	2	0																
8. C 群 科 目	舞台芸術論	2	0	2																
9. D 群 科 目	時代の青年像	2	0	2																
10. 他学部受講	入門・外国語案内	2	2	0																
11. 学科別案内 (C群科目)	ドイツ語文化入門(1)	2	2	0																
物理	ドイツ語文化入門(2)	2	0	2																
応物	ドイツ語文化入門(3)	2	2	0																
化学	ドイツ語文化入門(4)	2	0	2																
応化	ドイツ語文化入門(5)	2	2	0																
生医	ドイツ語文化入門(6)	2	0	2																
電生	ドイツ語文化入門(7)	2	2	0																
12. 教職免許	ドイツ語文化入門(8)	2	0	2																
13. 科目登録	フランス語文化入門(1)	2	2	0																
14. 授業時間帯	フランス語文化入門(2)	2	0	2																
15. 試 験	フランス語文化入門(3)	2	2	0																
16. 成績の表示	フランス語文化入門(4)	2	0	2																
17. 転科試験	フランス語文化入門(5)	2	2	0																
18. 復学者 再入学者等	フランス語文化入門(6)	2	0	2																
19. 科目等履修生 外留学生等	フランス語文化入門(7)	2	2	0																
	フランス語文化入門(8)	2	0	2																
	中国語文化入門(1)	2	2	0																
	中国語文化入門(2)	2	0	2																
	中国語文化入門(3)	2	2	0																
	中国語文化入門(4)	2	0	2																
	中国語文化入門(5)	2	2	0																
	中国語文化入門(6)	2	0	2																

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
中国語文化入門(7)	2	2	0						
中国語文化入門(8)	2	0	2						
スペイン語文化入門(1)	2	2	0						
スペイン語文化入門(2)	2	0	2						
ロシア語文化入門(1)	2	2	0						
ロシア語文化入門(2)	2	0	2						
科学と非科学	2	0	2						
科学と芸術	2	0	2						
音と音楽の表現領域	2	2	0						
日常と非日常のレトリック	2	2	0						
数理科学の思想史	2	0	2						
メディアリテラシー論	2	2	0						
心・脳・ボディ	2	2	0						
生活空間の文化	2	2	0						
シミュレーション技術と文化	2	0	2						
象徴の諸相	2	0	2						
プラクティカルリーズニング	2	2	0						
マスタース・オブ・シネマ 映画のすべて	2	2	0						

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内
(C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、
再入学者等
- 19. 科目等履修生
外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者 再入学者等
19. 科目等履修生 外留学生等

A1 群科目配当表（特論科目）

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
東アジア文化研究	2	0	2						
歴史社会学Ⅰ	2	2	0						
歴史社会学Ⅱ	2	0	2						
人文地理学Ⅱ	2	0	2						
情報化と社会経済	2	2	0						
精神分析論Ⅰ	2	2	0						
精神分析論Ⅱ	2	0	2						
心理学Ⅰ	2	2	0						
心理学Ⅱ	2	0	2						
環境と生物Ⅱ	2	0	2						
ゲーム理論	2	2	0						
情報倫理	2	2	0						
デジタル家電の興亡	2	2	0						
現代企業論	2	0	2						
生命倫理	2	2	0						
環境倫理	2	0	2						
リスクマネジメント論	2	0	2						
科学技術政策論	2	0	2						
日本産業の将来設計	2	0	2						
消費者の経済学	2	0	2						
雇用環境と労働	2	2	0						
環境アセスメント論	2	2	0						
自然生態調査論	2	0	2						
心理療法	2	2	0						
テクノストレス	2	2	0						
マルチメディア政策論	2	0	2						
技術開発論	2	2	0						
日本企業とワークライフバランス	2	0	2						
健康の生態学	2	2	0						
企業の社会的責任（CSR）と利益相反	2	0	2						
情報通信経済	2	0	2						

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
暮らしの中の先端技術	2	2	0						
複雑系と社会システム	2	2	0						
バイオ・イノベーションとベンチャー	2	0	2						
産業政策	2	2	0						
環境政策と計画Ⅱ	2	0	2						
社会病理学Ⅰ	2	2	0						
社会病理学Ⅱ	2	0	2						
社会調査法Ⅱ	2	0	2						
統計学Ⅰ	2	2	0						
統計学Ⅱ	2	0	2						
憲法Ⅰ	2	2	0						
憲法Ⅱ	2	0	2						
経済学AⅠ	2	2	0						
経済学AⅡ	2	0	2						
経済学BⅠ	2	2	0						
経済学BⅡ	2	0	2						
経営学Ⅰ	2	2	0						
経営学Ⅱ	2	0	2						
経済制度論AⅠ	2	2	0						
経済制度論AⅡ	2	0	2						
経済制度論BⅠ	2	2	0						
経済制度論BⅡ	2	0	2						
経済政策論Ⅰ	2	2	0						
経済政策論Ⅱ	2	0	2						
国際経済論Ⅰ	2	2	0						
国際経済論Ⅱ	2	0	2						
産業構造論Ⅰ	2	2	0						
産業構造論Ⅱ	2	0	2						
企業と労働Ⅱ	2	0	2						
流通産業論Ⅰ	2	2	0						
流通産業論Ⅱ	2	0	2						
都市地域計画論Ⅱ	2	0	2						

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目専属学生 外国学生等

I 特徴 II 沿革と概要 III 学部要項 IV 学生生活 V 付録 1. 単位制 2. 学位・卒業 3. 学費 4. 学科目系列 5. A1群科目 6. A2群科目 7. B群科目 8. C群科目 9. D群科目 10. 他学部受講 11. 学科別案内 (C群科目) 物理 応物 化学 応化 生医 電生 12. 教職免許 13. 科目登録 14. 授業時間帯 15. 試験 16. 成績の表示 17. 転科試験 18. 復学者 再入学者等 19. 科目等履修生 外留学生等	学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数										
			第1年度		第2年度		第3年度		第4年度				
			前	後	前	後	前	後	前	後			
	社会人類学Ⅱ	2	0	2									
	認知心理学Ⅰ	2	2	0									
	認知心理学Ⅱ	2	0	2									
	情報社会論Ⅱ	2	0	2									
	社会システム工学Ⅱ	2	0	2									
	国際コンテンツビジネスと著作権	2	2	0									
	技術史Ⅱ	2	0	2									
	改善技術論	2	2	0									
	知的財産と経済	2	2	0									
	ユビキタス社会におけるIT知財	2	2	0									
	知的財産と起業	2	0	2									
	企業活動と国際金融	2	2	0									
	産学連携，ベンチャー起業の基礎Ⅰ	2	2	0									
	産学連携，ベンチャー起業の基礎Ⅱ	2	0	2									
	「こころ」と宇宙	2	0	2									
	過去の伝承	2	0	2									
	文化と科学・技術者	2	2	0									
	現代宗教論Ⅰ	2	2	0									
	現代宗教論Ⅱ	2	0	2									
	都市と文化	2	0	2									
	言語文化論	2	2	0									
	近代思想と現代	2	0	2									
	地域研究：中国	2	2	0									
	地域研究：ドイツ	2	2	0									
	地域研究：フランス	2	0	2									
	地域研究：ロシア	2	2	0									
	地域研究：アフリカ	2	0	2									
	地域研究：イスラム圏	2	2	0									
	地域研究：東ヨーロッパ	2	2	0									
	地域研究：中南米	2	2	0									
	地域研究：英語文化圏	2	0	2									
	ドイツ語圏文化論（Ⅰ）	2	2	0									

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
ドイツ語圏文化論 (2)	2	0	2						
ドイツ語圏文化論 (3)	2	2	0						
ドイツ語圏文化論 (4)	2	0	2						
フランス語圏文化論 (1)	2	2	0						
フランス語圏文化論 (2)	2	0	2						
フランス語圏文化論 (3)	2	2	0						
フランス語圏文化論 (4)	2	0	2						
中国語圏文化論 (1)	2	2	0						
中国語圏文化論 (2)	2	0	2						
中国語圏文化論 (3)	2	2	0						
中国語圏文化論 (4)	2	0	2						
スペイン語圏文化論	2	2	0						
ロシア語圏文化論	2	0	2						
様相論理学	2	2	0						
境界領域アート論	2	2	0						
心身問題研究	2	0	2						
物語研究	2	2	0						
フィクション設計論	2	2	0						
語源研究	2	2	0						
実験の思想史 I	2	2	0						
実験の思想史 II	2	0	2						
芸術表現 I	2	2	0						
芸術表現 II	2	0	2						
映像史 I	2	2	0						
映像史 II	2	0	2						
音楽論	2	0	2						
ラテン語文献基礎研究 I	2	2	0						
ラテン語文献基礎研究 II	2	0	2						
企業金融論	2	2	0						
トランス・ボーダー企業経営論	2	0	2						
ニーズ型社会と新産業創出	2	集中	0						
科学技術とコミュニケーション	2	0	2						

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部受講
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目登録後生、外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部受講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者 再入学者等
19. 科目等履修生 外留学生等

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
産業・技術移転論	2	0	2						
技術倫理	2	0	2						
家族と子ども	2	0	2						
現代マスコミ論 I	2	2	0						
現代マスコミ論 II	2	0	2						
コンテンツマーケティングリサーチ	2	0	2						
文化遺産のデジタルアーカイブ	2	0	2						
映像制作	2	4	0						
コンピューター・アートA	2	4	0						
コンピューター・アートB	2	0	4						
メディア産業論 I	2	2	0						
メディア産業論 II	2	0	2						
3Dコンテンツの医療・福祉応用	2	2	0						
クロスメディアビジネス	2	0	2						
写真表現	2	0	4						
超臨場感システム概論	2	0	2						
デジタル映像コンテンツビジネス論	2	0	2						
デジタル映像コンテンツ概論	2	2	0						
インターメディア作曲 I	4	2	0						
インターメディア作曲 II	4	0	2						

A1群科目配当表（領域コース科目）

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
知財・産業社会政策領域基礎演習	2					0	2		
国際文化領域基礎演習	2					0	2		
知財・産業社会政策領域演習	4							2	2
卒業論文（知財・産業社会政策）	2							◎	◎
国際文化領域演習	4							2	2
卒業論文（国際文化）	2							◎	◎

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部専修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外国学生等

6 A2群科目（外国語科目）

科学技術の進歩、たとえば交通手段や情報機器の発達には、地球上の人や物の交流を飛躍的に増大させた。この傾向は21世紀にはいってさらに増大の度を加えていくことであろう。一方で、地球上にさまざまな社会があり多種多様な文化が存在することはまぎれもない事実であり、それだけにいっそう異なる社会、異なる文化圏同士の相互理解が緊急不可欠なものとなっている。このような状況のもと、異なる文化や社会と接触し理解するのに有効な手段のひとつが、外国語の習得である。外国語を学ぶとは、単に言語の運用能力を身につけることに留まるものではない。言語感覚を錬磨し、言語表現の可能性を模索することで、自己の表現能力を高めることでもある。そして、他を知ることによって自己を知る道でもある。学生諸君には、将来の活躍の場を広げる意味でも、外国語と積極的に取り組んでほしい。

(1) 英語

卒業までに、学科ごとに定められた所定単位数以上を修得する。すべての英語科目は全授業回数の3分の2以上の出席を要する。

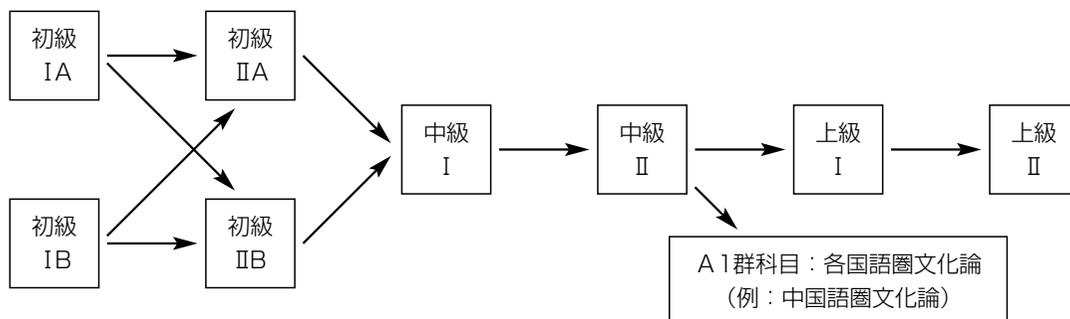
- ① 1年次には、Academic Lecture Comprehension 1・2（各1単位）とCommunication Strategies 1・2（各1単位）を履修すること。
- ② 2年次には、Academic Reading 1・2（各1単位）とConcept Building and Discussion 1・2（各1単位）を履修すること。
- ③ 3年次以降には、Technical Writing 1・2（各1単位）、Technical Presentation（1単位）、Special Topics in Functional English（1単位）が履修できる。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
Academic Lecture Comprehension 1	1	2	0						
Academic Lecture Comprehension 2	1	0	2						
Communication Strategies 1	1	2	0						
Communication Strategies 2	1	0	2						
Academic Reading 1	1			2	0				
Academic Reading 2	1			0	2				
Concept Building and Discussion 1	1			2	0				
Concept Building and Discussion 2	1			0	2				
Technical Writing 1	1					2	0		
Technical Writing 2	1					0	2		
Technical Presentation	1					2	0		
Special Topics in Functional English	1					0	2		

(2) 初修外国語

英語以外の外国語科目には、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語がある。

下図は半期ごとの履修例を示すものである。



- ・ Aは言語の構造を理解し、文の形を習得するためのベーシック・トレーニングを行う。
Bでは表現を学ぶプラクティカル・トレーニングを行う。
- ・ A、Bを同時履修することが望ましいが、どちらか一方のみを履修することも可能。
図に示されているように、IAの次にIIBを履修することも可能。
- ・ 複数の言語の科目を同時履修することも可能。
- ・ 「各国語圏文化論」はその言語の中級II以上の単位取得が受講条件。

注：スペイン語に上級科目は設置していない。

【既習者のための科目】

ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語の既習者には、

IA(学院クラス)、IB(学院クラス)、IIA(学院クラス)、IIB(学院クラス)が用意されている。

※受講生に早稲田大学附属高等学院の出身者が多いことから、(学院クラス)の名称を用いている。

- ・ Aではベーシック・トレーニングを、Bではプラクティカル・トレーニングを行う。
- ・ I(学院クラス)→II(学院クラス)→上級I→上級IIと段階を追って履修する。
- ・ II(学院クラス)の単位取得者は、その言語の「文化論」を受講可能(上表参照)。

【初修外国語を学ぶことのできるA1群科目】

- ・ 「入門・外国語案内」…ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語の6言語全ての概要を学ぶオムニバス形式の講義科目。
- ・ 「各国語文化入門」…5言語の各文化と言語の初歩を学ぶことができる。

【外国学生のための科目】

1年次に日本語B(4単位)、2年次に日本語A(4単位)を別途用意している。履修を推奨する。

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部専修
11. 学科別案内(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 就職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、再入学者等
19. 科目専属学生、外国学生等

ドイツ語

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
独語 初級 I A	1	2	0						
独語 初級 I B	1	2	0						
独語 初級 II A	1	0	2						
独語 初級 II B	1	0	2						
独語 I A (学院クラス)	1	2	0						
独語 I B (学院クラス)	1	2	0						
独語 II A (学院クラス)	1	0	2						
独語 II B (学院クラス)	1	0	2						
独語 中級 I	1			2	0				
独語 中級 II	1			0	2				
独語 上級 I	1					2	0		
独語 上級 II	1					0	2		

フランス語

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
仏語 初級 I A	1	2	0						
仏語 初級 I B	1	2	0						
仏語 初級 II A	1	0	2						
仏語 初級 II B	1	0	2						
仏語 I A (学院クラス)	1	2	0						
仏語 I B (学院クラス)	1	2	0						
仏語 II A (学院クラス)	1	0	2						
仏語 II B (学院クラス)	1	0	2						
仏語 中級 I	1			2	0				
仏語 中級 II	1			0	2				
仏語 上級 I	1					2	0		
仏語 上級 II	1					0	2		

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録
- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部受講
- 11. 学科別案内
C群科目
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者
再入学者等
- 19. 科目等履修生
外留学生等

中国語

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
中国語 初級ⅠA	1	2	0						
中国語 初級ⅠB	1	2	0						
中国語 初級ⅡA	1	0	2						
中国語 初級ⅡB	1	0	2						
中国語 ⅠA (学院クラス)	1	2	0						
中国語 ⅠB (学院クラス)	1	2	0						
中国語 ⅡA (学院クラス)	1	0	2						
中国語 ⅡB (学院クラス)	1	0	2						
中国語 中級Ⅰ	1			2	0				
中国語 中級Ⅱ	1			0	2				
中国語 上級Ⅰ	1					2	0		
中国語 上級Ⅱ	1					0	2		

スペイン語

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
スペイン語 初級ⅠA	1	2	0						
スペイン語 初級ⅠB	1	2	0						
スペイン語 初級ⅡA	1	0	2						
スペイン語 初級ⅡB	1	0	2						
スペイン語 中級Ⅰ	1			2	0				
スペイン語 中級Ⅱ	1			0	2				

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外国学生等

ロシア語

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
露語 初級 I A	1	2	0						
露語 初級 I B	1	2	0						
露語 初級 II A	1	0	2						
露語 初級 II B	1	0	2						
露語 I A (学院クラス)	1	2	0						
露語 I B (学院クラス)	1	2	0						
露語 II A (学院クラス)	1	0	2						
露語 II B (学院クラス)	1	0	2						
露語 中級 I	1			2	0				
露語 中級 II	1			0	2				
露語 上級 I	1					2	0		
露語 上級 II	1					0	2		

7 B群科目（数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目）

専門の基礎を与えることを目標としている学科目で，数学，物理学，化学，生命科学，理工学基礎実験，情報関連科目がこれにあたる。

各学科の履修方法は次頁の表のとおりである。

なお，C群科目（専門教育科目）の中で，指定された数学，自然科学の学科目の単位を修得していなければ履修できない学科目があるので，科目登録にあたってはこの履修順序に注意すること。

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録
- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部受講
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外留学生等

(1) 学科別履修方法

		物理学科	応用物理学科	化学・生命化学科	応用化学科	生命医科学科	電気・情報生命工学科	
必修	数 学	基礎の数学		1年通年 (2単位)			1年前期 (2単位)	
		数学A1	1年通年 (4単位)	1年通年 (4単位)		1年通年 (4単位)	1年通年 (4単位)	
		数学A2			1年通年 (5単位)			
		数学B1			1年通年 (4単位)	1年通年 (4単位)	1年通年 (4単位)	1年通年 (4単位)
		数学B2	1年通年 (6単位)	1年通年 (6単位)				
	物 理 学	力学A	1年前期 (2単位)	1年前期 (2単位)				1年前期 (2単位)
		力学B	1年後期 (2単位)	1年後期 (2単位)				1年後期 (2単位)
		力学C			1年前期 (2単位)	1年前期 (2単位)	1年前期 (2単位)	
	化 学	基礎電磁気学			1年後期 (2単位)	1年後期 (2単位)	1年後期 (2単位)	
		化学A					1年前期(2単位) ※化学未履修者	
		化学B1						1年後期 (2単位)
		化学B2					1年後期(2単位) ※化学履修者	
		化学B3					1年前期(2単位) ※化学履修者	
	生 命 科 学	化学C					1年後期(2単位) ※化学未履修者	
		生命科学概論A			1年前期 (2単位)			
		生命科学概論B					1年前期 (2単位)	
		細胞生物学A						1年前期 (2単位)
	実験 実習 制作	細胞生物学B					1年後期 (2単位)	
		理工学基礎実験	1A	1年前期 (3単位)	1年前期 (3単位)	1年前期 (3単位)	1年前期 (3単位)	1年前期 (3単位)
1B			1年後期 (3単位)	1年後期 (3単位)	1年後期 (3単位)	1年後期 (3単位)	1年後期 (3単位)	
2B			2年後期 (3単位)	2年後期 (3単位)	2年後期 (3単位)	3年後期 (3単位)	2年後期 (3単位)	
2年後期 (3単位)		2年後期 (3単位)	2年後期 (3単位)	2年後期 (3単位)	2年後期 (3単位)	2年後期 (3単位)		
情報 関連 科目	Cプログラミング入門		2年前期 (2単位)※C群					
選 択 必 修	化学 生命 情報 関連 科目	化学B1	1年前期 (2単位)	1年前期 (2単位)				
	細胞生物学A	1年前期 (2単位)	1年前期 (2単位)					
	Cプログラミング入門	2年前期 (2単位)※C群						
	Cプログラミング						1年後期 (2単位)	
	Javaプログラミング						1年後期 (2単位)	
選 択	数 学	数学C			2年半期 (2単位)		2年半期 (2単位)※C群	
		数学D			2年半期 (2単位)		2年半期 (2単位)※C群	
		数学E			2年半期 (2単位)		2年半期 (2単位)※C群	
	化 学	化学A						1年前期(2単位) ※化学未履修者
		生命科学概論A				2年前期 (2単位)※C群		
	生 命 科 学	細胞生物学B			1年後期 (2単位)	3年前期 (2単位)※C群		
		コンピュータリテラシー	1年後期 (2単位)	1年後期 (2単位)	1年後期 (2単位)	1年後期 (2単位)※C群	1年後期 (2単位)	1年後期 (2単位)
		Cプログラミング入門					2年前期 (2単位)※C群	1年前期 (2単位)
		FORTRANプログラミング入門			2年前期 (2単位)※C群			
		Javaプログラミング入門						1年前期 (2単位)
情 報 関 連 科 目	Cプログラミング	2年後期 (2単位)※C群	2年後期 (2単位)※C群			2年後期 (2単位)※C群		
	FORTRANプログラミング			2年後期 (2単位)※C群				
	Cアプリケーション開発						2年前期 (2単位)	

上表内の余白部分は「他学科聴講」扱いとなる。
 詳しくは「Ⅲ-10 他学科・他学部・他学術院等設置科目の聴講」を確認すること。

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部聴講
- 11. 学科別納入(C群科目)

- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生

- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者・再入学者等
- 19. 科目等履修生・外国学生等

(2) 数学配当表 ※必修・選択等履修方法や履修学年は各学科によって異なる。必ず一覧表で確認すること。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
基礎の数学	2	2	0						
数学A1	4	2	2						
数学A2	5	2	4						
数学B1	4	2	2						
数学B2	6	4	4						
数学C	2			2	0				
				0	2				
数学D	2			2	0				
				0	2				
数学E	2			2	0				
				0	2				

(3) 物理学配当表 ※必修・選択等履修方法や履修学年は各学科によって異なる。必ず一覧表で確認すること。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
力学A	2	2	0						
力学B	2	0	2						
力学C	2	2	0						
基礎電磁気学	2	0	2						
物理学（教職向け） ^注	4	2	2						

注) 当該科目は先進理工学部物理学科・応用物理学科以外に在籍し、理科の免許取得を志す者に履修を推奨する。

(4) 化学配当表 ※必修・選択等履修方法や履修学年は各学科によって異なる。必ず一覧表で確認すること。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
化学A	2	2	0						
化学B1	2	2	0						
		0	2						
化学B2	2	0	2						
化学B3	2	2	0						
化学C	2	0	2						

(5) 生命科学配当表 ※必修・選択等履修方法や履修学年は各学科によって異なる。必ず一覧表で確認すること。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
生命科学概論A	2	2	0						
生命科学概論B	2	2	0						
細胞生物学A	2	2	0						
細胞生物学B	2	0	2						

(6) 実験・実習・制作配当表 ※必修・選択等履修方法や履修学年は各学科によって異なる。必ず一覧表で確認すること。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
理工学基礎実験1A	3	8	0						
理工学基礎実験1B	3	0	8						
理工学基礎実験2B	3			0	8				

(7) 情報関連科目配当表 ※必修・選択等履修方法や履修学年は各学科によって異なる。必ず一覧表で確認すること。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
コンピュータリテラシー	2	0	2						
Cプログラミング入門	2	2	0						
FORTRANプログラミング入門	2			2	0				
Javaプログラミング入門	2	2	0						
Cプログラミング	2	0	2						
FORTRANプログラミング	2			0	2				
Javaプログラミング	2	0	2						
Cアプリケーション開発	2			2	0				

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内
(C群科目)

- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者・再入学者等
- 19. 科目等履修生
外国学生等

8 C群科目（専門教育科目）

専門教育科目は、専門必修科目、専門選択科目および自由科目に分かれる。

(1) 専門必修科目

この学科目は、各学科の性格を特色づけるものである。学生諸君は、所属学科配当の学科目を、配当年度に従って履修しなければならない。

(2) 専門選択科目

この学科目は、学生各人の希望によって選択・履修できるものであって、各年度に配当されている学科目の中から選択修得しなければならない。なお、専門選択科目の中で、大学院進学の際に単位修得が義務づけられている学科目、単位修得が望ましいとされている学科目がある。また、指定された範囲から必ず所定の科目を履修し、定められた単位を修得しなければならない選択必修科目もある。これらについては、年度始めのガイダンスで確認すると共に疑問がある場合はクラス担任に相談すること。

(3) 自由科目

この学科目は、合格点を取れば単位を与えられ、成績通知書にも記入されるが、卒業必要単位には算入されない。

(4) 履修上の注意

- ① 学科目名の次に番号（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）等を付してある学科目、および特に履修順序の指定されている学科目は、先行して履修すべき学科目の単位を修得していなければ、次の学科目を履修することはできない。
- ② 学科目名の次にA、B、Cのついている学科目は同時に履修することができる。

9 D群科目（保健体育・自主挑戦科目）

(1) 保健体育科目

本学部の学科目の単位のほかに保健体育科目を自主挑戦科目と併せて4単位までを卒業に必要な単位数として履修することができる。

1年間に履修できる保健体育科目は、2科目に限る。その組み合わせは、スポーツ理論とスポーツ実習をどのように組み合わせてもよい。

詳細については、オープン教育センターの発行する『ガイドブック』を参照すること。

(2) 自主挑戦科目

「理工文化論」

20世紀は人類史上最も「理工文明」の栄えた時代であった。21世紀に人類に課された命題は、その成果をいかに人類に回帰するかにある。すなわち、21世紀は「理工文明」から「理工文化」への脱却の時代であると言っても過言ではない。本講義では、早稲田大学教授陣に加えて各界のオピニオン・リーダーでもある、学外の著名な科学者・文化人がそれぞれの立場から「理工文化」への熱き思いを語る。

講義への出席状況および提出されたレポートによって評価が行われ、所定の基準以上の評価を得た者にD群科目として2単位が与えられる。

「ボランティア」

この科目は学内外で学生が自らの意志で自発的に関わった福祉、災害救援、人権、平和、環境などの人間社会の切実な諸問題に対する活動を、次年度に「活動報告」と「活動を通じて何をえたかを述べたレポ

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者
再入学者等

19. 科目等履修生
外留学生等

ート」の2つの提出物をもとに評価して単位を与える科目である。

例えば、2007年度の活動に対しては、2008年度の4月に科目登録をおこない、評価後認定されればD群科目として2単位が与えられる。

「インターンシップ」

夏季および春季休業期間中に、関連の企業や研究所において、学科専門科目で学習したことが実際の生産現場等でどのように活用されているのかを見聞きし体得する。

評価については、受け入れ先からの報告と学生の研修レポートおよびプレゼンテーション等を総合的に判断しておこなう。海外における研修も対象とする。

(注1) 事前に理工学統合事務所にインターンシップ参加申請書を必ず提出すること。このことにより「学生教育研究災害傷害保険（早稲田大学の正規学生は全員対象）」の対象となる。(死亡保険金、後遺症損害保険金)

また「学生教育研究損害賠償責任保険(大学が認めたインターンシップでの活動中に他人に怪我をさせたり、他人の財物を損壊した場合の損害賠償責任を補償する制度。1年間400円)」への加入を原則とする。

自主挑戦科目配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数											
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度					
		前	後	前	後	前	後	前	後				
理工文化論	2	2	0										
ボランティア	2			○	○								
インターンシップ	2					○	○						

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内(C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外国学生等

10 他学科・他学部・他学術院等設置科目の聴講

(1) 他学科・他学部・他学術院設置科目

他学科および他学部の学科目を聴講し、単位を修得した場合には、以下の表に基づき、卒業に必要な単位数に算入することができる。

具体的な算入の際の規定は、以下のとおりである。

- ① 他学科・他学部・他学術院聴講科目で、卒業に必要な単位数に算入される単位は、A群～C群科目で設定されている所定単位数には算入せず、系列を問わず、一律、卒業に必要な単位数の中で任意に選択できる「卒業必要単位数－(A～C群の所定単位数)」の中に算入する。
- ② 各学科の「卒業必要単位数－(A～C群の所定単位数)」または学科が定める上限を超えて単位を修得した場合は、一律、自由科目(卒業に必要な単位数に算入できない)として取り扱う。
- ③ 設置学部が聴講を認める科目については、科目の系列を問わず、すべて他学科・他学部および他学術院の聴講科目として取り扱う。ただし、所属学科に設置されている科目と同一名称および実質的に同一内容の科目の聴講は認めない。
- ④ 原則として、実験・実習・演習・製図科目および卒業論文または卒業研究は他学科・他学部聴講を認めない。ただし、科目配当学科が許可した場合にはこの限りでない。

先進理工学部内他学科・理工学術院内他学部・他学術院聴講の扱い(卒業必要単位数に算入できる上限単位数)

学科名	他学科聴講	理工学術院内他学部聴講	他学術院聴講	計
物理学科	4単位	4単位	4単位	4単位
応用物理学科	4単位	4単位	4単位	4単位
化学・生命化学科	8単位	8単位	8単位	8単位
応用化学科	8単位	8単位	8単位	8単位
生命医科学科	15単位	15単位	15単位	15単位
電気・情報生命工学科	制限なし			

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 学科別案内

(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者

再入学者等

19. 科目等履修生

外留学生等

【理工学術院（基幹・創造・先進）以外の科目を履修した場合の単位取扱区分】

科目設置箇所	科目	区分
他学術院	「学部等提供オープン科目」, その他他学部設置科目	他学術院聴講
	「教職に関する科目」(教育学部)	教職課程 *卒業必要単位数には算入されない
オープン教育センター	「講義科目」	A1群に8単位まで算入可能/9単位 目からは他学術院聴講
	「テーマカレッジ演習科目」	
	「特色ある言語科目」	A2群に4単位まで算入可能/5単位 目からは他学術院聴講
	「Tutorial English」	他学術院聴講
	「外国語科目」その他	A2群「自由科目扱い」 *卒業必要単位数には算入されない
	「保健体育科目」	本要項「9 D群科目」参照
5大学(学習院大学, 日本女子大 学, 学習院女子大学, 立教大学)	5大学間単位互換制度による提 供科目	他学術院聴講
武蔵野美術大学, 東京家政大学, 東京女子医科大学, 京都地域45 大学	「各科目」, 「オープン科目」	他学術院聴講
メディアネットワークセンター (MNC)	「各科目」, 「オープン科目」	B4群「自由科目扱い」 *卒業必要単位数には算入されない
日本語教育センター	「オープン科目」, その他	他学術院聴講

(2) オープン科目

早稲田大学には13の学部、21の研究科以外にも多数の研究所やセンターがあり、多彩な科目を全学へも提供している。全学部の学生が履修することができる科目を「オープン科目」と呼ぶ。

所属学部独自のカリキュラムに加え、所属学部以外の学部・センター等が提供している「オープン科目」を選択履修し、修得した単位を、所属学部の規定にしたがって、卒業単位に算入することができる。

学部の授業と、学部の垣根を越えた総合大学ならではのスケールで学ぶことのできるオープン科目を上手に組み合わせて、自分の社会をひろげ、学ぶことの楽しさを実感して欲しい。

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部聴講
- 11. 学科別案内
(C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者,
再入学者等
- 19. 科目等履修生
外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部受講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者 再入学者等
19. 科目等履修生 外国留学生等

オープン科目の種類と内容の確認方法

項目	科目設置箇所	単位の取扱	講義内容	履修可能な科目	科目登録方法	授業・試験方法
1	学部・研究科 (約800科目クラス)	所属学部 発行学部要項	<ul style="list-style-type: none"> 科目を設置している学部・センター等発行の講義要項 早稲田大学HP →在学生の方 →シラバスシステム 	<ul style="list-style-type: none"> オープン教育センター発行「科目登録の手引き」 オープン教育センターHP 	所属学部発行「科目登録の手引き」または「マニュアル」等	科目を設置している学部・センター等のHPまたは掲示板
2	オープン教育センター (約1,260科目クラス)※1					
3	メディアネットワークセンター (約150科目クラス)※2					
4	日本語教育研究センター (約10科目クラス)※3					
5	留学センター (約10クラス)※4					
6	協定他大学 (2年生以上対象) (約1,100科目クラス)					

※HP……ホームページ

※1 オープン教育センター (URL:<http://www.waseda.jp/open/>)

オープン教育センターは、専門分野によらず全学部の学生が共通に履修できる教育を総合的に提供している機関である。ここで展開されている科目は多種多様であり、所属学部で学ぶ専攻と全く違う分野を学習することも可能である。時代をリードする著名なゲストの話や社会連携科目や、ゼミ形式で深く分野を掘り下げる学部横断型セミナー(テーマカレッジ)、実践スキルを磨く少人数語学カリキュラム(Tutorial English・コミュニケーション言語科目など)や早稲田大学以外では学ぶことが難しい稀少言語科目、文科系学生を対象とした自然科学プログラム、多数の特色あるスポーツ実習等を設置している。

※2 メディアネットワークセンター (URL:<http://www.waseda.jp/mnc/index-j.html>)

メディアネットワークセンターは、高度情報化社会に対応した研究・教育、情報環境の整備等を行うことを目的とした、学部とは独立した組織であり、教育については、情報に関するオープン科目を全学に提供している。

電子メールを使ったコミュニケーション、情報検索、Webページ作成などの情報リテラシーの習得・向上が可能な基礎的な科目(「情報基礎演習」)から、ネットワークの設計・構築・検証を行う専門的・実務的な科目(「ネットワーク技術」)まで、さまざまな科目を設置している。また、オンデマンド授業も設置しており、この科目については受講可能期間中であれば、いつでも、どこからでも、繰り返して受講することが可能である。

※3 日本語教育研究センター (URL:<http://www.waseda.jp/cjl/>)

早稲田大学に在籍している外国人留学生数は、2000名を超え、日本の大学では2番目の実績である。日本語教育研究センターは、大学院日本語教育研究科と連携しながら、全学の外国人留学生を対象に「日本語科目」を開講し、また主に日本人学生を対象とした日本語・日本語教育に関する「オープン科目」「公開講座」「オンデマンド講座」を開講している。さらに、日本人学生を対象に「日本語授業ボランティア」

を募集しており、約400名の早大生が留学生の日本語学習パートナーとして活躍している。日本語教育、国際交流に関心のある早大生は、積極的に履修して欲しい。

※ 4 留学センター (URL:<http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>)

留学センターは、早稲田大学における教育の国際化を推進するために設立された組織である。国際教育プログラムの実施拠点であるとともに、海外からの留学生の受入や早大生の海外留学を実施している。

国際教育プログラムとして、留学センターでは、北京大学ダブルディグリープログラム、TSAプログラムで留学している学生を対象とした北京設置科目と、TSA/ISAプログラムで留学した学生が帰国後に日本で受講できるハーバード大学との共同設置科目を開講している。

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部開講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外国学生等

11 学科別C群科目配当表および学修案内

物理学科

物理学科では素粒子・宇宙物理、物性（凝縮系）物理、生物物理を教育研究活動の3本の柱として、新しい未開拓の分野に挑戦し続けている。なかでも、物理学の視点から生命現象を理解すべく生物物理学分野を主要な柱のひとつに据えていることは、本学科の大きな特色のひとつである。

まず物理学の基礎を体系的に学習し、その上で、とくに現在活発に発展しつつある最先端分野へと導いていく。このような分野には従来の分類には収まりきれないいわゆる学際領域も多いが、応用物理学ととの緊密な協力関係の下、きわめて基礎的な分野から物理学が先端的な工業技術に应用されている工学的色彩の強い分野まで、自由に選択できるようなシステムを提供している。

卒業研究着手の条件

卒業研究に着手するには、すべての必修単位を修得していることが望ましいが、現在の必要条件は以下のようになっている。

1. 教職科目とD群の単位を除き103単位以上を修得していること。
2. 専門必修科目と専門選択必修科目の単位を44単位以上修得していること。ただし、2年生までの専門必修科目はすべて修得していること。

大学院推薦基準

成績が一定の基準以上の者は、面接による選考だけで大学院への進学を決定することができる。具体的な推薦基準は毎年見直しが予定されている。年度初めのガイダンスで確認すること。

卒業研究に着手しているか、修得済みであること、およびD群・教職科目・専門自由科目を除き118単位以上を取得していることが必要条件である（但し、物理実験B、卒業研究の単位は算入しない）。これらの条件を満たす者のなかで、次の算定方式による成績順に推薦候補者が決定される。D群・教職科目・専門自由科目及び他学科・他学部・他学術院設置科目を除く全科目の成績A⁺、A、B、C、F、(S)をそれぞれ9、8、7、6、0点とし、単位数の重みつき平均（単位数をかけて和を取り、総単位数で割った値）を成績とする。ただし、A群、B群および専門選択科目のFは総単位数に加算しない。

大学院への飛び級について

3年次から大学院修士課程への飛び級制度がある。大学院一般入試を受け、とくに成績が優秀で意欲的な学生に道を拓いている。詳しくは2年次修了までにクラス担任に相談すること。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部受講

11. 学科別案内

(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者、
再入学者等

19. 科目等履修生
外留学生等

物理学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
物理学研究ゼミナール	2	2	2						
数学概論A	2	2	0						
物理入門	1	2	0						
場の数理	2	0	2						
波の物理	2	0	2						
物理学演習A	4			4	4				
解析力学	2			2	0				
電磁気学A	2			2	0				
常微分方程式	2			2	0				
複素関数論1	2			2	0				
量子力学A	2			0	2				
電磁気学B	2			0	2				
熱力学	2			0	2				
フーリエ解析	2			0	2				
複素関数論2	2			0	2				
量子力学B	2					2	0		
統計力学A	2					2	0		
物理学実験B	2							4	4
卒業研究	4							○	○
専門必修科目合計	41	6	6	12	14	4	0	4	4

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理**
- 応物**
- 化学**
- 応化**
- 生医**
- 電生**
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外国学生等

(Ⅱ) 専門選択必修科目 (20単位以上修得すること。)

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
数学概論B	2	0	2						
数学演習	4			4	4				
Cプログラミング入門	2			2	0				
非線形問題	2			0	2				
物理学実験A	6					6	6		
物理学演習B	4					4	4		
電磁気学C	2					2	0		
固体物理学A	2					2	0		
連続体の物理	2					2	0		
光学A	2					2	0		
関数解析	2					2	0		
電子工学A	2					2	0		
応用確率過程	2					2	0		
生物物理学A	2					2	0		
量子力学C	2					0	2		
統計力学B	2					0	2		
固体物理学B	2					0	2		
相対性理論	2					0	2		
生物物理学B	2					0	2		
専門選択必修科目合計	46	0	2	6	6	26	20		

注) 最小限の単位数であり、これを超えた履修分は選択科目の単位数に繰り入れられる。各自の専門に応じた科目群の履修を推奨する。

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録
- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部受講
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理**
- 応物**
- 化学**
- 応化**
- 生医**
- 電生**
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者
再入学者等
- 19. 科目等履修生
外留学生等

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
地球科学A	2	2	0						
地球科学B	2	0	2						
回路理論A	2			2	0				
回路理論B	2			0	2				
Cプログラミング	2			0	2				
物理実験学	4					2	2		
非線形現象の数理	2					2	0		
生物学A	2					2	0		
計測原論	2					2	0		
デジタル信号処理	2					2	0		
ダイナミカルシステム	2					2	0		
真空技術	2					0	2		
光学B	2					0	2		
偏微分方程式論	2					0	2		
生物学B	2					0	2		
電子工学B	2					0	2		
計測システム	2					0	2		
量子エレクトロニクス	2					0	2		
原子核物理学	2							2	0
素粒子物理学	2							2	0
宇宙物理学	2							2	0
放射線計測学A	2							2	0
場の量子論入門	2							2	0
応用解析	2							2	0
現代物理学特論	2							2	0
放射線計測学B	2							0	2
専門選択科目合計	54	2	2	2	4	12	16	14	2

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理**
- 応物**
- 化学**
- 応化**
- 生医**
- 電生**
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外国学生等

応用物理学科

応用物理学科では卒業生が新規の技術開発に対応できるよう、物理学を身につけ、広い視野を持ち、既成概念に囚れない自由な発想が出来る人材の育成を目指している。物理学や応用数学の基礎をしっかりと習得し、高学年では固体物理学、光エレクトロニクス、システム・情報・制御工学など、現代のキーテクノロジーの基礎となっている多くの科目を幅広く学ぶことができる。

卒業研究においてはこれらの研究のプロセスに関与し、応用物理学的手法を身につけていくことができる。もちろん、学部教育の過程で基礎物理学に興味を持った学生にはその分野での研究の基礎を学べるように卒業研究において物理学科の分野を選択することができるのも特徴である。

卒業研究着手の条件

卒業研究に着手するには、すべての必修単位を修得していることが望ましいが、現在の必要条件は以下のようになっている。

1. 教職とD群の単位を除き103単位以上を修得していること。
2. 専門必修科目と専門選択必修科目の単位を44単位以上修得していること。ただし、2年生までの専門必修科目はすべて修得していること。

大学院推薦基準

成績が一定の基準以上の者は、面接による選考だけで大学院への進学を決定することができる。具体的な推薦基準は毎年見直しが予定されている。年度初めのガイダンスで確認すること。

卒業研究に着手しているか、修得済みであること、およびD群・教職科目・専門自由科目を除き118単位以上を取得していることが必要条件である(但し、物理実験B、卒業研究の単位は算入しない)。これらの条件を満たす者のなかで、次の算定方式による成績順に推薦候補者が決定される。D群・教職科目・専門自由科目及び他学科・他学部・他学術院設置科目を除く全科目の成績A+, A, B, C, F, (S)をそれぞれ9, 8, 7, 6, 0点とし、単位数の重みつき平均(単位数をかけて和を取り、総単位数で割った値)を成績とする。ただし、A群、B群および専門選択科目のFは総単位数に加算しない。

大学院への飛び級について

3年次から大学院修士課程への飛び級制度がある。大学院一般入試を受け、とくに成績が優秀で意欲的な学生に道を拓いている。詳しくは2年次修了までにクラス担任に相談すること。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部受講

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者
再入学者等

19. 科目等履修生
外留学生等

応用物理学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
応用物理学研究ゼミナール	2	2	2						
数学概論A	2	2	0						
物理入門	1	2	0						
場の数理	2	0	2						
波の物理	2	0	2						
物理学演習	4			4	4				
常微分方程式	2			2	0				
複素関数論1	2			2	0				
電磁気学A	2			2	0				
解析力学	2			2	0				
回路理論A	2			2	0				
Cプログラミング入門	2			2	0				
フーリエ解析	2			0	2				
複素関数論2	2			0	2				
電磁気学B	2			0	2				
量子力学A	2			0	2				
熱力学	2			0	2				
量子力学B	2					2	0		
統計力学A	2					2	0		
応用物理学実験B	2							4	4
卒業研究	4							◎	◎
専門必修科目合計	45	6	6	16	14	4	0	4	4

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外国学生等

(Ⅱ) 専門選択必修科目 (16単位以上修得すること。)

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
数学概論B	2	0	2						
数学演習	4			4	4				
非線形問題	2			0	2				
応用物理学実験A	6					6	6		
応用物理学演習	4					4	4		
電磁気学C	2					2	0		
固体物理学A	2					2	0		
連続体の物理	2					2	0		
電子工学A	2					2	0		
光学A	2					2	0		
応用確率過程	2					2	0		
関数解析	2					2	0		
生物物理学A	2					2	0		
量子力学C	2					0	2		
固体物理学B	2					0	2		
統計力学B	2					0	2		
相対性理論	2					0	2		
生物物理学B	2					0	2		
専門選択必修科目合計	44	0	2	4	6	26	20		

注) 最小限の単位数であり、これを超えた履修分は選択科目の単位数に繰り入れられる。各自の専門に応じた科目群の履修を推奨する。

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録
- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部聴講
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外留学生等

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
地球科学A	2	2	0						
地球科学B	2	0	2						
回路理論B	2			0	2				
Cプログラミング	2			0	2				
物理実験学	4					2	2		
ダイナミカルシステム	2					2	0		
計測原論	2					2	0		
デジタル信号処理	2					2	0		
非線形現象の数値	2					2	0		
生物学A	2					2	0		
情報理論	2					2	0		
情報処理システム	2					0	2		
真空技術	2					0	2		
量子エレクトロニクス	2					0	2		
電子工学B	2					0	2		
光学B	2					0	2		
計測システム	2					0	2		
偏微分方程式論	2					0	2		
生物学B	2					0	2		
応用光学	2							2	0
光エレクトロニクス	2							2	0
原子核物理学	2							2	0
放射線計測学A	2							2	0
場の量子論入門	2							2	0
宇宙物理学	2							2	0
現代物理学特論	2							2	0
応用解析	2							2	0
放射線計測学B	2							0	2
先端計測・制御	2							0	2
専門選択科目合計	60	2	2	0	4	14	18	16	4

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外国学生等

化学・生命化学科

本学科では短期的な既存の学問の応用ではなく、また、現実から懸け離れた学問のための学問でもない、化学が必要とされる分野において最大限活用されるような学問を追究していく。また、それを実践できる人材を育成し、社会に貢献することを目指す。

卒業論文着手の条件

第3学年の3月末の時点において下記の条件を満たしていること。

1. A群は、A1群（複合領域科目）で16単位以上、A2群（外国語科目）で12単位以上を修得していること。
2. B群は必修科目の26単位すべてを修得していること。
3. C群は実験科目の単位と第2年度までの必修科目すべてを修得していること。
4. 卒業単位に算入できる単位を114単位以上修得していること。

化学・生命化学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
無機化学A	2	2	0						
有機化学A	2	2	0						
基礎化学A	2	2	0						
無機化学B	2	0	2						
有機化学B	2	0	2						
基礎化学B	2	0	2						
無機分析化学実験	2			6	0				
生命化学A	2			2	0				
物理化学A	2			2	0				
基礎化学演習	1			2	0				
有機化学C	2			2	0				
生命化学実験	4			0	12				
機器分析実験	2			0	6				
生命化学B	2			0	2				
物理化学B	2			0	2				
分析化学概論	2			0	2				
有機化学演習	1			0	2				

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
有機化学実験	4					12	0		
物理化学C	2					2	0		
物理化学実験	4					0	12		
物理化学演習	1					0	2		
無機化学C	2					0	2		
卒業論文	2							◎	◎
専門必修科目合計	49	6	6	14	26	14	16		

(II) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
化学工学 I	2	0	2						
FORTRAN プログラミング入門	2			2	0				
電磁気学A	2			2	0				
化学工学 II	2			0	2				
反応有機化学	2			0	2				
化学統計力学	2			0	2				
FORTRAN プログラミング	2			0	2				
電磁気学B	2			0	2				
放射化学	2			0	2				
金属錯体化学A	2					2	0		
固体物理学A	2					2	0		
電気化学	2					2	0		
無機反応論	2					2	0		
生理活性物質化学	2					2	0		
有機金属化学	2					2	0		
構造有機化学	2					2	0		
生物学A	2					2	0		
生命倫理科学	2					2	0		
量子化学	2					2	0		
磁気共鳴化学	2					2	0		

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部履修

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試 験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者、
再入学者等

19. 科目登録後生
外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者
再入学者等

19. 科目等履修生
外留学生等

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
酵素光学	2					2	0		
金属錯体化学B	2					0	2		
計算化学	2					0	2		
固体物理学B	2					0	2		
生体構成物質化学	2					0	2		
精密合成化学	2					0	2		
有機立体化学	2					0	2		
生命環境化学	2					0	2		
生物学B	2					0	2		
分光化学	2					0	2		
構造化学	2					0	2		
物理化学実験学	2							2	0
解析力学	2							2	0
関数解析	2							2	0
触媒化学	2							2	0
高分子化学	2							2	0
バイオプロセス	2							0	2
専門選択科目合計	74	0	2	4	12	24	20	10	2

応用化学科

物理化学，無機化学，有機化学，化学工学を柱とする基礎を講義，演習，実験によって習得するカリキュラムを根幹としている。これらを基礎として，セラミックス，プラスチック，エネルギー変換，食品，医薬，電子材料など，専門分野に関する知識はもちろん，原子・分子の世界からナノ・バイオ・生命・地球環境にわたる幅広い学際領域に関連する知識を習得する。これらの教育を通して，化学を主軸として社会に実践的に貢献できる人材の養成を行う。さらに，反応プロセスや製造プロセスを設計できる人材の社会的要請も高いことから，そうした人材の養成にも対応している。これらに加えて，科学技術者倫理やリスクマネジメントなど次世代を担う人材として身につけておくべき研究者，技術者としての素養を修得し，科学・工学に対して十分なリテラシーを育成する。

卒業論文着手の条件

学科が別に定める科目数の専門必修科目，および総単位数を修得すること。理工学基礎実験，専門必修科目およびコース別必修科目に属する実験科目を配当年度の順に従い，すべて修得すること。これらの実験科目については一科目でも不合格の場合，それ以降に配置されている実験科目，卒業論文の履修は許されない。

大学院推薦入学について

成績上位者には大学院への推薦入学制度が設けられている。推薦基準の詳細については，各年度始めの学科ガイダンスにおいて通知する。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部履修

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者，
再入学者等

19. 科目等履修生，
外国学生等

応用化学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
無機化学 I	2	2	0						
有機化学 I	2	2	0						
化学数学 I	2	2	0						
応用化学入門	1	2	0						
応用化学基礎演習 I	1	2	0						
無機化学 II	2	0	2						
化学工学 I	2	0	2						
化学数学 II	2	0	2						
分析化学 I	2	0	2						
無機・分析化学実験 I	1	0	3						
有機化学基礎実験	1	0	3						
応用化学基礎演習 II	1	0	2						
有機化学 II	2		2	0					
物理化学 I	2		2	0					
分析化学 II	2		2	0					
化学工学基礎実験	1		3	0					
無機・分析化学実験 II	1		3	0					
応用化学基礎演習 III	1		2	0					
物理化学 II	2		0	2					
化学工学 II	2		0	2					
生物化学	2		0	2					
有機化学実験	1		0	3					
応用化学実験 I	1		0	3					
応用化学基礎演習 IV	1		0	2					
応用化学総論	3				3	0			
物理化学実験	2				6	0			
応用化学実験 II	2				6	0			
化学工学実験 I	3				0	8			
工業化学実験 I	2				0	6			
応用化学専門演習	1				0	2			
卒業論文	2						◎	◎	
専門必修科目合計	52	10	16	14	14	15	16		

(II) コース別必修科目

他コースの科目は、コース共通専門選択科目として扱う。

工業化学コース

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
工業化学実験Ⅱ	2							6	0

化学工学コース

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
化学工学実験Ⅱ	2							6	0

(III) 専門選択科目 (アドバンス)

下記の科目から11単位以上(望ましくは17単位)を修得しなければならない。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
無機固体化学	2					2	0		
生理活性物質化学	2					2	0		
電気化学	2					2	0		
触媒化学	2					2	0		
高分子化学	2					2	0		
酵素工学	2					2	0		
医用化学工学	2					2	0		
環境調和プロセス工学	2					2	0		
有機金属化学	2					2	0		
電子材料化学	2					0	2		
精密合成化学	2					0	2		
バイオプロセス	2					0	2		
工業化学総論	2					0	2		
機器分析演習	1					0	2		
専門選択科目 (アドバンス) 合計	27					18	10		

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目専門修生、外国学生等

(IV) 専門選択科目（コース別）

4年時に下記の科目（または大学院先取科目）から4単位以上を修得することが望ましい。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
先端無機化学	2							2	0
先端有機化学Ⅰ	2							2	0
先端有機化学Ⅱ	2							2	0
先端物理化学Ⅰ	2							2	0
先端物理化学Ⅱ	2							2	0
先端化学工学Ⅰ	2							2	0
先端化学工学Ⅱ	2							2	0
先端生物化学	2							2	0
専門選択科目（コース別）合計	16							16	0

(V) 専門選択科目（共通）

下記の科目については、できるだけ多くの科目を選択することが望ましい。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
コンピュータリテラシー	2	0	2						
化学史・化学技術史	2	0	2						
振動と波動	2			2	0				
生命科学概論A	2			2	0				
細胞生物学B	2					2	0		
生物学実験	1					集中	0		
化学工学熱力学	2					0	2		
プロセス設計	2					0	2		
プロセス開発	2					0	2		
環境化学工学	2					0	2		
知的所有権特論	2							2	0
先進理工技術経営	2							2	0
技術者倫理（共通）	1							2	0
化学物質リスクマネジメント	1							集中	0
社会技術革新学	1							集中	0
専門選択科目（共通）合計	26	0	4	4	0	2	8	6	0

生命医科学科

分子やナノレベルで事象を捉える学問である物理と化学を基盤とし、主に分子生物学を中心に生命現象を理解しながら生命科学ならびに生命工学の知識を身につける。また、医学等への応用を指向しつつ、理工系分野や生物学を基礎として持つ融合分野の研究と教育を特色とする。理工系の学問を共通基盤とすることにより、従来の学術世界にとどまる生命科学を脱却し、実用に耐えうる高い目標設定の中で、時代の要請に応えられる理工系人材の育成を目標としている。

卒業研究着手の条件

卒業研究に着手するには、すべての必修単位を修得していることが望ましい。具体的な必要条件は、年度初めのガイダンス時に通知する。

大学院推薦の基準

成績上位の者は、大学院進学を許可する推薦制度が設けられている。具体的な推薦基準は、年度初めのガイダンス時に通知する。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部履修

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者、
再入学者等

19. 科目等履修生
外国学生等

生命医科学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
生命医科学ゼミナール I	2	2	0						
解剖・組織学実習	2	0	2						
分子細胞生物学 I	4			2	2				
応用数学	2			2	0				
生命系物理化学	2			2	0				
生命系物性学	2			2	0				
生理学 I	2			2	0				
生命医科学実験 I	2			8	0				
生理学 II	2			0	2				
基礎微生物学	2			0	2				
生化学	2			0	2				
生体分子工学 I	2			0	2				
分子細胞生物学 II	4					2	2		
生体分子工学 II	2					2	0		
発生生物学	2					2	0		
神経科学	2					2	0		
生命医科学実験 II	3					8	0		
薬理学	2					0	2		
ゲノム医科学	2					0	2		
生命医科学ゼミナール II	2					0	2		
臨床医学概論	2					0	2		
生命医科学実験 III	3					0	8		
卒業研究	2							◎	◎
専門必修科目合計	52	2	2	18	10	16	18		

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録
- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部受講
- 11. 学科別案内 (C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外留学生等

(II) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
Cプログラミング入門	2			2	0				
Cプログラミング	2			0	2				
分子微生物学	2					2	0		
バイオインフォマティクス演習	2					0	2		
バイオマテリアル	2					0	2		
生物統計学	2					0	2		
環境衛生学	2					0	2		
生体物質解析概論	2							2	0
脳神経科学	2							2	0
病態医化学	2							2	0
細胞情報学	2							2	0
循環制御医科学	2							2	0
生命医科学実験Ⅳ	3							8	0
生体分子集合科学	2							0	2
海洋生命資源工学	2							0	2
生物機能工学	2							0	2
生命医科学実験Ⅴ	3							0	8
専門選択科目合計	36			2	2	2	8	18	14

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録
- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部履修
- 11. 学科別案内
(C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、
再入学者等
- 19. 科目等履修生
外国学生等

電気・情報生命工学科

新世紀を迎え、ますます発展する情報化社会の中で、電気・電子・情報・通信の分野では様々な技術の創出が急速に進んでいる。例えば、環境エネルギー、ナノテクノロジー、光エレクトロニクス、医用工学などが一層高度化され、豊かな暮らしを支えるためにそれらの更なる融合が求められている。また、生命系の知識を備えた電気系技術者に対する期待も非常に大きくなると予想される。一方、ゲノムやタンパク質、脳・神経機能の解明とその応用には、生命系の知識以外に情報処理やナノテクノロジーの素養も必要となってくる。こうした社会状況を踏まえ、本学科では、産業競争力の基盤の一つである電気電子情報通信系学問・技術領域を一層発展させると同時に、総合的、俯瞰的な展望から「生命」という新たな領域を融合させることによって、新しい学問領域を創り、これらの分野で活躍する人材を育成することを目指す。

このような電気・電子・情報・生命系という広い学問体系の中で、自分の適性と本当に学びたいことを見出し、勉学の方向性を決定していくための教育プログラムとして「科目群制度」を用意した。どのような学問体系を自らの中で創造していくかは諸君の自由であるが、各自の学問体系を築き上げるための努力を怠ってはならない。この教育プログラムの中で、幾つかの学問領域の本質に触れ、異なる分野の「物の見方・考え方」に出会うことによって、既存の学問領域の垣根を越えた視点から物事を捉えられるようになるであろう。

学科目は、「基礎科目」「専門科目」「先端科目」からなる。電気・情報生命工学科に設置されているこれら専門教育科目（C群科目）から65単位以上を次に従って修得しなくてはならない。

- (1)「基礎科目」(22単位)は、共通知識として学ぶべき科目であり、本学科に所属する諸君全員が修得しなければならない。
- (2)「専門科目」は、電気・電子・情報・生命といった広範な学問領域において、各々の核となる専門知識への導入科目である。ある分野に重要な基礎知識を身に付けるために、幾つかの専門科目をまとめて配当表にあるように8の「専門科目群」として分類している。1つの専門科目群を修めることで、自分の有する知識の専門性を明確にすることができる。この多様な選択肢の中から幾つかの興味ある群を自ら選択し履修することになる。複数の群に触れることで、物の見方・考え方や思考プロセスに多様性を持たせることができる。
- (3)「先端科目」は、「専門科目」を修得した上で先端的な知識を修得するために設けられた科目であり、全て選択科目である。

「専門科目」と「先端科目」から43単位あるいはそれ以上を各自の特性や志望によって選択・修得する。なお、「専門科目群」については、3年生未までに別に定める要件を満たしていないと卒業研究に着手することができない。専門科目や進路の選択については、クラス担任に相談することが望ましい。

「基礎科目」および2～3の「専門科目群」を履修し、幾つかの先端科目と合わせることで、ある1つの先端学術領域において必要となる知識を修得する事ができる。

以上のように当学科のカリキュラムは、電気・電子・情報・生命といった広範な学問領域を扱いながら、その中から効果的に各自の軸足となる学術領域を見出し、究めていくことを可能にしている。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A1群科目

6. A2群科目

7. B群科目

8. C群科目

9. D群科目

10. 他学部受講

11. 学科別案内
(C群科目)

物理

応物

化学

応化

生医

電生

12. 教職免許

13. 科目登録

14. 授業時間帯

15. 試験

16. 成績の表示

17. 転科試験

18. 復学者、
再入学者等

19. 科目等履修生
外留学生等

卒業研究着手の条件

電気・情報生命工学科独自の条件として以下の全ての条件を満たすこと。但し、変更もあり得るので、卒業研究着手の前年度はじめに発表される条件を必ず確認すること。

1. A群科目は卒業に必要とされる全ての単位を修得していること。
2. B群科目は卒業に必要とされる全ての単位を修得していること。
3. C群科目の「基礎科目」は、1～3年次に配当される全ての単位を修得していること。
4. C群科目の「専門科目」は、8の専門科目群のうち2つ以上の科目群について、その科目群に含まれる全ての科目の単位を修得していること。
5. 卒業に必要とされる全ての科目について、予め決められた必要単位数以上を修得していること。必要単位数はその前年度のはじめに発表する。

電気・情報生命工学科 専門教育科目配当表

電気・情報生命工学科の専門教育科目（C群科目）は、以下の「基礎科目」、「専門科目」、「先端科目」の三つに大別される。「基礎科目」には専門必修科目と専門選択必修科目がある。

(I-1) 基礎科目（専門必修科目）

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数											
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度					
		前	後	前	後	前	後	前	後				
電気・情報生命工学フロンティア	2	0	2										
回路理論A	2			2	0								
回路理論A演習	1			2	0								
電気・情報生命工学実験A	2			0	4								
電気・情報生命工学実験B	2					4	0						
プロジェクト研究A	1					2	0						
電気・情報生命工学実験C	2					0	4						
プロジェクト研究B	1					0	◎						
科学技術と倫理	2									0	2		
卒業研究A	2									◎	◎		
卒業研究B	2									◎	◎		
専門必修科目合計	19	0	2	4	4	6	4	0	2				

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外国学生等

(I-2) 基礎科目 (専門選択必修科目)

電磁気学要論と電磁気学要論演習, 電磁気学Aと電磁気学A演習の組み合わせのうち必ず一つを履修しなければならない。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
電磁気学要論	2	2	0						
電磁気学要論演習	1	2	0						
電磁気学A	2	2	0						
電磁気学A演習	1	2	0						
専門選択必修科目合計	6	8	0						

(II) 専門科目

重複を含めて8つの「専門科目群」が構成されており, 学生は複数の群を選択し, 選択した科目群に含まれるすべての科目を履修することが義務づけられる。

複数の「専門科目群」を取得した上で, C群科目の総単位数(基礎科目を含めて)が65単位を超えるように先端科目あるいは専門科目を選択して履修しなければならない。

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
電磁気学B	2	0	2						
電磁気学B演習	1	0	2						
数値解析	2			2	0				
量子論	2			2	0				
半導体の物理	2			2	0				
物性基礎論	2			2	0				
信号処理	2			2	0				
分子生物学 I	2			2	0				
数学C (ベクトル解析)	2			2	0				
数学D (微分方程式)	2			2	0				
基礎統計熱力学	2			2	0				
生物有機化学	2			2	0				
電磁エネルギー変換	2			0	2				
量子力学	2			0	2				

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
回路理論B	2			0	2				
回路理論B演習	1			0	2				
システム解析	2			0	2				
プログラム設計とアルゴリズム	2			0	2				
計算機アーキテクチャ	2			0	2				
生物学史	2			0	2				
分子生物学Ⅱ	2			0	2				
生化学	2			0	2				
数学E（関数論）	2			0	2				
発生生物学	2			0	集中				
電力回路	2					2	0		
電気機器	2					2	0		
数理計画法	2					2	0		
制御工学	2					2	0		
オペレーティングシステム	2					2	0		
情報理論	2					2	0		
遺伝学	2					2	0		
生理学	2					2	0		
神経生物学	2					2	0		
数理生物学	2					2	0		
場の理論入門	2					0	2		
画像処理	2					0	2		
パターン認識	2					0	2		
データビジュアライゼーション	2					0	2		
分子進化学	2					0	2		
薬理学Ⅰ	2					0	2		
免疫学	2					0	2		
専門選択科目合計	80	0	4	20	22	20	14		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目登録後生 外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

専門科目群（重複を含めて専門科目から成る8つの群）

- I 「エネルギーパワー」専門科目群（電磁気学B，電磁気学B演習，数学D（微分方程式），システム解析，電磁エネルギー変換，数値解析，電気機器，電力回路）
- II 「制御理論」専門科目群（回路理論B，回路理論B演習，数学C（ベクトル解析），数学D（微分方程式），システム解析，数値解析，数理計画法，制御工学）
- III 「電子材料物性」専門科目群（電磁気学B，電磁気学B演習，数学D（微分方程式），数学E（関数論），基礎統計熱力学，半導体の物理，物性基礎論，生物有機化学）
- IV 「場と量子論」専門科目群（電磁気学B，電磁気学B演習，数学C（ベクトル解析），数学D（微分方程式），数学E（関数論），量子論，量子力学，場の理論入門）
- V 「信号処理」専門科目群（回路理論B，回路理論B演習，数学D（微分方程式），数値解析，情報理論，信号処理，パターン認識，画像処理）
- VI 「ソフトウェア工学」専門科目群（数学D（微分方程式），計算機アーキテクチャ，数値解析，プログラム設計とアルゴリズム，オペレーティングシステム，数理計画法，データビジュアルゼーション）
- VII 「分子生命情報」専門科目群（分子生物学I，分子生物学II，遺伝学，生物有機化学，生化学，数理生物学，分子進化学）
- VIII 「高次生命機能」専門科目群（分子生物学I，薬理学I，免疫学，神経生物学，生理学，発生生物学，生物学史）

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部受講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者 再入学者等
19. 科目等履修生 外留学生等

(Ⅲ) 先端科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
デジタル回路	2			2	0				
確率・統計	2			2	0				
プラズマエレクトロニクス	2			0	2				
電子回路A	2			0	2				
電気法規・施設管理	2					2	0		
電子回路B	2					2	0		
電子デバイス	2					2	0		
光デバイス	2					2	0		
光記録	2					2	0		
誘電体材料	2					2	0		
物質の量子論	2					0	2		
電力システム工学	2					0	2		
フォトニクス	2					0	2		
計測工学	2					0	2		
多変量解析	2					0	2		
電力工学	2							2	0
電気伝導論	2							2	0
パワーエレクトロニクス	2							2	0
ネットワーク	2							2	0
薬理学Ⅱ	2							2	0
遺伝子工学	2							2	0
時間生物学	2							2	0
組織・解剖学	2							2	0
エネルギー変換	2							2	0
物質の電子論	2							2	0
集積回路	2							2	0
ゲノム情報工学	2							集中	0
現代電力系統技術	2							0	2
磁性と超伝導	2							0	2
マシンデザイン	2							0	2
メカトロニクス	2							0	2
システムバイオロジー	2							0	集中
専門選択科目合計	64	0	0	4	4	12	10	22	8

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者・ 再入学者等
19. 科目等履修生 外国学生等

12 教員免許状の取得方法

中学校・高等学校の教育職員（以下「教員」という）となるためには、教員免許状を取得しなければならない。そのためには、卒業に必要な単位のほかに、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」（教育学部設置）および「教科又は教職に関する科目」を履修する必要がある。

教員免許状の取得を希望する学生は、**教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を熟読の上、1年生から計画を立てて必要な科目を履修すること。**「教科に関する科目」は、原則として別掲の各学科ごとの「教科に関する科目一覧表」にしたがって履修する。「教職に関する科目」の授業は教育学部（西早稲田キャンパス）で行うので、教育学部による科目登録日程等の掲示には十分注意すること。

本学部で取得できる教員免許状の種類、免許状取得に関する最低修得単位数、教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目の内容、各学科の設置科目は次の通りである。

(1) 各学科で取得できる教員免許の種類

学 科	免許状の種類	
	中学1種	高校1種
物 理 学 科	理科 数学	理科 数学
応 用 物 理 学 科	理科 数学	理科 数学 情報
化学・生命化学科	理科	理科
応 用 化 学 科	理科	理科
生 命 医 科 学 科	理科	理科
電 気 ・ 情 報 生 命 工 学 科	理科 数学	理科 数学 情報

(2) 免許状取得に関する最低修得単位数

免許状の種類	基礎資格	日本国 憲 法 (注1)	体 育 (実技) (注2)	外国語 コミュニ ケーション (注3)	情 報 機 器 の 操 作 (注4)	教科に 関する 科 目	教職に 関する 科 目	教科又 は 教 職 に 関 する 科 目 (注5)
中学校教諭 1種免許状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	20	31	8
高等学校教諭 1種免許状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	20	25	14

(注1) 日本国憲法に関する単位は、本学部配当「憲法Ⅰ」・「憲法Ⅱ」（各2単位をともに履修のこと）が該当する。

(注2) 体育の単位は、オープン教育センター設置の「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」又は「スポーツ理論」が該当する。

(注3) 外国語コミュニケーションは、本学部配当「Communication strategies 1」, 「Communication strategies 2」, 「Academic Lecture Comprehension 1」, 「Academic Lecture Comprehension 2」（各1単位をすべて履修のこと）が該当する。

(注4) 情報機器の操作は、本学部配当「コンピュータリテラシー」（2単位）が該当する。

(注5) 「教科に関する科目」「教職に関する科目」の最低修得単位数を越えて修得した単位も「教科又は教職に関する科目」として算入される。

(3) 教職に関する科目

教職課程科目の年間登録制限単位数は20単位である。但し、「介護体験実習講義」「教職研究Ⅰ～Ⅸ」は制限単位に含まれない。

教育職員免許法施行規則に定められている科目		必要 単位	教育学部設置科目	単位	履修 方法
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	教職概論	2	
	教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）				
	進路選択に資する各種機会の提供等				
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理	4	必 修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項				
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学	2	
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学 12 高校 8	教育原理に含む		必 修
	各教科の指導法		教科教育法1・2	4	
	道徳の指導法		教科教育法3（注1）	2	
	特別活動の指導法		道徳教育論（注2）	2	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		特別活動論	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導論	2	必 修
	進路指導の理論及び方法				
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育臨床論	2	
総合演習		2	総合演習	2	
教育実習		中学 5	教育実習演習（中学）	5	(注3)
		高校 3	教育実習演習（高校）	3	

(注1) 「教科教育法」は、各自が取得を希望する免許状の教科ごとに履修すること。高等学校1種免許状を取得する場合に「教科教育法3」を履修した場合は、「教科又は教職に関する科目」の単位に算入される。

(注2) 高等学校1種免許状を取得する場合に「道徳教育論」を履修した場合は、「教科又は教職に関する科目」の単位として算入される。

(注3) ・中学校の免許状を取得する場合、「教育実習演習（中学）」を履修すること。
 ・高等学校のみの免許状を取得する場合、「教育実習演習（高校）」を履修すること。
 ・中学校・高等学校の両免許状を取得する場合、「教育実習演習（中学）」のみ登録すること。
 ・教育実習を行うには各種の前提条件が設定されている。この条件を満たさない場合は教育実習を行えないので注意すること。

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内(C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、再入学者等
19. 科目専願生、外国留学生

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

(4) 教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則に定められている科目	教育学部設置科目	単位	履修方法
教科又は教職に関する科目（注2）	介護体験実習講義（注1）	2	中学のみ必修 選択
	教職研究Ⅰ～Ⅸ	2	
	教育インターンシップ	4	
	人間理解基盤講座	2	
	学習指導基盤講座	2	

（注1）介護等体験を行うには前提条件が設定されている。この条件を満たさない場合は介護等体験が行えないので注意すること。中学校1種免許状を取得する場合に、介護等体験は必要となる。詳細は教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。

（注2）「教科に関する科目」「教職に関する科目」の最低修得単位数を越えて修得した単位も「教科又は教職に関する科目」として算入される。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部受講
11. 学科別案内 (C群科目)

(5) 教科に関する科目の履修方法

各教科の「教科に関する科目」について、各項目ごとに1単位以上、計20単位以上修得する必要がある。

免許教科	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
	教科に関する科目	教科に関する科目
数 学	代数学 幾何学 解析学 *「確率論, 統計学」 コンピュータ	代数学 幾何学 解析学 *「確率論, 統計学」 コンピュータ
理 科	物理学 物理学実験（コンピュータ活用を含む。） 化学 化学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学 生物学実験（コンピュータ活用を含む。） 地学 地学実験（コンピュータ活用を含む。）	物理学 化学 生物学 地学 *「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）」 化学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学実験（コンピュータ活用を含む。） 地学実験（コンピュータ活用を含む。）
工 業		工業の関係科目 職業指導
情 報		情報社会及び情報倫理 コンピュータ及び情報処理（実習を含む。） 情報システム（実習を含む。） 情報通信ネットワーク（実習を含む。） マルチメディア表現及び技術（実習を含む。） 情報と職業

*「 」内の中ものは、科目群を表す。科目群の修得方法は、「 」内の科目一つ以上にわたって上記の表に挙げる単位を修得しなければならない。

物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者 再入学者等
19. 科目等履修生 外留学生等

(6) 学科別教科に関する科目一覧表

各学科には取得できる免許状の種類に応じて教科に関する科目が設置されているが、不足する科目については他学科・他学部聴講によって補う必要がある。実験を他学科聴講する場合は、設置学科の許可が必要のため、授業開始前に理工学統合事務所に申し出ること。

物理学科：数学

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数		
			中学	高校				
代 数 学	○数学A1	4	/	/				
	○数学概論A	2						
	○複素関数論1	2						
	○複素関数論2	2						
幾 何 学	※幾何学B1 (基幹:数学)	2	1科目	1科目	※幾何学C (基幹:数学)	2		
	※幾何学B2 (基幹:数学)	2	選択必修	選択必修	※幾何学D1 (基幹:数学)	2		
					※幾何学D2 (基幹:数学)	2		
					※幾何学E1 (基幹:数学)	2		
					※幾何学E2 (基幹:数学)	2		
					非線形現象の数理	2		
解 析 学	○数学B2	6	/	/	数学概論B	2		
	○場の数理	2			関数解析	2		
					偏微分方程式論	2		
					応用解析	2		
					数学演習	4		
「確率論、統計学」	○統計力学A	2	/	/				
	統計力学B	2			1科目	1科目		
	応用確率過程	2			選択必修	選択必修		
コンピュータ	Cプログラミング入門	2	1科目必修	1科目必修	Cプログラミング	2		

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、再入学者等
19. 科目等履修生、外国学生等

物理学科：理科

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
物 理 学	○力学A1	2	/	/	物理学演習B	4
	○力学B1	2			物理実験学	4
	○物理学研究ゼミナール	2			電子工学A	2
	○物理入門	1			電子工学B	2
	○解析力学	2			連続体の物理	2
	○波の物理	2			現代物理学特論	2
	○電磁気学A	2			量子力学C	2
	○電磁気学B	2			固体物理学A	2
	○物理学演習A	4			固体物理学B	2
	○熱力学	2			素粒子物理学	2
	○量子力学A	2				
	○量子力学B	2				
化 学	化学B1	2	1科目必修	1科目必修	場の量子論入門	2
生 物 学	生命科学概論A	2	1科目 選択必修	1科目 選択必修	生物物理学A	2
	生命科学概論B	2			生物物理学B	2
	細胞生物学A	2	1科目 必修	1科目 必修	生物学A	2
					生物学B	2
地 学	地球科学A	2	2科目	2科目	宇宙物理学	2
	地球科学B	2	必修	必修	原子核物理学	2
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験2B	3	/	/		
	○物理学実験B	2				
	○物理学実験A	6	1科目必修			
化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験1B	3	/	1科目		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	※生物学実験(応化)	1	1科目 必修	選択必修		
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	※地球科学実験A(創造:資源)	1	1科目			
	※地球科学実験B(創造:資源)	1	選択必修			

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

応用物理学科：数学

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
代 数 学	○数学A1	4	/	/		
	○数学概論A	2				
	○複素関数論1	2				
	○複素関数論2	2				
幾 何 学	※幾何学B1 (基幹:数学)	2	1科目	1科目	※幾何学C (基幹:数学)	2
	※幾何学B2 (基幹:数学)	2	選択必修	選択必修	※幾何学D1 (基幹:数学)	2
					※幾何学D2 (基幹:数学)	2
					※幾何学E1 (基幹:数学)	2
					※幾何学E2 (基幹:数学)	2
					非線形現象の数理 相対性理論	2
解 析 学	○数学B2	6	/	/	数学概論B	2
	○場の数理	2			関数解析	2
					偏微分方程式論	2
					応用解析	2
					数学演習	4
「確率論、統計学」	○統計力学A	2	/	/	統計力学B	2
	応用確率過程	2				
コンピュータ	○Cプログラミング入門	2	/	/	Cプログラミング	2

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、再入学者等
19. 科目等履修生、外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部受講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外留学生等

応用物理学科：理科

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
物 理 学	○力学A1	2	/	/	応用物理学演習	4
	○力学B1	2			物理実験学	4
	○応用物理学研究ゼミナール	2			電子工学A	2
	○物理入門	1			電子工学B	2
	○解析力学	2			連続体の物理	2
	○波の物理	2			現代物理学特論	2
	○電磁気学A	2			量子力学C	2
	○電磁気学B	2			固体物理学A	2
	○熱力学	2			固体物理学B	2
	○量子力学A	2				
○量子力学B	2					
○物理学演習	4					
化 学	化学B1	2	1科目必修	1科目必修	場の量子論入門	2
生 物 学	生命科学概論A	2	1科目 選択必修	1科目 選択必修	生物物理学A	2
	生命科学概論B	2			生物物理学B	2
地 学	地球科学A	2	2科目 必修	2科目 必修	宇宙物理学	2
	地球科学B	2			原子核物理学	2
物理 応物	○理工学基礎実験2B	3	/	/		
	○応用物理学実験B	2				
化学 応化	○理工学基礎実験1B	3	/	/		
	○応用物理学実験A	6			1科目必修	
生医 電生	○理工学基礎実験1B	3	/	/		
	○応用物理学実験A	6			1科目必修	
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	※生物学実験(応化)	1	1科目 必修	/		
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	※地球科学実験A(創造:資源)	1	1科目 選択必修			
	※地球科学実験B(創造:資源)	1	1科目 選択必修			

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

応用物理学科：情報

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法	選択科目	単位数
			高校		
情報社会及び情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2	2科目 必修		
コンピュータ及び情報処理(実習を含む)	Cプログラミング	2	1科目 必修	計測原論	2
				計測システム	2
				※情報基礎演習(MNC)	2
				※プログラミング初歩(MNC)	2
				※プログラミング中級(MNC)	2
				※コンピュータによる金融工学入門Ⅰ(MNC)	2
				※コンピュータによる金融工学入門Ⅱ(MNC)	2
情報システム(実習を含む)	情報処理システム ダイナミカルシステム ※データベース設計(基幹:情報)	2 2 2	3科目 必修		
情報通信ネットワーク(実習を含む)	※情報ネットワーク(基幹:情報)	2	1科目 必修	※ネットワーク技術Ⅰ(MNC)	2
				※ネットワーク技術Ⅱ(MNC)	2
				※トラヒック理論(基幹:情報)	2
				※伝送理論(基幹:情報)	2
				※情報セキュリティ(基幹:情報)	2
				※信号処理(基幹:情報)	3
				※ネットワーク技術Ⅲ(MNC)	2
				※ネットワーク技術Ⅳ(MNC)	2
マルチメディア表現及び技術(実習を含む)	応用光学 デジタル信号処理	2 2	2科目 必修	※マルチメディア入門(MNC)	2
				シミュレーション技術と文化	2
情報と職業	※情報社会論(基幹:情報)	2	1科目必修	※情報化社会概論(MNC)	2

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 学科別案内(C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者・再入学者等
19. 科目等履修生・外国学生等

化学・生命化学科：理科

I 特徴	免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
				中学	高校		
II 沿革と概要	物 理 学	○力学C	2	/	/	解析力学	2
III 学部要項						化学統計力学	2
IV 学生生活						磁気共鳴化学	2
V 付 録						分光化学	2
						量子化学	2
						構造化学	2
						物理化学実験学	2
						固体物理学A	2
						固体物理学B	2
						物理学	2
	1. 単位制	化 学	○基礎化学A ○基礎化学B ○物理化学A ○物理化学B ○物理化学C ○有機化学A ○有機化学B ○有機化学C ○無機化学A ○無機化学B ○無機化学C ○分析化学概論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	/	/	金属錯体化学A
2. 学位・卒業	金属錯体化学B						2
3. 学 費	有機立体化学						2
4. 学科目系列	構造有機化学						2
5. A1群科目	反応有機化学						2
6. A2群科目	無機反応論						2
7. B群科目	高分子化学						2
8. C群科目	計算化学						2
9. D群科目	電気化学						2
10. 他学部聴講	触媒化学						2
11. 学科別案内(C群科目)	放射化学	2					
物理 応物 化学 応化 生医 電生	生 物 学	○生命科学概論A ○生命化学A ○生命化学B	2 2 2	/	/	細胞生物学B	2
						生体構成物質化学	2
						生物学A	2
12. 教職免許	地 学	※地球科学A(応物, 物理, 創造:資源, 創造:社工)	2	2科目 必修	2科目 必修		
		※地球科学B(応物, 物理, 創造:資源, 創造:社工)	2				
13. 科目登録	物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験2B	3	/	/		
		○物理化学実験	4				
14. 授業時間帯	化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○有機化学実験	4	/	/		
		○理工学基礎実験1B	3				
15. 試 験	生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	生命化学実験	4	1科目 必修	選択必修	※生物学実験(応化)	1
16. 成績の表示	地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	※地球科学実験A(創造:資源)	1	1科目 選択必修	/		
		※地球科学実験B(創造:資源)	1				
17. 転科試験							
18. 復学者 再入学者等							
19. 科目等履修生 外留学生等							

① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

応用化学科：理科

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
物 理 学	○力学C	2	/	/	物理学	2
	○基礎電磁気学	2			先端物理化学 I	2
	○物理化学 I	2			先端物理化学 II	2
	○物理化学 II	2				
化 学	○無機化学 I	2	/	/	無機固体化学	2
	○無機化学 II	2			生理活性物質化学	2
	○有機化学 I	2			電気化学	2
	○有機化学 II	2			触媒化学	2
	○分析化学 I	2			高分子化学	2
	○分析化学 II	2			有機金属化学	2
	○応用化学総論	3			電子材料化学	2
					精密合成化学	2
生 物 学	○生物化学	2	/	/	酵素工学	2
	生命科学概論 A	2			バイオプロセス	2
	細胞生物学 B	2				
	先端生物化学	2				
地 学	※地球科学 A (応物, 物理, 創造: 資源, 創造: 社工)	2	1科目	1科目		
	※地球科学 B (応物, 物理, 創造: 資源, 創造: 社工)	2	選択必修	選択必修		
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験 2B	3	/	/		
	○物理化学実験	2				
化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○有機化学基礎実験	1	/	/		
	○無機・分析化学実験 I	1				
	○化学工学基礎実験	1				
	○理工学基礎実験 1B	3			1科目	選択必修
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	○工業化学実験 I	2	/	/		
	※生物学実験 (応化)	1			1科目	必修
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	※地球科学実験 A (創造: 資源)	1	1科目			
	※地球科学実験 B (創造: 資源)	1	選択必修			

① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者・再入学者等
19. 科目等履修生・外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

生命医科学科：理科

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
物 理 学	○力学C	2	/	/	物理学	2
	○基礎電磁気学	2				
	○生命系物理化学	2				
	○生命系物性学	2				
化 学	○化学B2	2	/	/	バイオマテリアル 生体分子集合科学	2 2
	○化学C	2				
	○生体分子工学Ⅰ	2				
	○生体分子工学Ⅱ	2				
	○生化学	2				
生 物 学	○生命科学概論B	2	/	/		
	○細胞生物学B	2				
	○分子細胞生物学Ⅰ	4				
	○分子細胞生物学Ⅱ	4				
	○生理学Ⅰ	2				
	○生理学Ⅱ	2				
	○基礎微生物学	2				
	○発生生物学	2				
	○神経科学	2				
	○薬理学	2				
	○ゲノム医科学	2				
地 学	※地球科学A(応物, 物理, 創造:資源, 創造:社工)	2	2科目 必修	2科目 必修		
	※地球科学B(応物, 物理, 創造:資源, 創造:社工)	2				
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験2B	3	/	/		
化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○生命医科学実験Ⅰ	2				
	○理工学基礎実験1B	3				
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	○生命医科学実験Ⅱ	3				
	○生命医科学実験Ⅲ	3				
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	※地球科学実験A(創造:資源)	1	1科目 選択必修	/		
	※地球科学実験B(創造:資源)	1				

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

電気・情報生命工学科：数学

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
代 数 学	○数学A1	4	/	/	回路理論B	2
	○回路理論A	2				
幾 何 学	※幾何学B1 (基幹:数学)	2	1科目 選択必修	1科目 選択必修		
	※幾何学B2 (基幹:数学)	2				
	※幾何学C (基幹:数学)	2				
	※幾何学D1 (基幹:数学)	2				
	※幾何学D2 (基幹:数学)	2				
	※幾何学E1 (基幹:数学)	2				
※幾何学E2 (基幹:数学)	2					
解 析 学	○数学B1	4	1科目 選択必修	1科目 選択必修	システム解析	2
	数学C	2				
	数学D	2				
	数学E	2				
「確率論，統計学」	※確率統計概論 (基幹:数学)	4	1科目 選択必修	1科目 選択必修	信号処理	2
	確率・統計	2				
コンピュータ	Cプログラミング入門	2	1科目 選択必修	1科目 選択必修	数理計画法	2
	Javaプログラミング入門	2				

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学 科 目 系 列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、再入学者等
19. 科目等履修生、外国学生等

電気・情報生命工学科：理科

I 特徴	II 沿革と概要	III 学部要項	IV 学生生活	V 付録	免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数	
								中学	高校			
					物理学	○力学A ○力学B ○電磁気学要論 ○電磁気学A	2 2 2 2			物理学 基礎統計熱力学 電磁気学B 物性基礎論 半導体の物理 量子論 量子力学 場の理論入門 物質の量子論 物質の電子論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
					化学	○化学B1 生化学 遺伝子工学	2 2 2			生物有機化学	2	
					生物学	○細胞生物学A 生命科学概論A 生命科学概論B	2 2 2			分子生物学1 遺伝学 生理学 分子生物学2 薬理学1 薬理学2 神経生物学 免疫学 数理生物学 分子進化学 生物学史 発生生物学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
					地学	※地球科学A(応物, 物理, 創造:資源, 創造:社工) ※地球科学B(応物, 物理, 創造:資源, 創造:社工)	2 2		2科目 必修	2科目 必修		
					物理学実験(コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験2B ※物理学実験B(物理)	3 2		1科目 必修		※物理学実験A(物理)	6
					化学実験(コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験1B	3			1科目		
					生物学実験(コンピュータ活用を含む)	○電気・情報生命工学実験A ○電気・情報生命工学実験B ※生物学実験(応化)	2 2 1			1科目 選択必修	電気・情報生命工学実験C	2
					地学実験(コンピュータ活用を含む)	※地球科学実験A(創造:資源) ※地球科学実験B(創造:資源)	1 1		1科目 選択必修			

- ① 上記表から履修方法を充足したうえで「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」:「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 ③ 「電気・情報生命工学実験C」は『生物学系の研究室』に配属される者しか認定教職科目の単位として算入できない。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

電気・情報生命工学科：情報

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法	選択科目	単位数
			高校		
情報社会及び情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2	2科目 必修		
コンピュータ及び情報処理(実習を含む)	計算機アーキテクチャ	2	1科目 選択必修	情報理論	2
	制御工学	2		計測工学	2
	Cプログラミング	2		オペレーティングシステム	2
	Javaプログラミング	2		デジタル回路	2
	プログラム設計とアルゴリズム	2		数値解析	2
				※情報基礎演習(MNC)	2
		※コンピュータによる金融工学入門Ⅰ(MNC)	2		
		※コンピュータによる金融工学入門Ⅱ(MNC)	2		
		※コンピュータによる統計入門(MNC)	2		
		※コンピュータによる統計解析(MNC)	2		
情報システム(実習を含む)	Cアプリケーション開発	2	1科目 必修	※情報セキュリティ(基幹:情報)	2
情報通信ネットワーク(実習を含む)	ネットワーク	2	1科目または 1科目群の いずれか必修	※ネットワーク技術Ⅲ(MNC)	2
	※ネットワーク技術Ⅰ(MNC)と ネットワーク技術Ⅱ(MNC)の両方	4		※ネットワーク技術Ⅳ(MNC)	2
マルチメディア表現及び技術(実習を含む)	データビジュアライゼーション	2	1科目 必修	画像処理	2
				※マルチメディア入門(MNC)	2
				シミュレーション技術と文化	2
情報と職業	※情報社会論(基幹:情報)	2	1科目 必修	※情報化社会概論(MNC)	2

- ① 上記表から履修方法を充足したうえで「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の「教職課程履修の手引」を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録
- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学費
- 4. 科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部聴講
- 11. 学科別案内(C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者・再入学者等
- 19. 科目等履修生・外国学生等

13 履修科目の登録

(1) 選択・届出

学生は、指定された科目登録手続き期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては、本学部要項とWebシラバス、『科目登録の手引き』等を熟読して、各自の学習目標を定め、時間の余裕等も考慮し、必要に応じクラス担任と相談し指導を受け、適切な選択を行う必要がある。登録方法については、年度始めに配布される書類を熟読し、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。

なお、他学部、他学科の学科目を聴講したい場合には、「Ⅲ-10 他学科・他学部・他学術院等設置聴講科目」のページを参照すること。

Webシラバス <http://www2.sci.waseda.ac.jp/SYLLABUS/INDEX/>

(2) 無登録科目の受講禁止

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

(3) 登録後の変更禁止

登録した学科目の変更・取消は、決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。また、必ず登録の結果を確認すること。

14 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9 : 00 }	10 : 40 }	13 : 00 }	14 : 40 }	16 : 20 }	18 : 00 }	19 : 40 }
	10 : 30	12 : 10	14 : 30	16 : 10	17 : 50	19 : 30	21 : 10

15 試験

試験には、定期（前期・後期）試験、英語統一試験、レポート試験の他、授業時間中におこなわれる教場試験等がある。

(1) 定期試験

定期試験とは、前期試験および学年末（後期）試験として授業実施期間とは別の期間に、定期試験時間割を組んで実施する試験である。

試験に際しては、下記の注意事項に留意して受験すること。

- ① 定期試験時間割、および時間割発表後の試験に関する連絡は、正門前D掲示板および理工学統合事務所ホームページ上にて行うので、見落としのないようにすること。
- ② 同一科目でも学籍番号、クラス、学科等によって試験の日時が違ったり、試験場を分ける場合がある。
- ③ 同一時間に受験科目が重複している者は、理工学統合事務所に申し出て指示を受けること。
- ④ 学生証は、表面の署名欄に自筆署名をしたものを携帯し、受験中は机の端に提示しておくこと。学生証を携帯していない場合には、当日に試験本部において写真照合を行う。

なお、学生証を紛失した者は、再交付を受けておくこと。

- ⑤ 試験場においては、監督員の指示に従うこと。
 なお、着席位置確認のため「座席表」を使用する場合がある。指示があった場合には、座席表の着席位置に学籍番号・氏名を記入し、次の学生に回すこと。
- ⑥ 答案用紙には、氏名・学籍番号を明記すること。
- ⑦ 受験は試験開始後20分まで認め、退室は開始後30分を経過してから許可する。
- ⑧ 身内の不幸や病気・事故などによる入院、医師からの外出禁止措置等がとられた場合など、やむを得ない事情により試験を欠席した場合には、試験の代替措置等が考慮される場合がある。至急、公的機関の証明書または医師の診断書等を担当教員に提出して確認すること。
- ⑨ 不正行為を行った場合には、本学学則および本学部内規に基づき、原則として停学、および停学に付随する措置として、履修している全科目を無効とする。
 また、答案用紙はたとえ解答ができなくても持ち帰らず、必ず提出すること。答案を持ち帰る行為も不正行為と同等の扱いになるので、十分注意すること。

(2) 英語統一試験

英語統一試験とは、年4回1年生を対象に、定期的を実施される試験である。実施日時、勉強方法などについては、理工系英語教育センターのホームページを参照すること。

16 成績の表示

成績は、各学期ごとに定められた発表日にWaseda-net ポータル上で発表される。成績発表日については理工学統合事務所ホームページ・掲示板を確認すること。

成績表記はA⁺・A・B・C・Fをもって表示し、A⁺～Cを合格、Fを不合格とする。なお、成績発表の際にはこの他にH・S・*という記号を使用する。

- H……成績保留を意味する。担当教員から課題提出の指示などがある場合があるので、掲示や教員の指示を確認すること。なお、教員からの指示に従わずに年度を越えた場合には自動的にFとなる。
- S……不合格と評価された専門必修科目であるが、次年度の科目登録の際に他の学科目との曜日・時限重複を許可された学科目を示す。
- *……登録している科目で、担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評 価	A ⁺	A	B	C	F	H	S
点 数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～		
成績証明書	A ⁺	A	B	C	表示なし		
判 定	合 格				不 合 格		

17 転科試験

本学部における教育は、各学科ごとの4年間一貫した教育体系に基づいて行われている。したがって、入学した学科において学修することを前提としている。しかし、所属学科における勉学に著しい不適性を感じ、かつ転科志望の意志が強いなど特別な事情がある場合には、学科主任の承認のもとに転科試験に出願することができる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部履修
11. 学科別案内 (C群科目)

物理
応物
化学
応化
生医
電生

12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試 験
16. 成績の表示
17. 転科試験

18. 復学者・再入学者等
19. 科目専願生・外国学生等

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

転科試験においては、所属学部内で転科の他、理工学術院3学部（基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部）内での、転部を伴う転科をすることが可能である。しかし、年度によっては転科学生を受け入れない学科があり、受け入れる学科においても募集人員は若干名である。

転科試験の詳細については、転科試験要項（10月頃より理工学統合事務所カウンターにて販売開始予定）で確認すること。

なお、転科試験を出願するにあたり、転科後の勉学に耐えられるように、受験の前提条件として修得単位数等について厳しい制約条件が課せられるので、事前にクラス担任、学科主任と相談することが必要である。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A1群科目
6. A2群科目
7. B群科目
8. C群科目
9. D群科目
10. 他学部受講
11. 学科別案内 (C群科目)
物理
応物
化学
応化
生医
電生
12. 教職免許
13. 科目登録
14. 授業時間帯
15. 試験
16. 成績の表示
17. 転科試験
18. 復学者、 再入学者等
19. 科目等履修生 外留学生等

転科試験の受験資格は次の通りである。

【2年転科】

A1群（複合領域科目）を4単位、1年相当のA2群（外国語科目）およびB群・C群の各学科必修科目の全単位を修得していること。

【3年転科】

A1群（複合領域科目）を8単位、1・2年相当のA2群（外国語科目）およびB群・C群の各学科必修科目の全単位を修得していること。

18 復学者、再入学者、学士入学者の履修方法

(1) 復学者

休学者が復学した場合の履修方法は次のとおりである。

- ① 卒業に必要な所定単位およびその内訳は、入学した年度の規定による。
- ② 復学者の学科目履修上の学年は入学した年度より起算した学年から休学年数を除いた学年とする。但し、半期の休学により前記学年に端数が生じた場合は、端数を切り上げた学年とする。
- ③ 入学時と復学時の規定に相違がある場合に、復学後履修する学科目の指定は所属する学科の主任がこれを行う。

(2) 再入学者

退学を許可された者が、退学した学年の翌学年から起算して7年度以内に再入学を願い出て許可された場合の履修方法は次のとおりである。

- ① 再入学者の学年は原則として退学時の次の学年とする。
- ② 再入学者の卒業に必要な所定単位およびその内訳は、再入学後の同学年に在籍する学生が入学した年度の規定による。

(例 2007年度に入学し2年で退学、2010年度に3年に再入学した者には、2008年度に1年に入学した者の規定を適用する。)

- ③ 再入学者について、入学時と再入学時の規定に相違がある場合に、既に履修した学科目の単位の認定および再入学後履修する学科目の指定は、所属する学科主任がこれを行う。

(3) 学士入学者

学士入学者の履修方法は次のとおりである。

- ① 学士入学者の卒業に必要な所定単位およびその内訳は、学士入学後の同学年に在籍する学生が入学し

た年度の規定による。(例 2009年度に3年に編入する学士入学者には、2007年度に1年に入学した者の規定を適用する。)

- ② 学士入学者の既修単位が本学部の所定単位に相当すると認定された場合には、この履修を免除することができる。
- ③ 学士入学者は4年間をこえて在学することはできない。

19 科目等履修生・外国学生・帰国生

(1) 科目等履修生(一般履修生・委託履修生)

科目等履修生の入学は、年度の始めに限って選考のうえ許可される。なお、科目等履修生に対する入学の許可は、その年度限りであって、引き続いての聴講を希望する者は改めて願出の必要がある。

① 学科目の履修について

科目等履修生の受講できる学科目は、授業科目のうち講義科目に限るが、実験科目についても施設の許す範囲でこれを許可する。

② 学費について

下表のとおりであるが、実験・実習科目を受講する場合は、別に実験実習料を徴収する。

	一般	本 大 学 卒 業 生	本 大 学 大 学 院 在 学 生
入 学 金	70,000円	な し	な し
聴 講 料	1単位につき43,700円	同 左	な し
入学検定料	25,000円	同 左	な し

科目等履修生の詳細については、科目等履修生要項(2月頃理工学統合事務所カウンターにて販売開始予定)で確認すること。

(2) 外国学生

外国学生の入学制度は、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了し、その国において大学入学資格を有する者、またはこれに準ずる者を対象とする制度で、特別の選考を経て入学または編入学を許可する。

学修の必要に応じて、一般に配置された学科目の一部に代え、またはこれに加えて特別の学科目を履修しなければならない場合がある。

(3) 帰国生

帰国生の入学制度は、日本国籍を持つ者、又は「永住外国人等出入国管理及び難民認定法の別表第二」に掲げる者で、国の内外を問わず通常の課程による12年の初等、中等教育を修了し、かつ、海外において、外国の中等教育機関に最終学年を含め2年以上を継続して在学し出願時に帰国後1年以内もしくは海外在住中の者を対象とする制度で、特別の入学試験による選考を経て入学が許可される。

入学後は、一般学生と全く同一の取り扱いを受けるが、必要に応じて入学前に特別の予備教育が行われる。

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 学 費
- 4. 学科目系列
- 5. A1群科目
- 6. A2群科目
- 7. B群科目
- 8. C群科目
- 9. D群科目
- 10. 他学部聴講
- 11. 学科別案内(C群科目)
- 物理
- 応物
- 化学
- 応化
- 生医
- 電生
- 12. 教職免許
- 13. 科目登録
- 14. 授業時間帯
- 15. 試 験
- 16. 成績の表示
- 17. 転科試験
- 18. 復学者、再入学者等
- 19. 科目等履修生、外国学生等

IV

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

学生生活

1	学生の手帖 (Compass)	1. 学生の手帖
2	理工学術院および先進理工学部ホームページ	2. ホームページ
3	学籍番号	3. 学籍番号
4	クラス担任制度	4. クラス担任
5	学生相談	5. 学生相談
6	大学院への進学	6. 大学院進学
7	就職	7. 就職
8	学生証	8. 学生証
9	各種証明書類の交付	9. 証明書交付
10	各種願・届の提出	10. 各種願提出
11	奨学金制度	11. 奨学金
12	掲示	12. 掲示
13	教室・共通ゼミ室の使用	13. 教室の使用
14	学生の課外活動	14. 課外活動
15	安全管理	15. 安全管理
16	海外留学等	16. 海外留学
17	理工リエゾンオフィス	17. 理工リエゾン オフィス
18	禁煙キャンパス	18. 禁煙 キャンパス
19	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	19. 自転車禁止
20	理工学図書館・学生読書室	20. 図書館・ 読書室
21	LL・MM教室	21. LL-MM 教室
22	コンピュータ・ルーム	22. コンピュータ・ ルーム
23	実験施設紹介	23. 実験施設
24	総合健康教育センター大久保分室	24. 総合健康 教育センター
25	交通機関のストライキと授業	25. 交通機関 の影響
26	気象警報の発表と授業休講・試験延期等の措置	26. 気象警報 の影響

1 学生の手帖 (Compass)

この学部要項とは別に、大学から『学生の手帖』が配布される。学部要項が本学部における学修を中心に編集されているのに対し、『学生の手帖』は、本学における学生生活を中心に編集されている。学部要項と共に活用してもらいたい。

2 理工学術院および先進理工学部ホームページ

本学部ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。各学科からの案内、各種申請手続きや日程等の事務所からの情報、実験室等に関する情報を掲載している。
<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

3 学籍番号

本学部では入学のとき、学生個々について学籍番号を定めている。

学籍番号は、8桁から成っている。初め2桁は学部コード（先進理工学部は1Y）、次の2桁は入学年度（西暦年下2桁）、4桁目のアルファベットは学科コード（学科コード参照）、最後の3桁は学科内における学生の番号を示す。

学科コード

A—物理学科	(例)	(学籍番号)	(CD)
B—応用物理学科		1Y 07 A 001 4	
C—化学・生命化学科		└┘ └┘ └┘ └┘ └┘	
D—応用化学科		└┘ └┘ └┘ └┘ └┘	
E—生命医科学科		└┘ └┘ └┘ └┘ └┘	
F—電気・情報生命工学科		└┘ └┘ └┘ └┘ └┘	
		先進理工学部 2007年度入学 学科 通し番号	

学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット（略称CD）1桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。

なお、再入学者等は学籍番号下3桁の番号を下表のとおり区分する。

種 別	通し番号
再 入 学	601～
転 科	701～
学 士 入 学	801～
一般履修生	901～
委託履修生	951～

4 クラス担任制度

学生生活等について、諸君の相談相手となつて、必要な指導助言を与えるために、クラス担任制度が設けられている。教員との人間的ふれあいや、勉学上・個人生活上のアドバイスを希望する者は、この制度を利用して、学生生活をより有意義なものとするのが望ましい。詳細については、科目登録の手引き・理工学術院ホームページ (<http://www.sci.waseda.ac.jp/office/career/classtannin.html>) 等で確認すること。なお、面会を希望する場合は、直接研究室に予約をとること。

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 録

- 1. 学生の手帖
- 2. ホームページ
- 3. 学籍番号
- 4. クラス担任
- 5. 学生相談
- 6. 大学院進学
- 7. 就 職
- 8. 学生証
- 9. 証明書交付
- 10. 各種願出
- 11. 奨学金
- 12. 掲 示
- 13. 教室の使用
- 14. 課外活動
- 15. 安全管理
- 16. 海外留学
- 17. 理工エッジ
オフィス
- 18. 禁煙
キャンパス
- 19. 自転車禁止
- 20. 図書館・
読書室
- 21. LL-MM
教室
- 22. コンピュータ
ルーム
- 23. 実験施設
- 24. 総合課
語学センター
- 25. 交通機関
の影響
- 26. 気象警報
の影響

5 学生相談

(1) 理工学統合事務所

科目登録・授業・試験・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等、修学上に関わるすべての事項について、その相談に応じている。また、遺失物や拾得物の管理も行っているため、これらに関する質問があれば随時相談すること。

事務取扱時間・休業日

月～土曜日 9時～17時

12時30分～13時30分昼休み（ただし土曜日および授業休止期間中）

休業日 日曜日・国民の祝日・創立記念日（10月21日）・年末年始夏季一斉休業期間および夏季冬季

休業中の土曜日

（注）夏季休業・冬季休業等の期間中は、事務処理が平常時より時間がかかる場合があるので留意すること。

(2) 非常勤講師への連絡方法

本学部では非常勤講師の連絡先（住所・電話番号等）を公表していないので、非常勤講師への連絡は、必要な書類・手紙等を封筒に入れ、宛名・差出人住所・氏名等を明記のうえ、切手を貼り、封をしたものを教員室（51号館2階）へ持参すること。

※専任教員の連絡先はシラバスやホームページで確認できる。

(3) ハラスメント防止委員会室

性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどの被害を受けた学生・生徒および教職員等が、安心してハラスメントの苦情を申し立て、相談を受け付けられる窓口を設置している。ハラスメントの苦情に対しては、学内での適切な調査と慎重な手続を経たうえで、厳正な処分を含む効果的な対応をし、その際、関係者（事案の当事者の他、監督・指導の責任を負う者等、当該事案に利害関係を有する者を含む）のプライバシーの尊重と秘密厳守には特に留意している。

早稲田大学はハラスメント防止に真摯に取り組んでいる

本学では『早稲田大学におけるハラスメント防止に関するガイドライン』を制定し、相談を受け付け、その解決に取り組むことはもちろん、パンフレットやWebサイト等での広報や、講演会等の催し物をとおして、啓発・防止活動を実施している。

あなた自身が被害を受けた時、友人からの相談を受けた時、また取り組みについて質問や意見がある時には、気軽に相談窓口につながっていただきたい。専門知識を持つスタッフが対応している。

ハラスメント理解のためのQ&A

〈目的〉

Q なぜ、早稲田大学では「ハラスメント防止に関するガイドライン」を制定したのか？

A すべての学生および教職員等が個人として尊重され、快適な教育・研究・職場環境の中で生活できるようにするためである。本学では1999年4月の「男女雇用機会均等法」などの法改正を背景にセ

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 教室の使い

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工学統合事務所

18. 禁煙キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・読書室

21. LL-MM教室

22. コンピュータルーム

23. 実験施設

24. 総合健康センター

25. 交通機関の影響

26. 気象警報の影響

クシユアル・ハラスメント対策を実施してきた。その実績をふまえ、2005年度より取り組みを拡大し、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントにも対応している。

〈解 説〉

Q ハラスメントって何で問題なのか？

A 人権侵害だからである。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとっては耐えられない苦痛となっていることもある。なぜそうなのか？ を理解するきっかけとして、大学ではパンフレットを作成し、Webサイトにさまざまな情報を掲載しているので、ぜひ活用していただきたい。

Q 学生がハラスメントにあうのは、どんな場面で、どの程度あるのか？

A きわめて残念だが、授業がアカデミック・ハラスメントの場、サークルなどがセクシユアル・ハラスメントの場やパワー・ハラスメントの場となり得る可能性がある。2003年6月の本学「学生生活調査」結果では、少なくない学生が「セクシユアル・ハラスメント被害を受けている」と感じていた。

Q 学生が加害者になることもあるのか？

A はい、学生が加害者になることもある。例えばあなたがサークルのコンパで下ネタを乱発したり、しつこく交際を迫ったりしたために、メンバーの人が不快になり、サークルをやめようかと悩むような場合は、セクシユアル・ハラスメントになりえる。

〈相 談〉

Q 大学の相談窓口に行くとは何がしてもらえるのか？

A まず、あなたの悩んでいるハラスメントの実情についてインテーカー（相談員）が詳しく話をうかがう。今までの実績では、問題の所在を明確にする過程で気持ちが整理され、この段階で解決に至るケースがかなりある。相手方になんらかの謝罪を求めたいというような場合は、次のステップ〈対応策の検討〉へ進み、防止委員会の苦情処理案件の対象と認定されると、当事者から話を聞くなどして相手方との調整等が始まる。解決策はケース・バイ・ケースで多様である。

Q 相談すると秘密がもれたり、相手方から嫌がらせを受けたりするのではないかと不安なのだが？

A ガイドラインで秘密堅持と被害者への報復等の禁止が明確に定められ、安心していただけるシステムになっている。また、外部の相談窓口もWebサイトで紹介していますので参考にしてください。

■相談窓口 ハラスメント防止委員会室

【開室時間】月～金 9:00～17:00

土 9:00～14:00

相談は、電話・メール・Fax・手紙、どの方法でもOK。来室前なら匿名でも大丈夫。あなたのプライバシーと意向を最大限に尊重します。来室前に必ず電話で予約をしてください。

【URL】<http://www.waseda.jp/stop/index.html>

【E-mail】stop@list.waseda.jp

【TEL】03-5286-9824

【FAX】03-5286-9825

〒169-8050 新宿区戸塚町1-104 24-8号館2階

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種奨出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工エソ
オフィス

18. 禁煙
キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・
読書室

21. LL-MM
教室

22. コンピュー
ルーム

23. 実験施設

24. 総合健康
情報センター

25. 交通機関
の影響

26. 気象警報
の影響

6 大学院への進学

大学院は博士課程5年を、前期2年と後期3年に区分し、前期2年の課程を修士課程、後期3年の課程を博士後期課程として取り扱う。

修士課程を修了するには、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。修了すると修士（工学）、または修士（理学）の学位が授与される。ただし、優れた研究業績をあげた者については、当研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すればよい場合がある。

博士後期課程を修了するには、博士後期課程に3年以上（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）在学し、所要の研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。修了すると博士（工学）、または博士（理学）の学位が授与される。

大学院への進学には、推薦入学と入学試験の二つの方法がある。

(1) 推薦入学

本学部卒業生および卒業見込者で成績の優秀な者を対象に、推薦入学の制度がある。

(2) 入学試験

① 一般入学試験

卒業生および卒業見込者を対象に、外国語（英語）・専門科目の筆記試験（一部、口述試験）と面接により実施する。

② 飛び級入学試験（大学に3年以上在学する者に係わる特別選抜制度）

「大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」を対象に特別選抜試験を実施する。

入学試験の詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

7 就職

(1) 就職活動

理工系学生の企業への応募方法には、「自由応募制」と「推薦制」の2種類がある。「自由応募制」とは、各企業等からの求人情報をもとに、自分の希望する企業に直接応募する制度であり、現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また、「推薦制」とは理工系独自の応募形態であり、就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して、大学（学部・学科等）が推薦を行う制度である。企業が学科や推薦枠を指定してくる場合があるので、大学（学部・学科等）は学生の希望を確認し、希望者が多い場合には調整等を行った上で、被推薦者を決定することとなる。詳細は各学科の就職担当教員に確認すること（<http://www.sci.waseda.ac.jp/office/career/syusyokutantoukyouin.html>）。

(2) 就職担当教員の指導等

各学科では、卒業予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し、就職活動や進学について、適宜、必要な指導・アドバイスを行なっている。

学生は就職内定状況等、現在の活動状況を担当教員に報告すること。

(3) 各種行事案内

キャリアセンター主催の就職ガイダンスや就職講座、理工学術院が主催する国家公務員説明会等の各種

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帳

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 教室の使い

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工学
オフィス

18. 禁煙
キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・
読書室

21. LL・MM
教室

22. コンピュ
タールーム

23. 実験施設

24. 総合健康
支援センター

25. 交通機関
の影響

26. 気象警報
の影響

行事を、各学科掲示板および正門掲示板（学生支援掲示板）およびホームページにおいて案内している。

(4) 就職資料室等の利用

- ① 理工系の「求人票」および企業案内等の諸資料は、51号館1階13室の「就職資料室」および各学科連絡事務室または各学科の就職資料室に配架している。
- ② 51号館1階13室の就職資料室では、求人情報（文系就職中心）、Uターン情報、各企業や官公庁の資料の他に業界・企業研究のための参考図書、情報誌、先輩の就職活動体験記等の諸資料を、自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは、自分自身のキャリア形成の考え方、学生時代の過ごし方（心構え、早稲田大学にある資源・チャンスをどう生かすか等）、といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで、幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- ・ **キャリアガイダンス**（就職環境を知り、充実した学生生活を過ごすためのヒントを説明）
- ・ **キャリア講座**（キャリアの専門家が、社会とキャリア設計の関係等について講義）
- ・ **その他キャリア形成支援イベント**（公務員・教員キックオフガイダンス、OB・OG等現役社会人との交流イベント他）
- ・ **就職支援イベント**（就職ガイダンス、業界研究講座、マナーセミナー、就活ミニセミナー他）
- ・ **企業・求人情報の提供**（Waseda-netポータル内 [キャリアコンパス] より）
- ・ **インターンシップの紹介および関連セミナー**
- ・ **個別相談**（進路に関することならどんなことでも）

※詳細は、入学時等に配付される『CAREER GUIDEBOOK』およびキャリアセンターホームページを確認すること。

【場所】 戸山キャンパス30号館 学生会館3階

【時間】 平日9：00～18：00
土曜9：00～17：00

【TEL】 03-3203-4332

【E-mail】 career@list.waseda.jp

【URL】 <http://www.waseda.jp/career/>

8 学生証

学生証は、身分を証明するだけでなく、修学上の様々な場面で必要となるので、常に携帯し、破損・紛失のないよう注意すること。

なお、学生証とは、「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり、「学生証カード」の裏面に、「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の4月1日から翌年3月31日までの1年間である。また、表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) 交付

新入生の学生証は、受験票と引き換えに交付する。

2年生以上は、学年末に裏面シールを交付するので、これを前年度のシールと貼り替えることで、学生証を更新したこととなる。

I	特徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付録

1	学生の手帖
2	ホームページ
3	学籍番号
4	クラス担任
5	学生相談
6	大学院進学
7	就職
8	学生証
9	証明書交付
10	各種願出
11	奨学金
12	掲示
13	教室の使用
14	課外活動
15	安全管理
16	海外留学
17	理工エッジ オフィス
18	某理 キャンパス
19	自転車禁止
20	図書館・ 読書室
21	LL-MM 教室
22	コンピューター ルーム
23	実験施設
24	総合課 語学センター
25	交通機関 の影響
26	気象警報 の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

なお、学生証カードは在学期間中使用するが、写真変更希望者は、在学中1回に限り無料で交換できる。この場合は、理工学統合事務所に申し出ること。

(2) 紛失

学生証を紛失した場合、悪用される恐れがあるので、ただちに警察に届け、理工学統合事務所で再交付の手続きをすること。

(3) 再交付

紛失等のため再交付を受ける場合は、カラー写真を添付した所定の「再交付願」を理工学統合事務所へ提出すること。なお、紛失等による再交付の手数料として2,000円が必要となる。

(4) 提示

試験等の受験、図書館や学生読書室の利用、各種証明書・学割の交付、種々の配付物を受けるとき、その他本学教職員の請求があったときは、学生証を提示しなければならない。

(5) 失効

卒業または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失うので、ただちに理工学統合事務所へ返却すること。卒業の場合は、引き換えに学位記が授与される。

9 各種証明書類の交付

本学部で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが、システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので、十分な余裕をもって申し込むこと。

(1) 手数料

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書 1通200円（卒業者がその卒業日の属する月末までに申請した証明書を含む）
 卒業生、退学者等に関わる証明書 1通300円

(2) 発行方法

① 自動証明書発行機（事務所に設置）を利用の場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号は入学手続時に届出た4桁の番号を使用すること。

② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書交付願」に必要事項を記入し、手数料収納証を貼付の上、学生証を添えて申し込むこと。

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種 別	
★在学証明書	進学調査書
★成績証明書	退学証明書
★卒業（修了）見込証明書	★英文在学証明書
卒業（修了）証明書	★英文成績証明書
★成績・卒業（修了）見込証明書	★英文卒業（修了）見込証明書
成績・卒業証明書	英文卒業（修了）証明書
教員免許状取得見込証明書	そ の 他 証 明 書
教員免許状単位取得証明書	

(3) 学割

自動証明書発行機（事務所に設置）で1人年間10枚まで無料で発行可能。

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工工エッセイ オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL-MM 教室
22. コンピュータ ルーム
23. 実験施設
24. 総合健康 センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象警報 の影響

10 各種願・届の提出

在学中、本人または保証人に何らかの異動や事故等があった場合には、必ずその事項についての所定の願または届を提出しなければならない。各種願・届用紙は理工学統合事務所で入手できる。

(1) 休学願

① 休学の条件

病気その他の正当な理由により、引き続き2ヶ月以上授業（試験を含む）に出席することができない者は、学部所定の申請手続きに基づき、学部長の許可を得て、休学することができる。「休学願」にクラス担任または指導教員の所見を記入してもらい、各学期の提出期日までに理工学統合事務所に提出すること。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復学日	休学年数
前期	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
後期	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

② 休学期間

休学は前期休学あるいは後期休学の2種類とし、当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は連続して2年を超えることはできない。休学中は在学年数に算入しない。前後期継続休学または後期から次年度前期継続休学を希望する者は、休学願提出時に申し出るか、または復学手続き時に休学継続を願い出ること。なお、在籍中に休学できる期間は、通算して4年を超えることはできない。

③ 休学期間の学費

休学願の提出日により、休学中の学費は下表のとおりとなるので注意すること。

前期休学願		金額	後期休学願		金額
4月30日まで	休学中在籍料	5万円	6月30日から 10月31日まで	休学中在籍料	5万円
5月1日から 5月31日まで	授業料 実験実習料 施設費	所定学期 の全額	11月1日から 11月30日まで	授業料 実験実習料 施設費	所定学期 の全額

※入学と同時に前期を休学する場合は、学費の減額はありません。

(2) 留学願

- ① 外国の大学等高等教育機関に4ヶ月以上在籍し、教育または研究等に従事する場合、学部所定の申請手続きに基づき、学部長の許可を得て、「留学」することができる。「留学」となるかどうか不明な場合には、事前に理工学統合事務所に確認すること。
- ② 在籍中に留学できる期間は1年間相当とする。特別な事情がある場合は、さらにこれを延長できる。
- ③ 留学期間中は在学年数に算入しない。ただし、単位認定により通算4年間で卒業可能な場合のみ在学年数に算入することができる。詳細は理工学統合事務所に問い合わせること。
- ④ 留学期間中の学費については、理工学統合事務所に問い合わせること。ただし、留学センターが主催する留学の場合は、留学センターにて確認すること。

(3) 復学願

- ① 復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し、復学の手続きが必要とされる時期に、理工学統合事

I	特徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付録

1	学生の手帖
2	ホームページ
3	学籍番号
4	クラス担任
5	学生相談
6	大学院進学
7	就職
8	学生証
9	証明書交付
10	各種願提出
11	奨学金
12	掲示
13	教室の使用
14	課外活動
15	安全管理
16	海外留学
17	理工エッジ オフィス
18	禁煙 キャンパス
19	自転車禁止
20	図書館・ 読書室
21	LL-MM 教室
22	コンピューター ルーム
23	実験施設
24	総合課 習センター
25	交通機関 の影響
26	気象警報 の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

務所からその手続きに関する書類を保証人宛に送付するので、これに従って手続きを行うこと。

- ② 復学は学期始めに限られる。
- ③ 復学後、在籍年数（休学・留学期間含む）が5年以上だが、在学年数（休学・留学期間を除く）が4年未満となる学生は、在学年数が4年に達するまで、当該年度4年度生の学費額を徴収する。このことについては、「Ⅲ-5 学費の納入と抹籍」を参照すること。

(4) 退学願

- ① 退学を希望する場合は、学生証を添えて、理工学統合事務所へ願い出ること。
- ② 学年の途中で退学をする場合でも、その期の学費を納めなければならない。
詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

(5) 再入学願

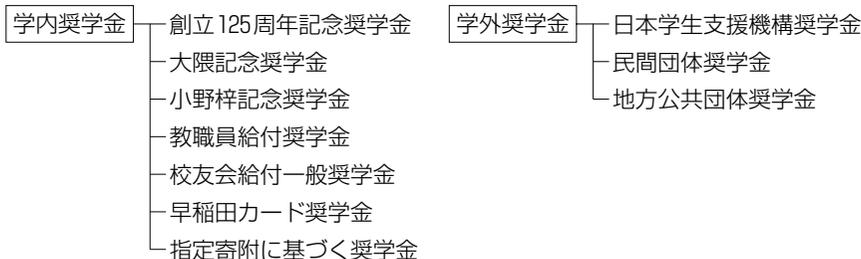
正当な理由で退学した者が、再入学を願い出た場合、退学した学年の翌学年から起算して、7年度までの間に限り学年の始めにおいて許可されることがある。詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

(6) 氏名・住所・保証人等変更届

- ① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちにWaseda-netポータルのProfile画面から登録を行うこと。また、本人の住所が変更された場合は、大学に届けてあるメールアドレス宛に承認メールが届いた後、理工学統合事務所にて新しい学生証の裏面シールを受け取ること。
- ② 保証人または学費支払者の住所・電話番号が変更された場合は、直ちに理工学統合事務所所定の手続を行うこと。
- ③ 在学中に改姓（名）をした場合は、戸籍抄本を添付のうえ、届け出ること。
- ④ 死亡その他の理由で保証人を変更する場合は、直ちに新保証人を届け出ること。

11 奨学金制度

本学には、多くの奨学金制度が準備されている。また、奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。貸与奨学金の代表的なものの一つは、日本学生支援機構奨学金（第一種・二種）である。



いずれの奨学金に出願する場合でも、毎年理工学統合事務所にて配布する「奨学金情報冊子Challenge」を入手し、熟読の上、そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること。

また、その他の奨学金の募集等があった場合は、随時、正面掲示板（学生支援掲示板）、および理工学統合事務所ホームページに掲示する。各学科における独特の奨学金に関しては、学科からの情報に注意す

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工エソ オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL/MM 教室
22. コンピュータ ルーム
23. 実験施設
24. 総合健康 センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象警報 の影響

ること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害等により、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても奨学課に申し出ると、校友会給付緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急採用・災害採用等が適用される場合がある。

外国人留学生対象の奨学金の一覧は、「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は、学年始めに「外国人留学生奨学金登録票」を提出し、留学生奨学金用の掲示にて周知される奨学金に、募集のある都度申し込むこと。

12 掲示

立看板の取扱いおよび掲示板使用等に関する運用ルール

(1) キャンパス内での立看板、掲示物ならびにビラ等については、以下の事項を厳守すること。

① 必須記載事項

大学に届出のあるサークル等学生団体：団体名を明記すること。

大学に届出のないサークル等学生団体：団体名および設置責任者である本学学生の所属箇所、学年、氏名を明記すること。

② 虚偽の宣伝、他者のプライバシーの侵害や名誉毀損を行ってはならない。

③ 上記事項に違反するものについては、事前の通知なく撤去することがある。また、違反があった場合は、当該団体による立看板掲出、掲示ならびにビラの配布を以後許可しないことがある。

(2) 立看板について

原則として大久保キャンパス内でのサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし、正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。

(3) 掲示物について

掲示板については、次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は、次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

① 理工学統合事務所に申し出て承認を受けること。

② 掲示の期限は、承認の日から3週間以内とする。

③ 掲示用紙の大きさと枚数は次のとおりとする。

正門脇掲示板：縦55センチ・横45センチ（新聞紙1頁大）以内、1枚

各号館内掲示板：縦40センチ・横27センチ（新聞紙半頁大）以内、2枚以内

④ 掲示物の掲示板への貼付けは画鋲を使用すること。画鋲が使用できない掲示板は粘着性の弱い紙テープを使用すること。

⑤ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。

(4) ビラ等の配布について

キャンパス内でビラ等を配布する場合は、次の事項を厳守すること。

① 業者（アルバイト等）の宣伝等営利目的のチラシ等の配布は認めない。

② ビラ等の配布は、手渡しのみに限る。受け取る意思のない人への強要は行わないこと。教室内の机の上に置く行為は授業の妨げとなるため、認めない。

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種課外

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工エソ
オフィス

18. 禁煙
キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・
読書室

21. LL-MM
教室

22. コンピュ-
ルーム

23. 実験施設

24. 総合課
館センター

25. 交通機関
の影響

26. 気象警報
の影響

掲示板一覧

I 特徴	II 沿革と概要	III 学部要項	IV 学生生活	V 付録	1. 学生の手帖	2. ホームページ	3. 学籍番号	4. クラス担任	5. 学生相談	6. 大学院進学	7. 就職	8. 学生証	9. 証明書交付	10. 各種願提出	11. 奨学金	12. 掲示	13. 教室の使用	14. 課外活動	15. 安全管理	16. 海外留学	17. 理工エソ オフィス	18. 禁煙 キャンパス	19. 自転車禁止	20. 図書館・ 読書室	21. LL/MM 教室	22. コンピュータ ルーム	23. 実験施設	24. 総合健康 管理センター	25. 交通機関 の影響	26. 気象警報 の影響
場所	掲示板名称	掲示内容																												
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント																												
	入試掲示板	入試情報																												
	学生支援掲示板	学部奨学金・大学院奨学金 就職情報 インターンシップ情報 イベント情報																												
52号館1階	学部大学院共通掲示板1	学部暦・大学院暦 他箇所関係（オープン教育，教職，MNC他） 科目登録・成績発表情報 休講情報 レポート 試験情報																												
	基幹掲示板1	基幹理工	数学科，応用数理学科，数学応用数理専攻，機械科学・航空学科，機械科学専攻																											
	基幹掲示板2	理工	数理科学科，数理科学専攻，機械工学科，機械工学専攻																											
53号館1階	学部大学院共通掲示板2	教室・担任変更情報																												
	学部授業時間割	学部時間割																												
	大学院授業時間割	大学院時間割・集中講義																												
54号館1階	創造掲示板1	創造理工	建築学科，総合機械工学科，建築学専攻，総合機械工学専攻																											
	創造掲示板2	理工	建築学科，建築学専攻																											
	創造掲示板3	創造理工	経営システム工学科，社会環境工学科，経営システム工学専攻，建設工学専攻																											
55号館1階	先進掲示板1	理工	経営システム工学科，社会環境工学科，経営システム工学専攻，建設工学専攻																											
	先進掲示板2	創造理工	環境資源工学科，地球・環境資源理工学専攻																											
	先進掲示板3	理工	環境資源工学科，環境資源及材料理工学専攻																											
56号館1階	先進掲示板1	先進理工	物理学科，応用物理学科，物理学及応用物理学専攻																											
	先進掲示板2	理工	物理学科，応用物理学科，物理学及応用物理学専攻																											
	先進掲示板3	先進理工	化学・生命化学科，応用化学科，生命医科学科，化学・生命化学専攻，応用化学専攻																											
57号館2階	先進掲示板2	理工	化学学科，応用化学科，化学専攻，応用化学専攻																											
	先進掲示板3	先進理工	電気・情報生命工学科，生命医科学専攻，電気・情報生命専攻，生命理工学専攻，ナノ理工学専攻																											
	先進掲示板3	理工	電気・情報生命工学科，電気・情報生命専攻，生命理工学専攻，ナノ理工学専攻																											
56号館1階	実験掲示板	理工学基礎実験，応用物理学実験等の情報																												
57号館2階	理工公認サークル掲示板	理工公認サークル 告知スペース																												
51号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース																												
51号館裏掲示板	サークル掲示板	学内外のサークルチラシ																												
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 学部暦，大学院暦 講演会案内																												

13 教室・共通ゼミ室の使用

授業外の課外活動で教室を使用したい場合は、理工学統合事務所教学支援課備付けの「教室・ゼミ室使用願」を提出しなければならない。教室使用願の提出にあたっては、次の事項に留意すること。

(1) 使用資格

理工学術院公認サークルおよびそれに準ずる団体、部長・会長・顧問等が理工学術院専任教職員である団体に限る。

(2) 使用願責任者

使用願には、責任者（専任教職員）の印を必要とする。

(3) 使用願の提出

使用願は、使用日の3日前（ただし事務所開室中）までに行うこと。

(4) 使用許可期間

原則として下記の期間を除いて許可する。

日曜日、祝祭日、休業中の土曜日、入学式から授業開始までの期間および前後期授業開始後2週間、前後期定期試験期間、夏季工事期間、理工展期間、入学試験構内立入禁止期間とその準備期間、その他諸行事で授業が休講となる期間

(5) 使用許可時間

原則として、月～金曜日は18時から20時まで、土曜日は14時40分から20時までとする。ただし、休業期間中は9時から17時30分までとする。

(6) 使用許可教室

52号館・53号館・54号館の全教室（ただし、LL・MM教室は除く）および56号館101・102・103の空き教室

(7) 使用許可期間

原則として最長1ヶ月とする。それ以上にわたる場合は、再度提出すること。

(8) 使用上の注意

- ① 授業・教育・研究、および大学・学部・大学院の諸業務に支障を来す場合には、使用を許可しない。
- ② まわりの教室で行われている授業には充分注意し、その妨げにならないようにすること。
- ③ 教室内の机・椅子・その他の什器は動かさないこと。
- ④ 使用許可時間を厳守すること。
- ⑤ 大学が教室を使用しなければならない緊急の必要が生じた場合には、教室の変更をする場合がある。

14 学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが、それだけに、視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活、少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは、広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員、卒業生、在学生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生会部があって、課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学部の特殊性を生かした学生会部と連絡を密にし、課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1	学生の手帖
2	ホームページ
3	学籍番号
4	クラス担任
5	学生相談
6	大学院進学
7	就 職
8	学生証
9	証明書交付
10	各種願出
11	奨学金
12	掲 示
13	教室の使用
14	課外活動
15	安全管理
16	海外留学
17	理工エンジニア オフィス
18	禁煙 キャンパス
19	自転車禁止
20	図書館・ 読書室
21	LL・MM 教室
22	コンピューター ルーム
23	実験施設
24	総合課 演習センター
25	交通機関 の影響
26	気象警報 の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

学生の課外活動は、大学という集団の中で最大限の自由が保証されなければならないことはいまでもないが、それだけに、諸君は責任を持ち、規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり、将来社会で活動する準備をすることが目的であるから、ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され、プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友、クラス担任との話し合い、あるいは総合健康教育センターの利用等を通してそれらを乗り越え、悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（「学生の手帖」参照）、本学部の学生もこれに参加し、活躍している。

この他に IAESTE（イアエステ・日本国際学生技術研修協会）がある。これは学生の外国企業での実習およびその国際交換を斡旋し、世界各国の学生間の理解と親善を深めることを目的とする会である。この会は1948年に設立され、1964年には日本も加入した。現在60カ国がこれに参加しており、世界の理工農学系大学約900がIAESTE Internationalの学生交換海外研修プログラムに参加している。また、後援企業は約4,000社に及び、20万人以上の学生を交換研修した実績をもっている。

15 安全管理

早稲田大学大久保キャンパスには、学生・教職員10,000人以上が集い、教育研究活動を行っている。理工系の特徴でもあるが、主に研究活動に専念する学部4年生、大学院生の数は4,000名を超え、多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため、その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく、教職員からなる「大久保構内安全衛生委員会」を設置し、そのもとに様々な安全管理体制を整備するとともに、安全衛生一斉点検をはじめ構内の安全管理を統轄している。

このような中、学生諸君には、以下の点を遵守してもらいたい。

- ・各実験科目においては、実験ガイダンスを通して、安全に関する注意があるので、それらを必ず守り、常に安全を意識して実験に取り組むこと。
- ・卒論実験における安全については、研究分野ごとに特殊な内容があるので、指導教員等の指示に従い、作業の安全を確認して実験すること。
- ・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し、学内ルール等を遵守すること。

また、大久保構内安全衛生委員会では、卒論実験、修論実験を主な対象とした「安全のてびき」を発行している。活用するとともに、不明な点は関係する実験室等の技術職員に問い合わせしてほしい。（メールでの問合せ先： anzen@sci.waseda.ac.jp）「安全のてびき」は、各実験室、技術企画総務課で入手することができるほか、次のURLから確認することができる。

大久保構内安全ガイド：<http://www.sci.waseda.ac.jp/tech/tmps/main.htm>

理工学系の学生として、学内のルールはもちろん、関係する法律・条令を遵守し、自分のみならず、周囲の安全、広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

緊急時の対応

(1) けが・重病

大けが・重病の場合には、学内緊急電話（正門警備室：内線3000）に連絡すること。緊急の場合（動か

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願出
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使い
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工工エソ オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL/MM 教室
22. コンピュ タールーム
23. 実験施設
24. 総合健康 教育センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象警報 の影響

さないほうがよい・動かせない場合も含む)には、直接119番に通報してもかまわないが、救急車誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人が動かせる場合には、総合健康教育センター(大久保分室 51号館1階:内線2640・2641)で処置を受け、必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話(内線3000 外線03-5286-3022)に連絡すること。

(2) 火災

近くにある消火器で初期消火するとともに、場所・状況等を学内緊急電話(正門警備室:内線3000)に至急連絡し、その指示を受けること。消火器で消火できない場合には、近くの人とともに避難すること。教室棟廊下等には非常用電話(赤いボックス)が設置されているので、それを使って内線3000に電話することができる。

(3) 地震

地震が静まるまで、机等の下で身の安全を確保する。その後は、大久保キャンパスには多数の化学薬品等があり、危険なので、中庭などの安全な場所に避難すること。大学は、大学本部・各キャンパスに対策本部を設け、情報の収集、学生・教職員の安全確保をはかることにしているため、その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル(学生用)」を参考にすると良い。

16 海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否・箇所間協定プログラムについては理工学統合事務所教学支援課に相談し、全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては、留学センター作成の留学の手引きや案内(<http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>)をまず参照すること。また、在学生以外も参加できる短期プログラムはエクステンションセンター(<http://www.waseda.jp/extension/index.html>)でも主催している。

全学を対象にした本学の留学プログラムの概要は、大別すると以下のとおりであるが、留学を検討する学生は、4月と10月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点、プログラムの情報入手方法、本学留学インフォメーションルーム(西早稲田キャンパス22号館3階)の使用法など、留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合、遅くとも1年以上前からの準備が必要であるため、年間を通じた留学応募手続き案内などの具体的日程や情報案内等について、随時Waseda-netポータルのお知らせや留学センターHPで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については、プログラムによって取扱いや費用が異なり、また派遣先大学の事情により毎年異なる場合がある。奨学金は、日本学生支援機構の短期留学推進制度奨学金、早稲田大学学生交流奨学金、交換留学奨学金等があり、奨学金の募集要項等は派遣先大学が決定した後に配布される。

プログラムの概要:「長期留学」と「短期留学」

(1) 長期留学

① 早稲田大学交換留学プログラム(学部生, 研究科生対象)

海外の協定校から留学生を受け入れ、同時に早大生を派遣する制度。ある程度自由に科目を履修できる。一部の大学をのぞいて学費は、早稲田大学の所属学部・研究科の学費等である。但し、現地で施設費等の

I	特徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付録

1.	学生の手帖
2.	ホームページ
3.	学籍番号
4.	クラス担任
5.	学生相談
6.	大学院進学
7.	就職
8.	学生証
9.	証明書交付
10.	各種課税
11.	奨学金
12.	掲示
13.	教室の使用
14.	課外活動
15.	安全管理
16.	海外留学
17.	理工学統合事務所
18.	東郷キャンパス
19.	自転車禁止
20.	図書館・読書室
21.	LL-MM教室
22.	コンピュータールーム
23.	実験施設
24.	総合健康教育センター
25.	交通機関の影響
26.	気象警報の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

支払いが必要となる場合もある。現地受け入れ人数は1-3名が通常で、多種多様な国の大学が協定校となっている。英語によるプログラム参加者には、GPA 3.0以上、TOEFL®-CBT 170点以上が学内選考の出願最低条件となり、非英語によるプログラムでは、現地の言語で授業についていける語学能力が求められる。

② TSA (Thematic Studies Abroad) プログラム (学部生対象)

「テーマに基づいた学習」を中心にカリキュラムを組み立てるプログラム。現地の大学での授業を補助する語学向上のためのサポートが多く存在するのが特徴。学費はそれぞれのプログラムで決められたプログラムフィーを支払う。早大学費は免除となる。現地受け入れ人数はプログラムによってさまざまであるが、概して多めとなっている。実施機関の所在国および地域は、北アメリカ、イギリス・アイルランド、オセアニア、中国やヨーロッパである。

③ ISA (Individualized Studies Abroad) プログラム (学部生対象)

交換プログラムと同様、現地大学の通常カリキュラムの中で、現地のコーディネーターと相談しながら、ある程度自由に科目を履修できるプログラム。語学力が低い場合、語学の勉強を義務づけるところもある。学費はそれぞれのプログラムで決められたプログラムフィーを支払う。早大学費等は免除となる。実施機関の所在国および地域は、北アメリカ、イギリス・アイルランド、オセアニアが中心。

④ ダブルディグリープログラム

海外の名門大学に留学し、所定の要件を満たした場合は早稲田大学を卒業する際に派遣先大学の学位も取得できるプログラム。派遣先で使用される言語の高度な読解力、聴解力、会話力が要求される。2007年度は、中国の北京大学・復旦大学・国立台湾大学・シンガポール国立大学への派遣を行う予定である。

(2) 短期留学 (数週間)

海外の渡航期間が数週間程度の語学学習および異文化体験を中心とした特別留学プログラム。本学主催箇所としては、留学センター、エクステンションセンター等が、夏期や春期にプログラムを提供している。

(3) その他の留学

自分で希望大学から入学許可を得、かつ奨学金を受給せずに、いわゆる私費で留学先の学費と生活費をまかなう形の留学形態を私費留学という。私費留学の場合は全ての手続きを自分で行うかもしくは留学斡旋者を利用して行うことになる。学籍上の扱いについては、ケースによって異なるため理工学統合事務所に確認すること。

17 理工リエゾンオフィス

理工リエゾンオフィス (55号館S棟1階) は、先進理工学部を取り巻く現況や活動等に関する情報を効果的かつ効果的に社会に発信するとともに、社会との円滑な相互交流の中心的な役割を担うため、学生・校友・教職員のコミュニケーションの活性化を目指して設立された機関である。

具体的には、学部生を対象に「先輩セミナーシリーズ講演会」「インターンシップセミナー」「テクノロジー&キャリアナビ」を主催し、「インターンシップ」「理工系アルバイト」「理工学術院内の受賞や研究トピック」等々、積極的に企画・Web発信している。

特に「先輩セミナーシリーズ講演会」や「テクノロジー&キャリアナビ」では、企業や研究機関等で活躍する理工OB・OGが、後輩に熱く語り、アドバイスを受けられる貴重な機会である。積極的に参加することを推奨する。

詳しくは<http://www.all-waseda.com/>を参照すること。

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願出
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使い
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工リエゾン オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL-MM 教室
22. コンピュ タールーム
23. 実験施設
24. 総合健康 教育センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象警報 の影響

18 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行、文部科学省通達、新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき、大久保キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自、分煙ルールを厳守すること。また、通学中の路上喫煙に関しては、マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

1. 「喫煙指定場所」を除き、公共の場所（教室・ゼミ室、実験室、会議室、ラウンジ、ホワイエ、アトリウム、図書館・学生読書室、生協施設、廊下・階段・エレベータ、トイレ等）、および屋外エリアを禁煙とする。
2. 研究室など、ゼミや学生指導を行う場合は教室とみなし、禁煙とする。
3. 歩行喫煙は厳禁とする。

19 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が大久保構内へ自転車、バイク、自動車を持ち入れ、駐輪・駐車することは、原則として禁止している。また、周辺道路も終日駐車禁止となっているため、自転車、バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。

これまででも、本学の学生と思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ、所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また、この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。厳守すること。自分だけとはいう意識を捨て、早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

20 理工学図書館・学生読書室

大久保キャンパスには理工学図書館と理工学生読書室がある。両者を総称する「早稲田大学理工学図書館」は早稲田大学における理工系学術情報の中心として、教育研究を支える重要な機関と位置付けられている。

理工学図書館は教職員、大学院生や学部の高学年学生を主たる利用対象者として設置された研究図書館である。専門図書館の性格上、蔵書構成は理工系分野の内外の学術雑誌（約7,600タイトル）を中心に、約30万冊を所蔵している。

理工学生読書室は理工学術院学生を主な利用対象に設置された学習図書館である。理工系分野の一般図書他、授業のカリキュラムに即した教科書や参考書が配架されている（所蔵図書数約10万冊）。

この他、大久保キャンパス以外にも中央図書館をはじめ戸山図書館、所沢図書館等があり利用することができる（他図書館の利用についてはそれぞれの利用規則に従うこと）。各図書館の情報は学術情報ネットワークシステム（WINE）で結ばれており、インターネットで検索が可能である（<http://www.wul.waseda.ac.jp/>）。全国の大学の中でも極めて充実した図書、電子図書を有しており、是非有効に活用してもらいたい。

利用上の注意については、利用案内およびホームページ（<http://www.wul.waseda.ac.jp/RIKOU/index-j.html>）を参照すること。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工エッジ
オフィス

18. 禁煙
キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・
読書室

21. LL-MM
教室

22. コンピュ
テーム

23. 実験施設

24. 総合課
読書センター

25. 交通機関
の影響

26. 気象警報
の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

(1) 理工学図書館 51号館地階 座席数 206席

開館時間 月～金：9時30分～21時（授業休止期間は20時まで）

土：9時30分～19時

閉館日：日曜日・祝日および本学の定めた休日，その他必要のある場合は閉館する。

① 閲覧室〔新着雑誌閲覧室〕（座席数 102 席）

内外の新着雑誌の最新一年分を配架している。外国雑誌は誌名のABC順，国内雑誌は誌名の五十音順に配架してある。

② 参考図書コーナー

辞書，事典，便覧，ハンドブック，地図等の参考図書が配架されている。

③ 新聞コーナー

朝日・毎日・読売・日経・日刊工業新聞等1ヶ月分を閲覧できる。

④ レファレンス・サービス

研究・調査を進めていく上で，図書館を活用して必要な文献・情報入手できるよう，質問・相談に応じている。必要な文献が図書館にない場合は，相互協力によって国内外の機関より文献の複写（実費負担）などを取り寄せることができる。

⑤ オンライン・データベースや電子ジャーナルの提供

理工系のオンライン・データベース（JDreamII, ISI Web of Science, MathSciNet等）や電子ジャーナル（ScienceDirect, Wiley InterScience, Blackwell Synergy, IEL等）を学内ネットワークで豊富に提供している。卒業論文の作成時等において関連する研究を調査するには大変便利なツールである。

⑥ 書庫

書庫は上・下2層にわかれ，上層（B1）には主に合冊製本された和雑誌と和・洋の図書が分類順に配架されている。書庫の下層（B2及び増設書庫）には合冊製本された洋雑誌が配架されている。

(2) 学生読書室 52, 53号館地階 416席

書庫開室時間 月～金：9時30分～21時

土：9時30分～19時

閲覧室開室時間 月～金：9時～21時

土：9時～19時

ただし，授業休止期間中および試験期間中は時間を変更するので理工学図書館ホームページおよび掲示に注意すること。

閉室日：日曜日・祝日および本学の定めた休日，その他必要ある場合は閉室する。

① 閲覧室（53号館地階）

キャンパス内で静かに学習するために活用できる場所である。そのため私語，雑談，携帯電話利用等，他人に迷惑をおよぼすような行為は厳重につつしみ，お互いにマナーを守りながら利用すること。

② 書庫・受付（52号館地階）

図書の貸出・返却手続き，利用したい図書の問合わせ，リクエスト等に応じている。

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工学図書館 オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL-MM 教室
22. コンピュータ ルーム
23. 実験施設
24. 総合健康 センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象警報 の影響

21 LL・MM教室

本学部では学生諸君の自発的な語学学習に便宜を図ると共に、語学教育向上のために52号館地階にLL・MM教室を開室している。またコンピュータによる音声映像機能を備えたシステムを設置している。備付けのコンピュータの利用時間帯等については、理工メディア（59号館4階）に問い合わせること。

開室時間 月～土 9:00～21:00

22 コンピュータ・ルーム

大久保キャンパスには、約700台のパソコンが授業等で利用されている。利用は授業等が優先になっているが、利用していない時間帯は、レポート作成やインターネットなど自由に利用することができる（オープン利用）。

第1 端末室	59号館 4階
第2 端末室	59号館 4階
第3 端末室	56号館 1階
第4 端末室	61号館 3階
第5 端末室	61号館 3階
505 端末室	56号館 5階
LL/MM教室	52号館地下 1階

各コンピュータ・ルームの開室状況は、各室出入口付近の掲示の他、理工メディアセンターのホームページでも確認できる。

(⇒<http://www.mse.waseda.ac.jp/>)

ヘルプデスク【59号館4階西側】

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として設けられている。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種奨励出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工エッジ
オフィス

18. 禁煙
キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・
読書室

21. LL-MM
教室

22. コンピュータ・
ルーム

23. 実験施設

24. 総合健康
教育センター

25. 交通機関
の影響

26. 気象警報
の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

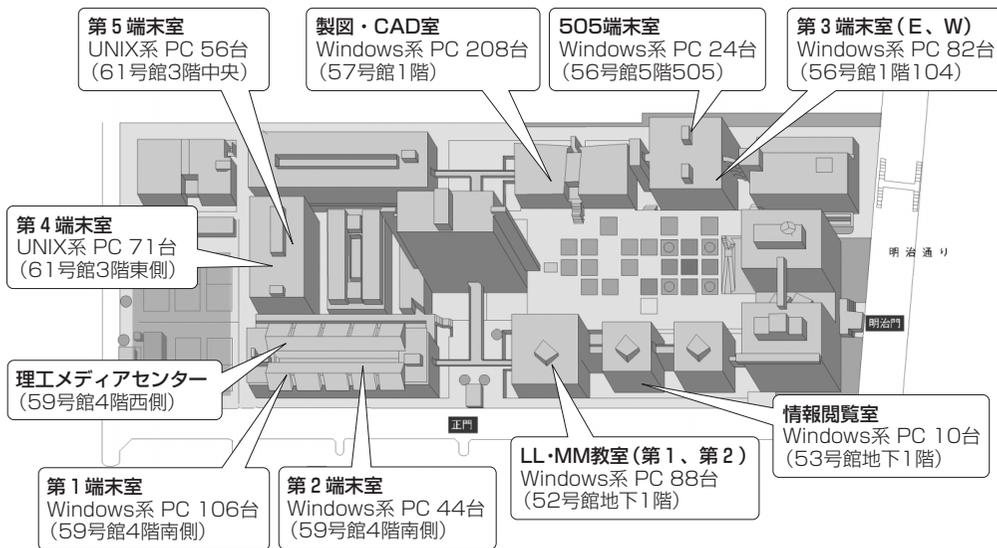
1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談

6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願出

11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理

16. 海外留学
17. 理工エソ オフィス
18. 祭壇 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL・MM 教室
22. コンピュ タールーム
23. 実験施設

24. 総合健康 センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象情報 の影響



○Windows環境を利用する

Windowsが入っているパソコンを設置している部屋が「Windows系端末室」。Word, Excel, PowerPointの他、理工系ソフトウェア、語学系ソフトウェア、ソフトウェア開発環境などが用意されている。Windows端末室を利用するには、入学時に登録手続きを行うWaseda-netのIDとパスワードが必要。

○UNIX環境を利用する

Windowsの代わりにLinuxシステムが採用されている部屋が「UNIX端末室」があります。主にプログラミング言語やアルゴリズム、数値解析などの授業に利用されている。UNIX端末室を利用するには、Waseda-netとは別のIDとパスワードが必要になり、「理工系学生ページ」で利用申請が必要。

23 実験施設紹介

(1) 共通実験室

大久保キャンパスには、1年次、2年次に履修する基礎実験科目や各学科が設置している専門実験科目などを実施する教育実験施設がある。これらを学科の枠を越えて共通的に利用していることから共通実験室と呼んでいる。これらの実験室では実験教育を中心に実施しているが、ここで保有する設備は研究活動にも広く利用されている。

○理工学基礎実験室

理工学基礎実験室では、「理工学基礎実験1」および「理工学基礎実験2」を実施している。それぞれの学問分野ごとに、物理系基礎実験室・化学系基礎実験室・生命科学系基礎実験室・工学系基礎実験室の4つの実験室で構成されている。

(物理系基礎実験室【56号館1階および2階・65号館1階】)

「理工学基礎実験1」の物理系分野の基礎実験を行っている。ものづくりをベースとした創造的でユニークな実験を通して物理学の基礎を学ぶ。

(化学系基礎実験室【56号館5階】)

「理工学基礎実験1」および「理工学基礎実験2」の化学系分野の基礎実験を行っている。実際に自分の手で試験管を振り、目で見て、匂いを嗅ぐことを繰り返しながら化学の基礎を学ぶ。

(生命科学系基礎実験室【65号館1階】)

「理工学基礎実験1」の生命科学系分野の基礎実験を行っている。細胞の観察やDNAの抽出などの生命科学系の基礎を学ぶ。

(工学系基礎実験室【56号館3階】)

「理工学基礎実験2」の工学系分野の基礎実験を行っている。走査型電子顕微鏡操作やコンピュータ自動計測などを通して、高度で実践的な工学系の基礎技術を修得する。

○材料実験室【59号館1・2階東側】

各種構造材料の強度試験・物性試験や構造物の強度評価に関する専門実験を実施している。

○工作実験室【59号館1・2階西側】

機械工作設備を用いた機械工作実習を行う実験室。工作指導を受けながら研究実験用の実験装置・部品加工や試作などを行うことができる。

○熱工学実験室、流体実験室、制御工学実験室【58号館1階】

これらの実験室ではそれぞれ、熱工学、流体工学、制御工学に関する専門実験を実施している。流体実験室では水理・水質に関する専門実験も実施している。

○製図・CAD室【57号館1階】

約400台のドラフター(製図台)を有し、製図の基礎を習得する実習やCAD(コンピュータを使用した)による設計製図演習の授業が行われている。

○測量実習室【61号館地下1階】

さまざまな測量機器を用いた測量実習を実施している。測量実習以外にも写真測量による自然環境変化の判読や計測測定、遺跡調査等の研究に利用されている。

○電気工学実験室、電子通信実験室【61号館1階および2階】

電気・電子系分野および情報通信分野の専門実験を実施している。また、電圧・電流・磁場の測定や回路製作などに関する技術相談も行っている。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工エッジ
オフィス

18. 禁煙
キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・
読書室

21. LL-MM
教室

22. コンピュータ
ルーム

23. 実験施設

24. 総合健康
教育センター

25. 交通機関
の影響

26. 気象警報
の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

○化学分析実験室【56号館4階】

重量分析・容量分析・機器分析など無機分析化学の専門実験を実施している。古典的な化学分析の基礎から大型装置を使用した機器分析まで幅広い知識と技術を習得することができる。

○物理化学実験室【56号館2階・3階】

化学の対象である物質や物質を構成している化合物、分子などについて、物理学的な手法を用いた専門実験を実施している。

(2) 研究用共同利用施設

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願出
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使い
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工学 オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL/MM 教室
22. コンピュータ ルーム
23. 実験施設
24. 総合健康 教育センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象警報 の影響

研究用共同利用施設では、研究用として共同利用が可能な大型装置や精密計測機器などが集中的に管理され、幅広い研究活動に利用されている。また、それぞれの機器利用講習会や技術相談なども行われている。

○物性計測センターラボ【55号館S棟地下1階】

物性計測センターラボは、物質の構造を解析するための研究用共同利用施設である。研究室に配属された4年生から大学院修士課程、博士後期課程、研究員まで様々な分野の研究で利用されている。最先端の研究用計測機器が整備されているため、学内だけでなく他大学や研究機関などからの利用もある。

○マイクロテクノロジーラボ【55号館N棟地下1階】

半導体加工装置やクリーンルームを研究用の共同利用設備として開放している。機械工学、物性物理、化学、材料工学など幅広い分野の研究者に利用されている。

○映像情報ラボ【55号館N棟4階】

マルチメディア研究や教材作成などのための映像情報系機器を、共同利用設備として開放している。大型カラープリンターを用いた学会発表やプレゼンテーション用のポスター作成などを行うこともできる。

○映像情報ライブラリー【54号館地下1階】

語学学習教材などを視聴できるAVブースが20セットあり、各ブースには、VHSデッキ、DVDプレーヤー、LDプレーヤーが設置されている。専門別教材が約600本、語学教材が約300本、映画やドキュメンタリーが約950本用意されており、自由に視聴することができる。

24 総合健康教育センター大久保分室

総合健康教育センター

総合健康教育センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように、健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。

なお、詳細については、ホームページを参照すること。

総合健康教育センター：25-2号館（西早稲田キャンパス）

事務所（2階）Tel 03-3202-0580（直通）

診療室 (3階) Tel 03-5286-3984 (直通)

保健管理室 (5階) Tel 03-5286-9800 (直通)

学生相談室 (6階) Tel 03-3203-4449 (直通)

大久保分室

総合健康教育センター大久保分室 (51号館1F) の前室は常時開室しているの、簡単な傷の手当等必要な場合は何時でも利用できるようになっている。また、健康やからだに関する相談も随時受付けている。

(1) 保健管理室

① 開室時間 月～金 9:00～17:00 Tel. 03-5286-3021

(医師による診察受付時間 月～金 13:30～15:40)

② 業務内容

- ・ 応急救急処置, 傷病者の休養, 定期健康診断, 特殊健康診断の実施及び事後処理
- ・ 各種健康診断書の発行, 健康相談, 保健指導, その他の相談

(2) 学生相談室 (51号館1F西側19A室)

開室時間 週3回 13:00～17:00 Tel 03-5286-3082 (直通)

心理相談, 一般相談に心理専門相談員が応じている。

(開室時間以外は西早稲田キャンパス学生相談室で受付)

学校伝染病について

下記の伝染病にかかった時は、他の者への感染防止のため学校保健法第12条により出席が停止となる。出席停止の期間は、伝染病の種類に応じて決められている。出席停止期間中の授業および試験については、以下のような手続きを行なうこと。

- (1) 診断してもらった医師に診断書を書いてもらう。
- (2) 所属学部の事務所に電話にて報告する。
- (3) 治癒後、事務所に診断書を提出する。
- (4) 科目(試験)ごとの担当教員に診断書および欠席届けを提出して、指示をうける。

(学校において特に予防すべき伝染病の種類)

第1種の伝染病: 治癒するまで出席停止 (新感染症予防法の第1・2類に規定された感染症)

エボラ出血熱, クリミア・コンゴ出血熱, ペスト, マーブルブルグ病, ラッサ熱, 急性灰白髄炎 (ポリオ), コレラ, 細菌性赤痢, シフテリア, 腸チフス, パラチフス, 痘瘡, 重症急性呼吸器症候群

第2種の伝染病: 飛沫感染するもので、学校において流行を広げる可能性が高い伝染病

インフルエンザ (解熱したあと2日を経過するまで), 百日咳 (特有の咳が消失するまで), 麻疹 (解熱したあと3日を経過するまで), 流行性耳下腺炎 (耳下腺の腫脹が消失するまで), 風疹 (発疹が消失するまで), 水痘 (すべての発疹が痂皮化するまで), 咽頭結膜熱 (主要症状が消退したあと2日を経過するま

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 理工工コン
オフィス

18. 禁煙
キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・
読書室

21. LL-MM
教室

22. コンピュ-
ルーム

23. 実験施設

24. 総合健康
情報センター

25. 交通機関
の影響

26. 気象警報
の影響

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

で)、結核(伝染のおそれがないと認めるまで)

第3種の伝染病:学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性がある伝染病
腸管出血性大腸菌感染症、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の伝染病

*資料 学校保健法施行規則

25 交通機関のストライキと授業

(1) JR等交通機関のストが実施された場合(ゼネスト)、首都圏におけるJRのストが

- ① 午前0時まで中止された場合、平常通り授業を行う。
- ② 午前8時まで中止された場合、授業は3時限目(午後1時)から行う。
- ③ 午前8時まで中止の決定がない場合は、授業は終日休講とする。

上記は、JRの違法闘争および私鉄のストには適用しない。

(2) 首都圏JRの部分(拠点)ストが実施された場合、平常通り授業を行う。

(3) 首都圏JRの全面時限ストが実施された場合

- ① 午前8時までストが実施された場合、授業は3時限目(午後1時)から行う。
- ② 正午までストが実施された場合、6時限目(午後6時)から授業を行う。
- ③ 正午を越えてストが実施された場合、授業を終日休講とする。

(4) 私鉄、都市交通のみがストを実施した場合、平常通り授業を行う。

(5) 人間科学部・スポーツ科学部に設置された授業科目を受講する者については、上記(1)・(2)・(3)は適用されるが、(4)については

- ① 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストが実施された場合
- ② ①の西武鉄道両線のストが実施されない場合でも、西武バスのストが実施された場合

次のとおりとする。

A 午前8時までストが実施された場合、授業は3時限目(午後1時)から行う。

B 午前8時を越えてストが実施された場合、授業は終日休講とする。

26 気象警報の発表と授業休講・試験延期等の措置

気象庁より大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪のいずれかの気象警報が発表された場合は、次の基準による。ただし、台風や大雪など、気象状況が時間の経過とともに悪化し、数時間後には警報の発令が十分予測される場合、全学休講の措置を取ることがある。

(1) 西早稲田キャンパス、戸山キャンパス、大久保キャンパス、日本橋キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

- ① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、23区西部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。
- ② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、23区西部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 気象警報上、東京地方は23区東部・23区西部・多摩北部・多摩南部・多摩西部に分けられており伊豆諸島・小笠原諸島は含まれない。新宿区・中央区は、23区西部に含まれる。「23区西部が警報下に置かれる」とは、①東京全域、②23区東部および23区西部、③23区西部、のいずれかに警報が発表

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願出
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 東工エッセイコンテスト
18. 祭壇キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・読書室
21. LL・MM教室
22. コンピュータルーム
23. 実験施設
24. 総合健康センター
25. 交通機関の影響
26. 気象警報の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

された場合が該当する。多摩地区にのみ警報が発表されても休講等の措置はとらない。

(2) 所沢キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

- ① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、埼玉南部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。
- ② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、埼玉南部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 埼玉地方は埼玉南部（南中部・南東部・南西部）、埼玉北部（北東部・北西部）、秩父地方に分けられている。所沢は、埼玉南部（南中部）に含まれる。

(3) 東伏見キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

- ① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、多摩北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。
- ② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、多摩北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 東京地方は23区東部・23区西部・多摩北部・多摩南部・多摩西部に分けられており、東伏見（西東京市）は、多摩北部に含まれる。

(4) 本庄キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

- ① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、埼玉北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。
- ② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、埼玉北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 埼玉地方は埼玉南部（南中部・南東部・南西部）、埼玉北部（北東部・北西部）、秩父地方に分けられている。本庄は、埼玉北部（北西部）に含まれる。

上記の措置は、授業または試験始業時間90分前から授業または試験始業時間帯の途中で警報が解除された場合でも変更しない。該当キャンパスが警報下に置かれた場合は、科目設置箇所が判断を行う。

なお、気象警報が発令された場合の休講等の措置については、各箇所のホームページ等で周知する。

なお、警報とは、「重大な災害の恐れがある場合」に発表される。

(警報の種類) 暴風雪, 大雨, 洪水, 暴風, 大雪, 波浪, 高潮

〈警報情報の入手方法〉

1. NTT電話サービス (TEL.177)
2. 気象庁お天気相談室 (TEL.03-3212-8341 但し、9:00~17:00)
3. 気象庁お天気案内<東京地方> (TEL.03-3212-3301 但し、9:00~17:00)
4. 熊谷地方気象台テレホンサービス<埼玉地方> (TEL.0485-26-8415)
5. (財)日本気象協会ホームページ (<http://tenki.or.jp/>)
6. テレビ・ラジオ等のマスメディア

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工エソ オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. LL-MM 教室
22. コンピュ- ルーム
23. 実験施設
24. 総合健康 教育センター
25. 交通機関 の影響
26. 気象警報 の影響

V

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

付 録

1	早稲田大学学則（抜粋）	1. 学則(抜粋)
2	早わかりURL・電話番号	2. URL・電話番号
3	キャンパスマップ	3. キャンパスマップ
4	時間割作成用紙	4. 時間割作成用紙

1 早稲田大学学則（抜粋）

第1章 総則

第1条 本大学は学問の独立を全うし真理の探究と学理の応用に努め、深く専門の学芸を教授し、その普及を図るとともに、個性ゆたかにして教養高く、国家および社会の形成者として有能な人材を育成し、もって文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

第5条 本大学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年数は、8年を超えることができない。

第2章 学年、学期、休業日

第7条 本大学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。学年は次の2期に分ける。

前期 4月1日から9月20日まで

後期 9月21日から翌年3月31日まで

（学部暦参照、学部ホームページ参照）

第8条 定期休業日は次のとおりとする。

一 日曜日

二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

三 本大学創立記念日（10月21日）

四 夏季休業 8月上旬から9月20日まで

五 冬季休業 12月下旬から翌年1月7日まで

六 春季休業 2月中旬から3月31日まで

2 夏季、冬季、春季休業期間の変更または臨時の休業日については、その都度公示する。

第9条 休業中でも、特別の必要があるときは、授業をすることがある。

第3章 教育課程・授業科目・単位数

第10条 各学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、各学部は、その専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

第11条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

2 自由科目は、第52条に定める所定の単位数に算入しない。

3 他の学部に属する授業科目を選択科目または自由科目として履修することができる。

第12条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して定める。

第13条 講義科目および演習科目については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

I	特徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付録

1.	学則(抜粋)
2.	URL・電話番号
3.	キャンパスマップ
4.	時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

3 卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第15条 各学部の授業科目ならびにその授業期間、毎週授業時間および単位数は、学部要項Ⅱに記載のとおりとする。

第19条 教員の免許状を得ようとする者は、所属学部の科目のほかには教育学部に配置された教職課程の科目を履修しなければならない。

第23条 学生は毎学年または毎学期の始めに当該学年または学期に履修する科目を選定して所属の学部長の承認を得なければならない。

第6章 入学・休学・退学・転学・懲戒

第26条 入学時期は、毎学年または毎学期の始めとする。

第31条 入学または転入学、学士入学および編入学を許可された者は、大学が指定する入学手続期間内に、大学に別表1に定める入学金および最初の学期に係る授業料その他の学費を納め、所定の書類を提出しなければならない。

第32条 保証人は、父兄または独立の生計を営む者で確実に保証人としての責務を果し得る者でなければならない。保証人として不適当と認めるときは、その変更を命ずることができる。

第33条 保証人は、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について一切の責任に任じなければならない。

第34条 保証人が死亡し、またはその他の事由でその責務を尽し得ない場合には新たに保証人を選定して届けでなければならない。

第35条 保証人が住所を変更した場合には、直ちにその旨を届けでなければならない。

第36条 病気その他の理由で引続き2月以上出席することができない者は、その理由を具し、保証人連署で所属の学部長に願いで、その許可を得て休学することができる。病気を理由とする休学願には医師の診断書を添えなければならない。

第37条 休学は、当該学年限りとする。ただし、特別の事情のある場合には、引き続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は、連続して2年を超えることができない。

2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

第39条 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。

第40条 休学期間は、在学年数に算入しない。

第44条 病気その他の事故によって退学しようとする者は、理由を具し、保証人連署で願いでなければならない。

第45条 正当な理由で退学した者が再入学を志望したときは、選考の上これを許可することがある。この場合には、既修の科目の全部または一部を再び履修することがある。

第46条 学生が本大学の規則もしくは命令に背きまたは学生の本分に反する行為があったときは、懲戒処分に付することができる。懲戒は、譴責、停学、退学の3種とする。

第47条 次の各号の一に該当する者は、退学処分に付する。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者

1. 学則 (抜粋)
2. URL・電話番号
3. キャンパスマップ
4. 時間割作成用紙

- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7章 試験・卒業・称号

第49条 所定の科目を履修した者に対しては、毎学年末または毎学期末に試験を行い、合格した者に対しては、単位を与える。ただし、教授会において認められた科目については、平常点をもって試験に代えることができる。

2 前項の定期試験のほかに、各教授会の決議によって臨時に試験を行うことがある。

第50条 試験の方法は、筆記試験、口述試験および論文考査の3種とし、各教授会がこれを決定する。

第51条 試験（第49条の規定により平常点をもって試験に代える場合を含む。）の成績は、A⁺、A、B、CおよびFの五級に分かち、A⁺、A、BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる科目については、PおよびQの二級に分かち、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる

第52条 本大学に4年以上在学して所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者を卒業とし、学士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、所定の単位を優れた成績で修得したと各教授会が認めた場合に限り、3年以上在学すれば足りるものとする。

第53条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は、早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第8章 入学検定料・入学金・授業料・実験実習料・体育費・学生読書室・図書費・施設費等

第56条 学生は、第31条の場合を除き、次の各号に掲げる学期に係る「学費の納入と抹籍」に定める授業料その他の学費（以下「授業料等」という。）を当該各号に掲げる日までに大学に納めなければならない。

- 一 前期 4月15日
- 二 後期 10月1日

2 前項の規定にかかわらず、修業年限を超えて在学する者の授業料等の額および納入期日は、細則で定める。（学費の納入と抹籍参照）

第58条 既に納めた授業料等は、事情のいかんにかかわらず、これを返還しない。

第59条 学年の途中で退学した者でも、その学期の学費はこれを納めなければならない。

第60条 学費の納付を怠った者は、抹籍することがある。

学費未納による抹籍の取扱いに関する規程

（抹籍となる時期および取扱い）

第2条 別表1の学期欄に掲げる学期の授業料その他の学費（以下「授業料等」という。）を同表の納入期日欄に掲げる日までに納付しない者は、同表の自動的に抹籍となる日欄に掲げる日に自動的に抹籍とし、同表の退学とみなす日欄に掲げる日に遡り、退学とみなす。

2 前項の規定にかかわらず、授業料等の納入期日にその納付を怠った者が、別表1に定める自動的に抹籍となる日より前に、特別の事情によって抹籍の取扱いを願い出たときは、学院に属する学部または

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学期(抜粋)

2. URL・
電話番号

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録

研究科にあつては学院の教授会（当該教授会が学部運営委員会または研究科運営委員会の審議事項と定めた場合は研究科運営委員会）、いずれの学院にも属さない独立研究科にあつては研究科運営委員会（以下「教授会等」という。）の議を経て抹籍とし、別表1に定める日に遡り、退学とみなすことができる。

3 前項の規定による願出をする者は、保証人連署で願出しなければならない。
（未納学費を納入した者の取扱い）

第3条 第2条の規定の適用を受けた者が、未納学費を納入したときは、教授会等の議を経て、未納学費の納入期日の属する期までの学籍を認めることができる。ただし、抹籍となる日を超えることはできない。
（卒業または修了の要件を具備している者の抹籍の時期および取扱い）

第5条 卒業または修了の要件を具備しながら学費未納のため、卒業または修了を保留された者は、別表2に定める日に自動的に抹籍とし、別表2に定める日に遡り、退学とみなす。
（卒業または修了の要件を具備している者が未納学費を納入したときの取扱い）

第6条 前条の規定の適用を受けた者が未納学費を納入したときは、教授会等の議を経て、その納入した日より前の最も近い卒業期または修了期の卒業または修了とする。

別表1

学 期	納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
前 期	4月15日	9月20日	3月31日
後 期	10月1日	翌年の3月31日	9月20日

別表2

卒業・修了月日	学費の納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
3月15日	前年の10月1日	5月15日	前年の9月20日
9月15日	4月15日	11月15日	3月31日

1. 学則 (抜粋)
2. URL・電話番号
3. キャンパスマップ
4. 時間割作成用紙

2 早分かりURL・電話番号

要項やホームページを見ても理解できない場合のために、下記を紹介。

内 容	担当・掲載場所等	電話番号	URL, メールアドレス等
科目登録、試験、成績、証明書、サークル、学費、奨学金、留学、休学、退学等修学に関わることで質問したい。	教学支援課	03-5286-3002	gakumu@sci.waseda.ac.jp
入試、転科、教員の研究内容、カリキュラム体系、ホームページ、広報等に関わることで質問したい。	業務開発・入試課	03-5286-3003	gyoumu@sci.waseda.ac.jp
構内掲示、自転車駐輪、会議室管理・予約、T A、各種研究助成制度等で質問したい。	総務課	03-5286-3000	
Waseda-netの使用方法、パソコン全般について質問したい。	理工メディア	03-5286-3049	helpdesk@mse.waseda.ac.jp
英語の成績、履修方法について知りたい。	英語教育センターホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/ENGLISH/
勉強の進め方や卒業に必要な科目等、個人的にクラス担任と相談したい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
特定の教員と連絡が取りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
休講情報を知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www2.sci.waseda.ac.jp/LOCAL/kyuko/ (学内のみ参照可能)
端末などを廃棄したい。物が壊れている。	技術企画総務課	03-5286-3500	
怪我をした。頭痛がする。	総合健康教育センター 大久保分室	03-5286-3021	
留学生で、学生生活が不安だ I am an international student. Student life is uneasy.	国際交流支援室 International exchange support room	03-5286-3145	gakumu@sci.waseda.ac.jp
連絡バスの時刻表を知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/koho/bus.html
図書館の開室時間等について知りたい。	理工学図書館	03-5286-3084	riko-tosho@list.waseda.jp
生協の営業時間、生協での書籍販売、カフェテリアについて質問したい。	早稲田大学生協	03-3200-4206	info@wcoop.ne.jp
上記には当てはまらないが、質問がある。	理工学統合事務所代表	03-5286-3000	info@sci.waseda.ac.jp

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 学則(抜粋)
2. URL・電話番号
3. キャンパスマップ
4. 時間割作成用紙

3 キャンパスマップ

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録

- 1. 学則 (抜粋)
- 2. URL・電話番号
- 3. キャンパスマップ
- 4. 時間制作成用紙



物性計測センターラボ 55号館S棟地下1階	理工学統合事務所 51号館1階	第1端末室 Windows系 PC 106台 59号館4階南側	LL/MM教室 (第1, 第2) Windows系 PC 88台 52号館地下1階
マイクロテクノロジーラボ 55号館N棟地下1階	総合健康教育センター-大久保分室 51号館西側1階	第2端末室 Windows系 PC 44台 59号館4階南側	情報閲覧室 Windows系 PC 10台 53号館地下1階
映像情報ラボ 55号館4階	学生相談室 51号館西側1階	第3端末室 (E, W) Windows系 PC 82台 56号館1階104	製図・CAD室 Windows系 PC 208台 57号館1階
映像情報ライブラリー 54号館地下1階04	理工学図書館 51号館地下1階	第4端末室 UNIX系 PC 70台 61号館3階東側	
環境保全センター 55号館N棟地下1階	学生読書室 52号館, 53号館地下1階	第5端末室 UNIX系 PC 55台 61号館3階中央	
生協購買部, 書籍部 57号館地下1階	理工メディアセンター 59号館4階西	505端末室 Windows系 PC 24台 56号館5階505	
生協カフェテリア 56号館地下1階	学生ラウンジ 51号館西側2階		
生協レストラン 57号館地下1階			

学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工	創造理工	先進理工
<p>数学科 数学応用数理専攻 51号館17階07A</p>	<p>建築学科 建築学専攻 55号館N棟2階01</p>	<p>物理学科 物理学及应用物理学専攻 55号館N棟2階01</p>
<p>応用数理学科 数学応用数理専攻 60号館2階04</p>	<p>総合機械工学科 総合機械工学専攻 60号館2階08</p>	<p>応用物理学科 物理学及应用物理学専攻 55号館N棟2階01</p>
<p>情報理工学科 情報理工学専攻 60号館2階04</p>	<p>経営システム工学科 経営システム工学専攻 51号館13階00</p>	<p>化学・生命化学科 化学・生命化学専攻 65号館4階01A</p>
<p>機械科学・航空学科 機械科学専攻 60号館2階08</p>	<p>社会環境工学科 建設工学専攻 51号館17階07B</p>	<p>応用化学科 応用化学専攻 65号館4階01B</p>
<p>電子光システム学科 51号館10階07</p>	<p>環境資源工学科 地球・環境資源理工学専攻 51号館13階00</p>	<p>生命医科学科 生命医科学専攻 51号館10階07</p>
<p>表現工学科 51号館04階00</p>	<p>知財・産業社会政策領域</p>	<p>電気・情報生命工学 電気・情報生命専攻 55号館N棟2階01</p>
	<p>国際文化領域</p>	<p>生命理工学専攻 55号館N棟2階01</p>
		<p>ナノ理工学専攻 55号館N棟2階01</p>

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学則(抜粋)

2. URL・
電話番号

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

4 時間割作成用紙

【1年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【2年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【3年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【4年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学則 (抜粋)

2. URL・
電話番号

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学期(抜粋)

2. URL・電話番号

3. キャンパスマップ

4. 時間割作成用紙

【1年生】

	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【2年生】

	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【3年生】

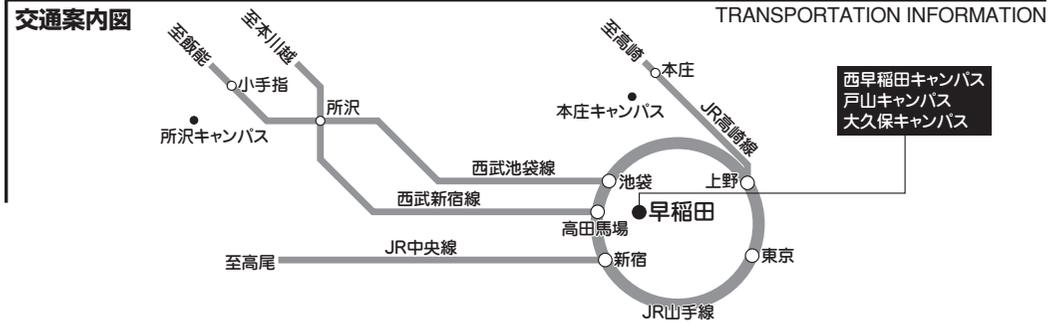
	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【4年生】

	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

交通案内図

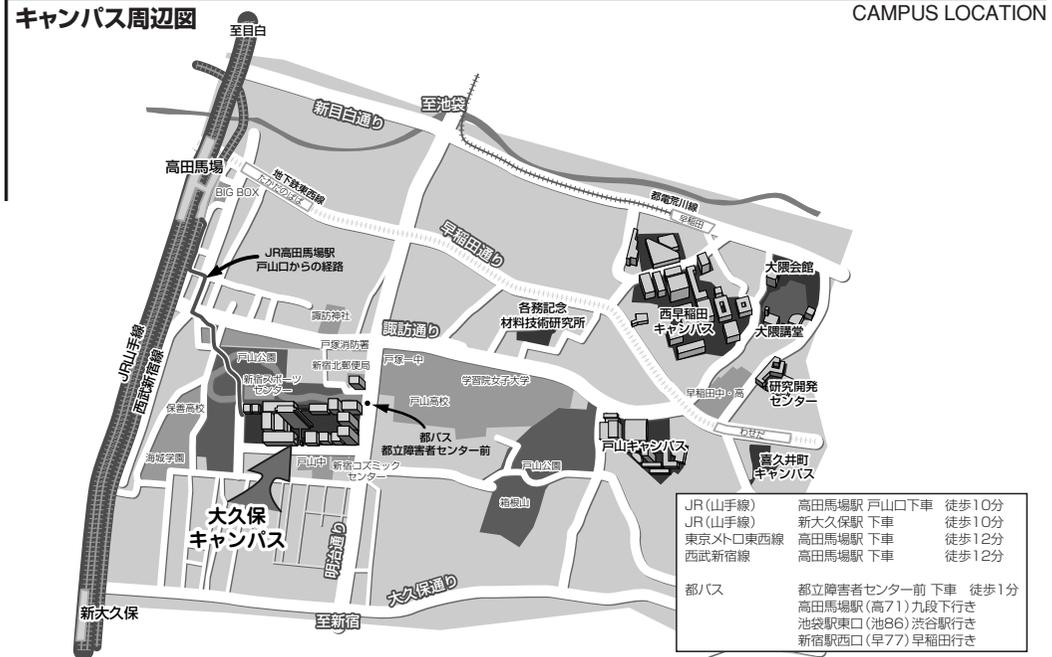
TRANSPORTATION INFORMATION



西早稲田キャンパス
戸山キャンパス
大久保キャンパス

キャンパス周辺図

CAMPUS LOCATION



JR (山手線)	高田馬場駅 戸山口下車	徒歩10分
JR (山手線)	新大久保駅 下車	徒歩10分
東京メトロ東西線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
西武新宿線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
都バス	都立障害者センター前 下車	徒歩1分
	高田馬場駅(高71)九段下行	
	池袋駅東口(池86)渋谷駅行き	
	新宿駅西口(早77)早稲田行き	

河田町キャンパス (2008年度利用開始予定)



都営大江戸線	牛込柳町より	徒歩 6分
都営新宿線	若松河田駅より	徒歩 6分
	曙橋駅より	徒歩 10分

早稲田大学 先進理工学部

School of Advanced Science and Engineering, Waseda University

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

info@sci.waseda.ac.jp

印 刷：株式会社研恒社

表紙デザイン：藪野 健